

Pass-a-Pass.

令和 5 年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

教 職 課 程

司 書 課 程

司書教諭課程

学校司書課程

学 芸 員 課 程

専修大学21世紀ビジョン 「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」

社会知性 (Socio-Intelligence)

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、
地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力
専修大学が創り育てる“知”

2020年9月16日、創立140周年

専修大学は、米国から帰国した4人の若者により、1880年(明治13年)に創立されました。日本で初めて、日本語で経済学と法律学を共に学べる高等教育機関「専修学校」の誕生でした。

以来、本学は創立者たちの建学時の精神を脈々と継承し、わが国の高等専門教育の確固たる歴史を築いてきました。

2020年に専修大学創立140周年を迎えた今、めざすは21世紀ビジョンとして掲げる「社会知性の開発」です。18歳人口が減少し、グローバル化やAIの台頭など社会構造が変化するなか、よりしなやかで力強い、社会で活躍できる多様な人材を輩出するため、さまざまな取組みを進めています。



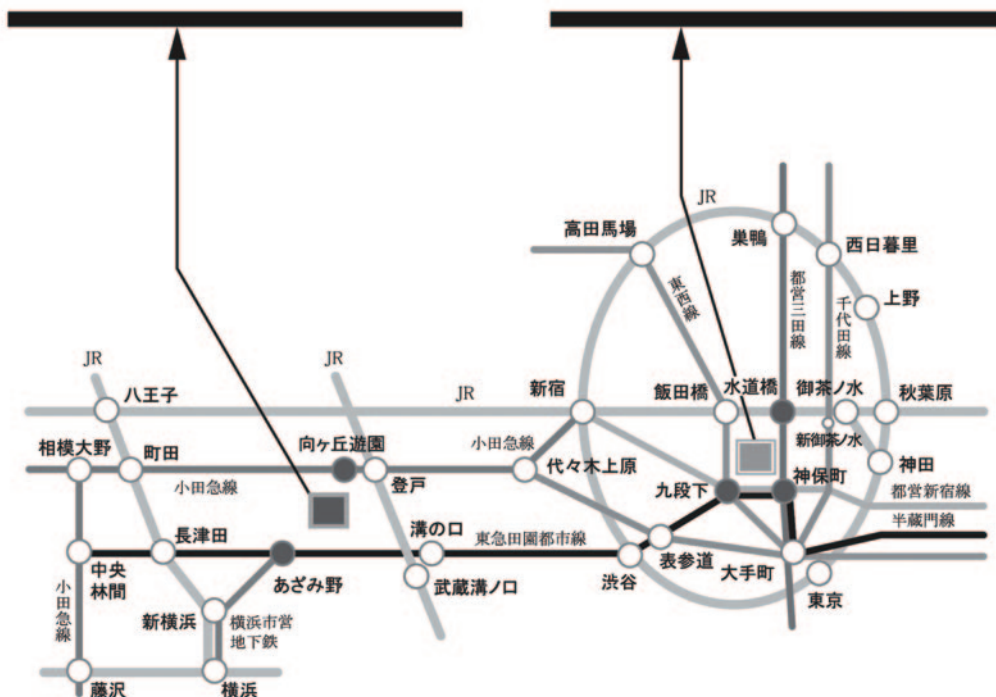
生田キャンパス

- 小田急線
向ヶ丘遊園駅(新宿から急行で約20分)
北口よりバス約10分または南口より徒歩14分
- 東急田園都市線・横浜市営地下鉄
あざみ野駅よりバス約35分
直通バス(学生専用)約20分



神田キャンパス

- JR 水道橋駅西口より徒歩7分
- 地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線
九段下駅「5」出口より徒歩3分
- 地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線
神保町駅「A2」出口より徒歩3分



「主体性」を重視した学校教育改革の中で

教職課程協議会委員長 法学部 教授 森田 司郎

日本の学校教育がこの10年ほどの間に経験している変化はかつてないほどに大きく、私個人的には明治期の近代教育制度の開始に匹敵するインパクトを残すのではないかと感じている。この理由として、現在の学校教育改革が「何を学ぶのか」（教育内容）と「どのように学ぶのか」（教育方法）の両面における大きな転換を目指していることが挙げられる。前者については、「これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現」させることが今回の学習指導要領改訂の主な目的である。後者については「主体的・対話的で深い学び」による授業改善をベースにした「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が目指されている。今回の改訂から新たに設けられた学習指導要領の前文に「これからの学校には（中略）一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする」とあるように、教育内容と教育方法の両面において、児童生徒の主体性を特に重視する教育を軸とした改革が進められている。

主体性を重視した教育の現状と課題について考えるうえで紹介したいエピソードが二つある。一つ目は、私の居住地の小中学校でも広がっている「ルールメイキング」の取り組みである。これは、全国に広がる校則・ルール見直しの動きに関連したもので、児童生徒が中心となって校則・ルールを見直すことで児童生徒主体の学校づくりを目指している。この中心となるのは、児童生徒と教師等による対話である。認定NPO法人カタリバ等の団体がメディア等で積極的に発信していることもあり、「ルールメイキング」に聞き覚えのある方も多いのではないかと。ここで紹介したいのは、「ルールメイキング」に取り組んでいる、ある小学校教員（高学年クラス担任）の葛藤である。この教員は「子どもたちが大人に言われてルールメイキングをすることは矛盾しており、違和感を覚える」と述べる。これは、学校の中で主体性を育てる方

法の適切さや、主体性を「育てる」こと自体の可能性に対する素朴かつ強力な疑問である。確かに、主体性の望ましさについて我々は一定の理解をしているのかもしれないが、その効果的な教育方法については手探りである。そのことに改めて気づかされるべきごとだった。

二つ目は、私が関わる高校でのキャリア教育の実践中に、ある教員から呈された意見である。主体的に考えて進路を選択することの重要性を伝える授業の中で、「社会人として必要な能力は忍耐力」であり「仕事は選ぶものではなく与えられるもので、そこで様々なことに耐えながら自分の能力を活かすことが重要だ」とあえて述べたこの教員は、「主体性」についての深い理解を促してくれた。すなわち、「主体性」には積極的な行動に直結する顕在的なものだけではなく、「自己実現のためにじっと耐えたり我慢したりする」ように内面的なものもあり、そのどちらも重要なのではないだろうか。我々は「主体性」に関しても、簡単に理解した気になることなく、その正体を的確に掴んで子どもたちに伝える努力をしなければならない。

現在進められている教育改革は、かつて「詰め込み教育」と言い表されたような受け身のスタイルから脱却し、予測困難な社会における主体的な課題解決力の育成を重視している。この成否は、我々が「主体性」の重層性や多様性に気づき、その適切な教育方法を見つけ出すことができるかどうかにかかっている。このこと自体が、我々に課された主体的な課題解決による、次世代の学びの創出である。専修大学での学びが、こうした挑戦に貢献できれば幸いであるし、そこに携わる我々も、主体的に新しい課題に挑戦する姿勢をもち続けていきたい。



ゼミ活動で行った、学生による学校でのキャリア教育の様子。

Passo a Passo

表題はイタリア語で「パッソ・ア・パッソ」と読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

目次

教職を目指す皆さんへ ―自分自身のキャリアを振り返って―

商学部 講師 池田 宏史	8
--------------------	---

教職課程

卒業生から	12
教員採用試験体験記	16
教育実習を終えて	22
介護等の体験を終えて	29
教職公開講座に出席して	30
専修大学教育学会に出席して	31
教職総仕上げ「教職実践演習」	32
専修大学附属高等学校から 私立専修大学附属高等学校 教諭 二井見 淳	33

司書・司書教諭・学校司書課程

「学校図書館メディアの構成」の授業を通して 経営学部 兼任講師 斎藤 純	36
図書館実習を終えて	38
卒業生から	39

学芸員課程

学芸業務と博物館の機能 ―地域博物館と大学博物館― くにたち郷土文化館 学芸員（嘱託）・昭和大学上條記念ミュージアム 学芸員 中根 聖可 ..	42
博物館実習を終えて	44

データ編（令和5年度）

教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修者数	48
教育職員免許状取得件数	50
司書・司書教諭・学校司書・学芸員資格単位取得者数	50
教育実習先一覧	51
図書館実習先一覧	53
博物館実習先一覧	53
主な就職先一覧（教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員）.....	54
資格課程年間行事表	59
教職相談実施結果	60
教員採用試験対策特別講義実施結果	61
教員採用候補者選考試験（教員採用試験）説明会開催結果	62
教職公開講座開催結果	63
司書課程図書館実習報告会・司書課程就職（進路）懇談会・ 学校司書課程講演会・受講説明会開催結果	64
学芸員課程「博物館実習（学内）」の展示実習報告	65
資格課程活動報告	66
資格課程教員紹介	67
編集後記	

■5つの資格課程

教職課程 … 中・高等学校の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者が教育職員免許状を取得するためのものであり、教員を養成することを目的としています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得(取得見込)した上で、都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

<本学で取得可能な免許状>(令和5年度入学者)

学 部	学 科	種 類 ・ 教 科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	現代経済学科	社会	公民
	生活環境経済学科	社会	公民
	国際経済学科	社会	地理歴史、公民
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民
	政治学科	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	社会	公民、商業、情報
	会計学科		商業
文学部	日本文学文化学科	国語	国語、書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史、公民
	歴史学科	社会	地理歴史、公民
	環境地理学科	社会	地理歴史、公民
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	数学	数学、情報
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史、公民
国際コミュニケーション学部	日本語学科	国語	国語

司書課程 … 「司書」公共・大学図書館等の専門的職員

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書館・資料室などで、様々な種類の資料を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職です。司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、電子メディアの活用法、出版流通の仕組み、子どもや障がいのある人々に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。常に社会状況に適合した図書館のあり方を展望し、他者と連携・協力して、現状を積極的に改革する意欲を持つことが必要です。

司書教諭課程 … 「司書教諭」学校図書館の専門的な業務を担う教員

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な業務に携わる教員です。司書教諭は教育の現場で、他の教職員と協力しながら、読書や図書館利用に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援する役割などを担っています。司書教諭の資格は教員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する場合には、教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

学校司書課程 … 「学校司書」学校図書館サービスを担う専門職員

「学校司書」は、小・中・高等学校等において、図書館資料の管理、資料の貸出や図書館利用ガイダンス、読書活動の推進、及び、授業の支援や児童・生徒の情報活用能力の育成などを行う役割を担います。2014年の学校図書館法の一部改正により、学校の設置者は学校司書の配置の促進に努めるものとされました。学校司書課程は、学校司書が職務を遂行するための基礎的な知識・技能を習得するための科目を、文部科学省が提示したモデルカリキュラムにもとづいて開講しています。

学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。また学芸員の資格を活かし、博物館をサポートする職種につくことも可能です。

好きなこと、チャレンジしたいことが、 キャンパスで楽しく身につくなんて！！



教員を目指す
あなたへ

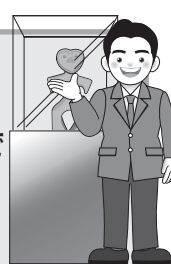
教職課程

図書館で働きたいなら



司書・司書教諭・学校司書課程

博物館・美術館で
働きたいなら



学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程ガイダンス

1～4年次
教職課程履修登録
4月上旬

1～4年次
司書課程
学校司書課程
履修登録
4月上旬

1～4年次
司書教諭課程
履修登録
4月上旬

1～4年次
学芸員課程
履修登録
4月上旬

3・4年次
介護等の体験
(中学校教諭免許状取得希望者)
5月下旬～3月上旬

4年次
教育実習
5月～11月

卒業時（事前に申請した者）
教員免許状の交付
3月

3・4年次
図書館実習
(希望者)
8月～11月

卒業時（希望者）
司書資格取得証明
書・学校司書課程
修了証明書の申請
および交付

卒業後（事前に申請した者）
学校図書館
司書教諭講習修了証書
の交付

3・4年次
博物館実習
(館務実習)
7月～9月

卒業後（希望者）
学芸員資格取得証明書
の申請および交付

司書・司書教諭・学校司書課程サポート

司書課程就職（進路）懇談会 12月開催

図書館関係者をゲストに迎え、
図書館関連の就職や大学院進学に
ついて懇談をしています。

学芸員課程サポート

学芸員課程セミナーを開催

令和4年12月に第2回
学芸員課程セミナー「博物
館、学芸員のリアル」を開
催しました。

教職相談

教員をめざす学生を対象に教職相談を行っています。本気で教員をめざす学生はもちろんのこと、教員をめざすかどうか迷っている学生の相談も受け付けています。さらに希望者には、教員採用試験で求められる小論文作成や面接の方法などの指導を行っています。担当するのは、教員採用試験の実際を良く知る本学教職相談員（専任教員・名誉教授）のため、より実践的な指導を受けることができます。

玉川大学との連携による小学校教員養成特別プログラム

本学では、玉川大学と連携し、小学校教員養成特別プログラムを設けています。このプログラムにより、本学に在学したまま玉川大学通信教育課程の科目等履修生となり、免許状取得に必要な科目を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすことができます。

ただし、免許状取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加しなければなりません。

※経営学部ビジネスデザイン学科、商学部会計学科、文学部ジャーナリズム学科および国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科はこのプログラムの対象外です。

※このプログラムは小学校教諭二種免許状の取得を保証するものではありません。

教職公開講座 10月上旬開催

教職公開講座は、教員をめざす学生を対象にした入門講座です。年に1度、10月上旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招き学校の様子や教員採用試験の対策について話していただきます。また採用試験官の経験者を招き試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。この講座を受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校及び専修大学附属高等学校で、教科担当教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる「教職版インターンシップ」と言える貴重な制度です。

研修は、原則として半期または通年の、特定の曜日に行われます。

教員採用試験対策講座（エクステンションセンター主催講座）ガイダンス：4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めるとしてもどのように対策を進めればよいかわからず戸惑うことが少なくありません。本学では本気で教員をめざす者を対象に、教員採用試験対策講座を開講しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生及び卒業生です。授業期間中は土曜日に実施しています。受験指導専門学校と提携していますが、経済的に大きな負担とならない受講料の設定となっています。1年間を通じて計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

教員を目指す

国公立・私立学校の教員になるためには教育職員免許状が必要です。

教員

教員に求められる総合力を養う教職課程

国公立・私立学校を問わず、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、幼稚園の教諭及び養護・栄養教諭になるには、各校種・教科ごとの教育職員免許状が必要です（小学校の場合、全科又は専科）。免許状は、大学等において学士の学位等の基礎資格を得るとともに、文部科学大臣が認定した課程において所定の

教科及び教職に関する科目の単位を修得し、申請書類等の審査を受けて適格であると認められた者に授与権者（都道府県教育委員会）から授与されます。ただしその後、教員として採用されるには、以下のような流れがあります。

〔公立学校の場合〕 教員採用試験の出願から採用までの流れ

募集要項配布 (3月下旬～5月下旬)

募集要項によって初めてその年の試験科目や試験日程が発表されます。販売されていないので都道府県・政令指定都市の教育委員会に問い合わせる必要があります。

受験願書受付 (4月上旬～6月下旬)

必要書類をすべて揃えて、教育委員会へ提出します。提出方法は郵送の場合もあれば、直接持参しなければならない場合もあります。近年では電子申請による方法も増えてきています。

1 次試験 (7月上旬～下旬)

全国的に筆記試験を中心に行われます。ただし、都道府県・政令指定都市によって試験科目は異なります。近年では実施時期を前倒ししたり、一部の試験を3年時に受験できることもあります。

1 次試験合格発表 (7月下旬～9月上旬)

受験者宛に郵送にて結果が通知されます。開示請求により、総成績のランクなど、通知より詳細な結果を知ることのできる都道府県・政令指定都市もあります。

2 次試験 (8月上旬～9月下旬)

日程は都道府県・政令指定都市によって異なります。内容は人物評価に関する面接や模擬授業などが中心ですが、論文試験、実技試験、場面指導、適性検査なども行われます。

2 次試験合格発表 (9月中旬～10月下旬)

2 次試験に合格すると、名簿登載が決まります。ほとんどの場合、合格発表は郵送です。ランク登載の場合はそのランクも表記されています。

採用内定 (10月上旬～翌3月下旬)

合格してから教育委員会や学校長による面接などを経て、赴任校が決まります。実際に採用が確定するのは10月上旬から翌3月下旬にかけてです。

教員として勤務

(4月1日～)

教員採用試験の内容

教員採用試験では、基本的に次の5つの試験があります。

【論文試験】

教育論や実践的な指導方法のテーマを課し、受験者の人格や教師としての考え方・資質を問う試験として、面接試験と同じく重要視されています。

【筆記試験】

教養試験及び各教科の専門試験が行われます。教養試験は、教職教養と一般教養からなり、ほとんどの都道府県・政令指定都市が両方の試験を課していますが、片方だけを課するところもあります。

【実技試験】

小学校の音楽や体育、中学校・高校の英語・書道・音楽・家庭・保健体育・工業・商業などで行われます。主に、その教科に関わる基本的な技術・技能を見る試験ですが、情報化の進展に伴い、全志願者にパソコンの操作を課す自治体が増えていきます。

【面接試験】

個人面接・集団面接・集団討論・模擬授業・場面指導など様々な形態で行われます。最近では人物的要素を重視する傾向が高まり、選考結果に占める面接試験のウエイトが大きくなってきています。そのため、1次・2次を通して2～3回面接を行う都道府県・政令指定都市も見られるようになり、特に模擬授業は約7割の都道府県・政令指定都市が取り入れています。

【適性検査】

教員に要求される資質を客観的に調べるために実施されます。主に、内田クレベリン精神検査、Y-G 性格検査、ロールシャッハ・テストなどが用いられます。

〔採用試験後の流れ〕

公立学校の教員採用試験は、正式には「教員採用候補者選考試験（検査）」といい、教員として採用する候補者として適した人材を選抜するものです。しかしながら、この教員採用試験に合格したからといって採用されるわけではありません。この点が民間企業と異なる点であり、この試験の大きな特色といえるでしょう。最終合格発表（2 次試験合

格発表）は都道府県・政令指定都市によっても異なりますが、概ね9月中旬～10月下旬頃に行われます。しかしその頃は、まだ、次年度の児童・生徒数や退職教員数などが確定していない場合が多く、地域や校種、教科ごとに必要な教員数が判明していない状態です。そのため、合格者数が実際に必要となる教員数を上回れば、合格しても採用され

ないという状態が生まれてきます。しかし仮に内定が出なくても、合格後1年以内に欠員が生じた場合は中途採用もあるほか、1年間採用されなかった場合でも次年度の1次試験が免除される都道府県・政令指定都市も見られます。

〔私立学校の場合〕

採用までの流れ

それぞれに独自の教育方針や校風がある私立学校では、選考方法や基準も各校により異なります。したがって、志望に当たっては各私立学校に対して、その年の募集計画などを各自で直接確認することになります。また、各都道府県に設置されている私学協会が私学教員適性検査を実施していたり、窓口となって募集している場合もあります。その他、大学の求人票やインターネットなどにより公募を行っているケースもあります。

司書・司書教諭・学校司書・学芸員を目指す

司 書

【図書館の実践的な知識が身につく司書課程】

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の調査部、資料室などで、資料（図書、雑誌、CD や DVD 等）を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職です。

資格を取得するには、大学・短大の司書課程を履修するか、司書講習を受講する方法があります。司書課程を開講している大学・短大は少なくありません。その多くは、私立の大学・短大で、通信制大学もあります。

司書課程・司書講習では、子どもの読書、資料の選び方や整理の仕方、情報検索、著作権、出版流通の仕組みなど、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。

生涯学習社会・情報社会といわれる今日、司書の果たすべき役割は非常に大きく、熱意と素養のある人材が求められています。

【就 職】

1. 公共図書館

各自治体で実施される公務員採用試験を受験します。「司書職」として採用される場合と、「一般行政職」として採用された後に図書館に配属される場合があります。前者の場合には、採用時までに司書の資格を取得している必要があります。いずれの場合でも非常に高い競争率です。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

2. 国立国会図書館

国立国会図書館職員総合職試験又は一般職試験（大卒程度試験）を受験します。試験内容はともに大学卒業程度ですが、総合職のほうが難易度が高いです。1 次試験は教養試験（多肢選択式）、2 次試験は専門試験（記述式）・英語試験（記述式）・小論文試験（総合職のみ）・性格検査・個別面接、3 次試験は集団討論（総合職のみ）・個別面接です。

3. 国立大学法人等の図書館

地区ごと（北海道、東北、関東甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州）に実施される国立大学法人等職員採用試験を受験します。大学職員の「事務系（図書）」として働くことになります。試験内容は、1 次試験が教養試験多肢選択式（大学卒業程度）、2 次試験が専門試験および各大学での面接です。

4. 私立大学等の図書館

それぞれ独自の方法で採用しています。求人募集は、大学のホームページ等で行われています。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

司 書 教 諭

【学校図書館を活かす司書教諭課程】

「司書教諭」とは、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の専門的な仕事に携わる教員です。司書教諭は学校教育の現場で他の教職員と協力しながら、学校図書館の資料提供はもとより、直接児童・生徒たちに図書館や読書に関する指導や、教員に対して図書館や図書館資料を活用した授業展開ができるよう支援するといった役割を担っています。

司書教諭の資格は、教育職員免許状を持つ者にのみ認められるので、教職課程と司書教諭課程のある大学で必要な科目の単位を修得し卒業すると「教育職員免許状」と「司書教諭」の資格が得られます。平成15年度から12学級以上の学校では必ず司書教諭を配置することになりました。有資格者へのニーズは高いです。

※経営学部ビジネスデザイン学科、文学部ジャーナリズム学科および国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科では司書教諭の資格を取得することはできません。

【就 職】

公立学校の場合は、教員採用試験を受験しなければなりません。私立学校の場合は、それぞれ独自の方法で採用を実施しています。詳しくは P6 を参照してください。

学 校 司 書

【学校図書館を支える学校司書課程】

「学校司書」とは、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の職務に司書教諭と協働しながら従事する職員です。学校司書は、学校および学校図書館において、図書館資料の管理などの「間接的支援」に関する職務、閲覧や貸出、レファレンスサービスなどの「直接的支援」に関する職務、授業の支援や情報活用能力の育成などの「教育指導への支援」に関する職務の3つの職務を担っています。

学校司書課程では、上記の3つの職務に必要な知識・技能を身につけるための諸科目を設けています。これらの科目の多くは、司書課程、司書教諭課程と乗り入れており、司書、司書教諭という関連する資格も取得しやすいように配慮しています。

学校司書の配置は努力義務ではあるものの、学校図書館の運営の改善と向上、児童生徒の学習活動や読書活動での活用への期待から、配置する学校は増加傾向にあります。こうした期待に応えられる人材が求められています。

【就 職】

公立学校の場合は、各自治体での採用試験を受験します。正規職員は、司書の採用試験の合格者が学校に配置される状況があります。私立学校の場合は、それぞれ独自の方法で採用しています。嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。求人募集は、ホームページ等で行われています。

学 芸 員

【博物館で専門職となる学芸員課程】

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、文書館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

学芸員の仕事は人気が高いうえ、募集もわずかなので、実際に学芸員の職につくのは相当な難関といわれています。ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門分野の知識を高めておくことも大切です。

【就 職】

1. 公立博物館の場合

学芸員については定期的に採用試験があるわけではなく、採用は欠員の補充か、博物館の新設・拡充の際に行われます。その場合は教員や一般職員（公務員）として採用した人の中から、学芸員資格を持っている人を部署の配属・異動という形で学芸員に採用することがあります。また県立や大都市の博物館は、一般の採用試験（公務員採用試験）とは別に学芸員の採用試験を実施することが多く、採用試験の実施はその自治体の広報紙やホームページで公開されます。

採用試験では一般教養のほかに、博物館学の知識と、募集する専門分野に関して広く深い知識や技能が問われます。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

2. 私立博物館の場合

それぞれ独自の方法で採用を実施しています。

教職を目指す皆さんへ —自分自身のキャリアを振り返って—

商学部 講師 池田 宏史

専修大学商学部を卒業して30年近く経ったが、この4月から母校に戻って働くこととなった。母校で退職を迎えた先生が「母校で仕事ができるということは本当に素晴らしいこと」としみじみとおっしゃっていたが、図らずもその立場になり、本当にありがたいことである。また、学生はみな後輩だと思うと「みっともないことはできない」と身の引き締まる思いを強く感じている。

1. 自分自身のキャリアについて

(1) 生徒・学生の頃

中学生の頃は部活動が大好きで、将来はできれば学校の先生になるかコーチになって部活の指導に関わりたいと思っていた。しかしながら、両親は手に職をつけて欲しいと考えており、自宅近くの商業高校に進学した。

高校では、就職を希望していたが、進路を決める三者面談が終わった時には大学進学となった。商業科目どっぷりの私は今更一般入試は無理、推薦入試で受験できる学校、ということで専修大学を受験した。私の世代は、大学で何をやりたいか、を考えて受験する生徒は少数派であった。

大学の4年間は、教職課程の授業やゼミはそれなりに努力したが、他の科目の授業に対してはあまり努力していなかった。高校商業の教員免許は取得できたものの、もっと頑張っておけばよかった、という後悔はいまだにある。

(2) 大学卒業後の私学での3年間

1年目は、私立高校で非常勤講師をしながら、高校公民の免許を取得するために専修大学の二部に科目等履修生として通った。残念ながら単位を落とした科目があり、免許取得には至らなかった。

この年、専修大学教育学会に入会し、ゼミの先生のアドバイスで名刺を持参し、特に私学の先生を探してご挨拶して回ったのを覚えている。

卒業前の3月に資格課程の窓口に進路の報告に出向き、4月からの勤務先と専任を希望していることを報告したところ、8月ごろに資格課程の担当の方から専任の求人が出たとの連絡をいただき、次年度から別の私学で専任として勤務することとなった。

専任の学校では、授業がなかなか成立しない状態であった。日々の授業や生徒指導で生じた問題や感じた課題を解決するために、毎日のように本屋に立ち寄り、自分が今取り組もうと思っている課題の解決に最も必要と感じた本や雑誌を1冊購入し、電車の中で2日に1冊のペースで読み進めながら、どうやったらうまくいくかを考え日々実践した。授業改善を繰り返し、授業を成り立たせることが死活問題であったとも言える。それが採用試験の面接や模擬授業、集団討論のときに大いに役立った。

(3) 公立高校1校目の定時制課程

定時制課程ということもあり多様な生徒と一緒に学んでいたが、生徒が抱える課題も様々であった。学習面言えば、科目の学習内容に関心のない生徒に、いかに関心を持たせるか、学習内容の理解につなげるか、その授業1回だけでなく継続した学びにつなげていくか、頭を抱えることばかりであった。欠席日数が多い生徒も多数おり、知識を積み上げていくことの難しさを感じながらの授業であった。しんどい場面もたくさんあったが、前任校での苦労を生かしたと考えている。

また、午後の時間が空いていたこともあり、研究会や高体連など活動にも参加した。校務をこなした上で、さらに学校外の活動もしている先生方と一緒にさせていただいたのは、本当に良い思い出であり、良い勉強になった。ご縁をいただいて、次の学校以降もいろいろな学校外の仕事に携わらせていただいた。

(4) 公立高校2校目の総合学科高校

総合学科では、教科の指導だけではなく、キャリア教育にどっぷりつかることになった。生徒たちも学校説明会等で総合学科の説明を受け、納得した上で（大のお気に入りになって）入学しており、総合学科やキャリア教育についてきちんと語れるか、あるいは、教科指導や部活指導で圧倒的な力量がないと生徒からは評価してもらえないという学校であった。さて、どこを頑張ろうかな、と考えたときに、総合学科を軸としながらキャリア教育に力を入れるのが自分には向いているかなと思い、その方向性で取り組んでいった。

商業科の学習を中心に学んだ生徒の受験は、AO入試（現、総合型選抜）と推薦入試がほとんどであった。指導していて、どちらもキャリア教育にしっかり取り組んでいると、合格しやすい試験という印象を持った。

(5) 公立高校3校目以降

3、4校目は商業高校であるが、伝統校であり、資格を取得させ、それを生かして進路活動に繋いでいくという指導方針が明確であった。

3校目の学校では、資格取得、特に日本商工会議所の簿記検定取得を希望している生徒をいかに合格に導くかについて、勤務した7

年間じっくり取り組むことができた。また、3年間の担任経験で学校全体の動きをよく理解しているということで、最後の3年間は生徒指導主任、教務主任、進路指導主任を順に担当した。やりたくなかった、というのが本音なのだが、年齢的にも40歳を過ぎ「引き受けないといけないかな」と思って、お引き受けした。

4校目では在職6年間で、学年と教務部を3年間ずつ担当した。その中で学年主任、商業科主任を担当した。そして、5校目では教務主任を担当した。

分掌の主任や若手の先生を指導する立場になり、分掌の仕事の進め方として、次のように指導してきた。①担当者は、教員あるいは生徒を一番初めに動かす約2か月前に作業を開始する。②初めに計画を立て、急ぎ必要な人員を確保する。この2点を押さえれば概ね業務は計画通りに回っていくので少ない労力で運営でき、授業の準備等の重要な業務に時間を割り振ったり、業務の平準化を図ることができる。

2. 教職を目指す学生のみなさんへ

(1) 大学の授業全般について

高校までの基礎学力や一般教養科目、学部の必修科目を学びの土台とし、大学で勉強している科目と自分の志望教科の指導項目とを関連付けて学びを進めることが大切である。在学中にどれだけ教科の知識を広げ、深めたかで授業の準備の必要時間が大きく変わってくる。教科及び教科の指導法に関する科目については全般的に学習した上で、自分の興味、関心や必要性に応じて学びを広げたり深めたりすることが大切である。

(2) ゼミについて

ゼミゼミに入り、大学での学びのまとめとして卒業論文の執筆を経験して欲しい。なぜならば、ゼミでの研究活動は、中学校の「総合的な学習の時間」や高等学校の「総合的な探究の時間」でおこなう探究活動とあまり差がなく、指導する立場になったときにその経験を生かすことができるからである。

そして、教員になってからでもよいので、できれば修士課程を修了していることが望ましい。私の周囲でも修士課程を修了している若手・中堅教員の割合が年々増えてきている印象がある。また、各教科・科目において「主体的・対話的で深い学び」の実現のためにも、ゼミでの学びや、大学院の高いレベルの学びを経験することは重要である。

(3) 一次試験

教員採用試験の教職教養の問題は、考えさせて思考力や判断力を問うというよりは、教育に関連する法規や、学習指導要領、中教審の答申、文科省が発出した通知等からの出題が多いように感じる。今後もその傾向は強まるだろう。受検者の「知識・技能」は筆記で、小論文や面接では「知識・技能」を含め、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性等」の部分を評価するのだろう。

(4) 教員採用試験二次試験対策特別講義

今回、4日間すべて参加したが、講義、個人面接、集団面接、集団討論、模擬授業と盛りだくさんであった。また、学生が受検する自治体の傾向に合わせて練習がおこなわれた。

ボランティア活動や小学校や中

学校での体験活動に参加していたり、教育委員会が行っている教師塾に参加していたり、塾講師をしているなど、有償・無償の教育活動に取り組んできた学生が多く、意識を高く持って学生生活を送ってきたことがよく分かった。

二次試験の面接等の内容は、短期間の練習でかなり伸びるので、できるだけ参加するとよいだろう。

(5) 受験に向けて

今年度は3年生に受験機会を設けている自治体がある。また、6月に試験を行う自治体もあり、年度末の余裕のある時に受験のスケジュールを組み立て、できるだけ受験機会を増やした方がよいだろう。

3. まとめ

私自身のキャリアを考えると、頼まれたりお誘いを受けた仕事は「やってくださる方がどなたもいらっしゃらなければお引き受けします」と申し上げ、先約の仕事と重ならない限りお引き受けするようにしてきた。その結果、いろいろな経験を積ませていただき、現在に至っている。今回、教職を目指す皆さんに向けて、教員になって5年目くらいまでは役に立ちそうな内容を、と思って執筆した。

キャリアに関する指導をしていると、「私はこういう経験をしたので、こう思う」というように、自己開示をしなければ生徒にメッセージが伝わらないことが多かった。そのような訳で今回、自己開示多め、で執筆した次第である。



10 号館（神田キャンパス）

教職課程



10 号館（生田キャンパス）

卒業生から（国語）

東京都立五日市高等学校 教諭 高平 澄佳（令和4年度文学部日本語学科卒業）

〇はじめに

こんにちは。私は令和4年度に卒業し、東京都立五日市高等学校で教員をしております。教員経験は浅いですが、少しでも皆様のために有益なことをお伝えできればと思います。

〇採用から夏休みまでの流れ

私は1月に勤務校が決まり、任用前体験に行きました。学校の雰囲気を感じたり、指導教諭と話をし、担当するであろう科目や分掌を知ることができました。春休みが終わると授業が始まり、その他の役割での仕事も本格化します。私の場合には、基本的に日中は授業やその他の雑務を行い、生徒が帰ってから明日以降の授業準備に入ります。慣れない仕事の中で生徒の興味関心や学習レベルを考えながら授業を作るのは大変ですが、徐々にリズムがつかめるようになりました。また、並行して分掌の仕事も行います。私の勤務校では、担任を持たない先生はいずれかの分掌に入ることになっており、私は進路指導部として仕事をしています。定期考査期間は問題作成と採点に時間がかかるものの、授業がない分普段できない仕事ができます。また、夏休み期間には、2学期以降の授業準備を行ったり、休みを取ってリフレッシュしたりします。夏休み中には研修もあり、他校の先生方との交流機会にもなります。ここまでが私がこの半年で体験してきた大まかな流れです。

〇私が感じたこと

私がこの半年で感じたことは教員の仕事は想像以上に多岐にわたる、ということです。担任を持つと、自分の教科以外にHRや総合等の指導があることはもちろん、生徒の心身のケアや家庭、関連施設等との連携を行います。これらの仕事には想像以上の手間や時間がかかっていることを知りました。また、分掌の仕事も、外部との連携、特別活動の準備、資料の作成など、多くのやるべきことがあると感じました。はじめは、授業が1つの仕事、分掌等はもう1つの仕事、さらに部活があればもう1つと、ひとりの先生方が3人

分働いているように見え、私にはできないと感じたこともあります。しかし、その3つそれぞれから生徒の新しい一面に気づけたり、授業で担当しない生徒とも関わることでできたりすることが次第に喜びに感じられてきました。皆さんの中には教員の仕事に対して、「大変」というイメージを持っている方も多いと思います。確かに大変です。想像していた仕事内容と違う部分もたくさんあります。ただ一方で、想像していた以上の楽しみや喜びもあります。私は教員以外の仕事に就いたこともなければ、教員歴も浅いですが、きっと大変でない仕事などないと思います。その中で教員という仕事は生徒の成長を感じられたり、生徒と将来を描くことができ、それが「大変」を超える喜びなのだろうと今、感じています。

〇さいごに

私は教員として生徒の前に出るときに大切にしていることがあります。それは「楽しむ」ことです。教員は多くの生徒にとって家族の次に身近な大人です。その大人が楽しそうに働いている姿は、生徒にとって将来への希望や憧れにつながると思います。そこで最後に皆さんに伝えたいことは、「大学での生活を楽しんでください」ということです。専修大学では教育学部がない代わりに、教科の専門知識を得る機会が多くあるはずです。自分がその教科や分野を好きになり、その魅力を楽しそうに生徒に伝える。これは言葉以上に生徒の興味や意欲を高めるはずです。採用試験も、採用された後も、「大変」が多く待ち受けるでしょうが、それを越える喜びに出会えるよう、頑張ってください。



0. はじめに

皆さん、こんにちは。私は現在、神奈川県伊勢原市にある私立自修館中等教育学校に英語科の教員として勤務しています。早いもので、自修館に勤務するようになって11年が過ぎました。自修館は中等教育学校、つまり中高一貫の学校です。1クラス約30名、1学年が4クラス、学年の生徒全体でも120名ほどで、6年間を一緒に過ごします。前期課程（中学年代）では担任・副担任の2名で1クラスを運営します。そのため、生徒と先生の距離が近く、アットホームな雰囲気の学校となっています。

本稿では「教科指導」と「生徒指導」の2点について、私の経験を記していきたいと思います。学生のみなさんの将来の参考になれば幸いです。

1. 教科指導について

「まずは授業をきちんと行うこと。それが基本中の基本。」教員になった初年度、当時の学年主任の先生から教えていただきま



ホームルームでの一場面です。した。今でもそのことを肝に銘じて授業を行っています。一方、他の先生からは「教員が忙しくなると、まず手を抜くのが授業」とも教わりました。これもその通りで、私も何度も後悔・反省をしてきました。

私は2つの目標を心に留めて授業に臨んでいます。1つ目は、生徒の英語力を向上させることです。これは当然の事なのですが、案外気づかないうちに生徒の英語力向上につながっていない内容や活動が授業に含まれることがあるように感じます。生徒の様子を見ながら、適切な学習へと改善していきたいと考えています。2つ目は、生徒が、できれば楽しんで授業に取り組むようにすることです。生徒の人生の50分間を1つの授業で共有します。できればそれが有意義なものであってほしい。「先生、今日本当はディズニーランドに行く予定だったけど、先生の授業の方が楽しいから、英語の勉強しに来た」と生徒から言われてみたいと思っています（もちろん1度もありませんが）。

自修館では、同じ教員が入学時から卒業までずっと持ち上がりで英語を担当することが多いです。そのため、生徒個々の英語の得意・不得意だけにとどまらず、例えば「Aさんはプレゼンテーションが得意」「Bさんは

単語を覚えるのが苦手」など、細かな学習状況まで把握することができます。そのため授業外の休み時間や放課後に生徒と英語の話をする機会がたくさんあります。授業に加え、これらの時間を大切にして生徒たちが自主的に学習できるようにサポートしています。

2. 生徒指導について

教科指導と生徒指導は、車の両輪のようなものだと思われました。確かにその通りで、どちらが欠けても生徒からの信頼が得られなくなってしまうと思います。

私が生徒と接する時に一番心掛けているのは、どの生徒とも誠実にコミュニケーションを取ることです。そして実際には、これまでの人生の中で身につけてきたありとあらゆるコミュニケーションの技術を使って、生徒指導に当たるようにしています。生徒の一番身近にいる大人が先生です。私はもちろん完璧な人間ではありませんが、少なくとも人生を楽しみながら生きている大人の見本の一人になれるように心がけて、校舎内を歩いています。

クラス担任を初めて担当した3年C組の合唱コンクール。何を指導していいのかわからず、とにかく生徒と一緒に過ごし、昼休みや放課後に合唱練習をしてきました。トラブルもたくさんありました。そして本番当日、伊勢原市民文化会館の暗い舞台袖で、クラスのみなで出番を待っていました。そして3年C組がコールされると、生徒たちは緊張した面持ちで、光り輝く舞台へと歩いていきました。暗い舞台袖に残されたのは担任である私だけ。その時に、「そうか、教員の仕事は生徒を人生の表舞台で輝かせることなんだ。教員の仕事は裏方なんだ。」と深く実感しました。

学校の先生は間違いなく大変な仕事ですが、いつも必ず生徒が助けてくれます。それが一番のやりがいなのかもしれません。



今年度の5年A組のクラス目標「みんなこっちを向いて顔を上げて！」は私の口癖です。

3. 最後に

英語の教員として、英語を“like”ではなく“love”であるのかどうか、いつも自問しています。教員志望の学生のみなさんには、専修大学でたくさん英語について学んでほしいと願っています。ぜひ素敵な先生になってください。

卒業生から（地理歴史）

静岡県立富士宮北高等学校 教諭 竹本 遥（平成28年度文学部歴史学科卒業）

【はじめに】

皆さん、初めまして。私は現在静岡県立富士宮北高等学校で社会科の教諭として勤務しています。昨年度新採用として本校に着任し、2年目を迎えました。まだまだ未熟で皆さんの為になるお話ができるかわかりませんが、少しでも皆さんの参考になれば嬉しいです。

【教員となって感じたこと】

私は現在、高校1年生の担任をさせて頂いています。毎日が初めての連続で戸惑うばかりです。昨年からずっと目まぐるしい日々が続いていますが、教員をやっているよかったなと思えるのは自分自身が人として成長できたと思えたことです。ここ1、2年という短い時間ではありますがこんなにも人として鍛えてもらった時間は今まで他にありません。常に、人としての自己成長が求められる苦しい現場である一方で、その環境から得られたものは他のどんな経験にも変え難い貴重な経験です。また今年は、担任をもったことで生徒たちと関わる時間が増え授業だけでは見られない生徒の様子や変化を近くで見ることができていることを嬉しく思っています。

【学級経営について】

私はクラス目標として「進取果敢」と「共存共栄」を掲げています。「進取」とは意欲的に物事に取り組むことを意味し、「果敢」は恐れずに行うことを意味しています。何事にも積極的に取り組み、また共に助け合うことができるクラスを目指しています。

初めて担任をもって約6ヶ月（9月現在）が経ちました。

この6ヶ月で学んだことは、生徒と信頼関係を築くことの重要さです。どんなに「おもしろい授業」や「わかりやすい授業」"だけ"を届け、信頼関係は築けません。教師として、信頼されるためには、授業を一生懸命することは必要条件ではあるけれど、十分条件ではありません。前提として、地道に、人として信頼される人間である努力を続けることが大切だと実感しました。

掃除の時間は生徒と一緒に膝をついて雑巾掛けをすること、生徒に言ったことはまずは自分が率先してやること、生徒たちが困っていることを真剣に聞いてあげること。そんな小さな積み重ねで、少しずつ変化が出てきました。生徒が授業の準備

や片付けを手伝ってくれるようになったり、困っているときにサポートしてくれたりするようになってきました。

【授業について】

本年度は、1年生の歴史総合、2年生の日本史探究、3年生の日本史B（旧課程）を担当しています。

社会科は知識・理解の植え込みに陥りやすい教科です。どのようにして生徒の興味関心を引き出し、資料を活用して生徒の思考力を育てるかが私の課題です。

私が授業実践や研究を通して学んだことは、単元を貫く問をたてること（その単元を学ぶねらいを明確にすること）です。生徒が主体的に活動する授業を求められる今だからこそ今まで以上に教員自身が1時間（単元を通して）で「生徒に何を学ばせたいのか」を考える必要があると思います。そのために大切なのが教材研究です。「教材研究はやりすぎ」ということはない。」本当にそうだと思います。様々な角度からものごとを捉え、どのように授業展開すれば生徒の反応が良く、理解しやすいか試行錯誤する。計画、実践、反省の繰り返しです。私自身まだまだ授業の引き出しが少ないので、他の先生方の授業を見に行き勉強したりもします。

教育実習に行った際は、皆さんも多くの先生方の授業を見てみて下さい。

【終わりに】

教員となってまだ2年目ですが、怒涛の日々が過ぎている気がします。「嫌だな、辞めたい」なんて思う事も既に何度もあったりもします。しかし生徒たちの努力する姿や成長を見るとそんな考えも忘れてしまいます。

「進取果敢」クラス目標にも掲げていますが、私自身まだまだ未熟者。生徒たちと一緒に何事にもチャレンジして経験を積み重ねて行きたいと思います。

最後に池田貴将編訳『覚悟の磨き方 超訳 吉田松陰』の中から私の好きな一文を皆さんに。「逆境に礼を言う 鉄は何度も熱い火の中に入れて、何度も固い金槌で叩かれて、はじめて名剣に仕上がります。すばらしい人生の送り方もよく似ています。何度もくり返されるきわめて不都合で、ありがたい経験の数々が、旅路を美しく輝かせてくれるのです。」これから皆さんも大変な経験を沢山するでしょう。でも辛い時ほど進んでいる証拠かも知れません。自分の目標や夢に向かって突き進んでいって下さい。私も頑張ります。



卒業生から（小学校）

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課 長田 進（平成16年度法学部法律学科卒業）

はじめに

子供たちに「興味という種」をまくことができる教師になりたい。17年前、そんな夢を抱いて教師になりました。それから様々な経験を経て、現在、東京都教育庁で多くの子供たちのために、教育行政という仕事を通して関わっています。

今回は令和4年度に、所属校である江戸川区の小学校で実践したOJT（メンター方式）について紹介していきます。これから教師になろうと考えている皆さんに、何か伝わればと思います。

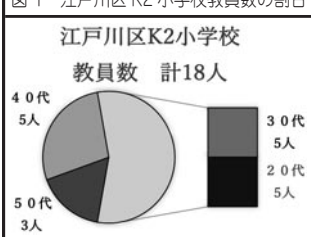
教育現場の実態

中央教育審議会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）」（2015）

の中でも、各学校における年齢構造のバランスが崩れ、教員としての知識・技能の伝承が課題であることが示されました。

実際に所属していた江戸川区のK2小学校でも同じことが言えて、ベテラン教員や中堅教員（助言をする人：メンター）が、異動や退職のため人数が減り、若手教員（助言される人：メンティ）が増えているという状態が続いています。若手教員の育成を継続して行うには、どうしたらいいのか、校内研修について考え直す必要性がありました。

図1 江戸川区K2小学校教員数の割合

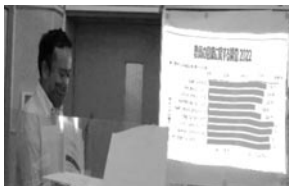


具体的な取り組み

まず行ったのは職員全体への事前自由記述アンケートです。そのアンケートによると、若手教員は「授業力向上と児童への支援」に困っていることが分かりました。またベテランや中堅教員も「若手教員に対し、どのように接すればいいのか分からない」といった若手教員への関わり方や、「若手教員（メンティ）の話を聞く時間がない」といった困り感が多く見られました。そこで①メンタリング（人材育成）の意識・意欲を高める研修②チームメンター・ペアメンター活動を進めることで、困り感に対し、改善できると考え取り組み始めました。

①メンタリングの意識・意欲を高める研修

研修を進めるためには、メンタリングが、なぜ必要なのか職員全体で共有することが必要です。そのために、自身の経験を振り返り、メンター・メンティとしての自覚を高める研修を行いました。メンタリングに関するいくつかの事例や質問を通して、ベテラン教員からは「若手の頃、授業を一緒に考えてくれた先輩がいた。それが今につながっている」「あの先輩の言葉を思い出した」など、当時お世話になった先輩（メンター）の存在を思い返す意見が多く出ました。中には「研究授業公開中、険しい顔をされると緊張した」など、実体験を基にした意見を言ってくれる方もいました。これから行う取り組みについて、それぞれの立場でどのようにしていけばいいのか考えることができ



全体研修を進める筆者

ました。

②チームメンターの実践

チームメンターは、メンティが抱える課題を共有し、チームで具体的なメンタリング活動を行うことです。メンター4名、メンティ3名で行いました。

始め	目的の確認
活動	共有しよう「メンティが抱える困り感」 メンティ ①授業中「活動あつて学びなし」になっているのではないかと心配です。 ②教科における観点（見方、考え方）について、実際どうすればいいのか分かりません。 メンター ①（理科の経験を語り） 活動の前に「本時のめあて」は何かを明確にすることが必要です。めあてを明確にすることで、子供たちだけではなく、教師自身も考えが整理されます。 ②本時（1単位時間）も大切ですが、単元を通してどのような力を子供たちに付けさせるのが大切です。教科としての見方・考え方があるのと、一緒に学習指導要領を確認していきましょう。
終わり	振り返り「他の先生と同じ悩みを抱えていることが分かり、話し合うことで心が楽になりました。」 メンター教員の失敗談を聞き、「私もまずは子供たちにいろいろな活動をさせてみて、失敗や成功を経験しながら、指導力を向上させていきたい」と思いました。（メンティ）



チームメンターの様子

短い時間でしたが内容の濃い時間となりました。メンターは自分の経験からうまくいかなかった例と、うまくいった例を提示し、考えを促すような話（引き出す指導）をしていました。

その他、あえて学年がちがう人をメンターとメンティのペアとして組み、相談できる関係を広げました。（ペアメンター活動）この活動の中で、メンティの質問に答えることが出来なかったメンターが、ベテラン教員に質問し教わっている姿が見られ、学びの輪が広がっていると感じました。研修後の振り返りの中でも、メンターに必要な「引き出す指導」、メンティに必要な「積極的な姿勢」の言葉が多く出現するようになり、「教える・教わる」と言った従来の研修とは違った、お互いが影響し学び合い、共に成長している姿が確認できました。一方で、メンタリングを行う時間の確保、メンター方式の教職員全体への浸透、さらにメンターの評価や中長期的なメンタリングプログラムの作成等の課題も残りました。

まとめ

今回のメンター方式を通して、人との繋がりがりや話せる仲間がいる大切さに気付くことができました。「分からない」と言える雰囲気作りをみんなで作っていくことが必要です。

人材育成は学校教育を支える大切な一つと言えます。精選された教育課程とそれを円滑に機能させるマネジメント、そして何よりそこに働く人々。これら3つ要素があってこそ、学校教育は推進され、子供たちの力となります。今後も子供たちの力を高めるためにも、どうしたら教師の力を伸ばすことができるのか研究し実践を積み上げていきたいと考えています。

はじめに

この度、令和5年度実施東京都教員採用試験に合格し、令和6年度より中高国語科の教員となります。これから教員採用試験を受験しようと考えている方に少しでもお役に立てればと思い、体験記を書かせていただきます。

一次試験対策

一次試験の勉強を始めたのは大学3年の10月でした。予備校等には通わなかったのですが、

まずは書店で教職教養の参考書を買って読んでみたり、インターネットで受験する自治体の過去問を見て、出題形式を確認したりすることから始めました。11月頃、バンピの会に途中から参加させていただき、そこで送っていただける問題を解きつつ、12月ごろから本格的に参考書の問題や過去問を解いていきました。1日の勉強時間は3～4時間程だったと思います。教職教養は暗記が中心になるので、早めに取り組み、スキマ時間を有効活用することをお勧めします。

専門教養は、年が明けてから過去問を中心に取り組みました。古典と漢文の正答率が悪かったので、単語を一から確認したり、大学受験で使った赤本を解いたりしました。ですが、難易度は大学受験程度と言われており、新しく得る知識も多くはなかったので、気負いすぎず、暗記で疲れた時の息抜きのような感じで問題を解いていました。

小論文の対策を始めたのは、その後4月になってからでした。週に1回ほど教職相談に通って、書いた論文を添削していただいたり、教育現場について教えていただいたりしました。練習で書いた小論文は10本くらいでしたが、かなり対策がギリギリだったと感じます。論文は書けば書くほど慣れていき、どんなテーマにも対応できるようになったり、精度も上がっていったりするので、余裕をもって対策を始めた方が良いでしょう。また、必ず先生に添削していただけてください。私は書いた小論文をノートにまとめて、空いた時間や試験前に見返していました。以前書いた



自問自答し、その答えを書き込んだ面接票

た文が今回のテーマでも応用して使えるということがよくあります。

二次試験対策

面接練習は、大学3年の3月から、バンピの会の先生方とオンラインで3回、大学の講座で対面での練習を3回行いました。面接では必ず面接表に書いたことを深掘りされるので、私は常に自分で記入した面接表を見て、なんで？どうして？と面接官になった気持ちで自問自答し、ブラッシュアップしながら、何を聞かれても答えられるように準備をしていました。また、自分の中で一貫した軸を持つことで受け答えしやすくなります。私は、「生徒との積極的なコミュニケーション」を軸にしていました。

さらに、重要だと感じたのは教育に関するボランティア経験です。特に、私は教育実習が採用試験後の9月実施だったため、教育現場についての知識がほとんどない状態でした。しかし、面接官からの質問の中には、教育現場を知らないと感じるものがありました。実際に本番では、「自由に生徒を想定し、その生徒が抱える問題とその対応について教えてください。」といった質問をされました。どのくらい今の教育現場について理解があるかということも見られているのです。そのため、教採以降に実習がある方はもちろん、教採前に実習に行くという方でも、ボランティアでの経験は面接での話の良いネタになるので、余裕のあるうちに探し、行っておくことをお勧めします。私は小学校の生活支援員と、中学校の学習支援員をやりました。



主に使用した教職教養の教材

おわりに

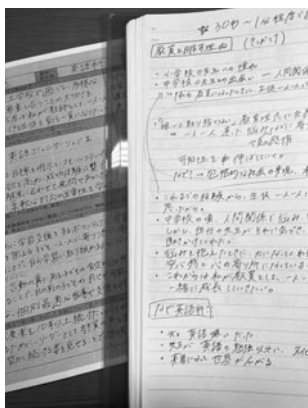
採用試験対策をしていく中で、何度も挫けそうになりました。ですが、指導して下さった先生方や、励まし合いながら共に努力した友人がいたことで最後まで頑張ることができました。これから採用試験を受けるみなさんも、困ったとき、悩んだときは周りの人に頼りながら、息抜きのしながら、夢に向けて悔いのないよう頑張ってください。応援しています！

【はじめに】

この度、令和5年度実施東京都公立学校教員採用候補者選考試験に合格し、令和6年度より公立学校の英語科の教員となります。これから教員採用試験を受験しようと考えている皆さんのお役に立てればと思い、教員採用試験の体験記と、私の大学生活で取り組んでいたことを執筆させていただきます。ご参考になれば幸いです。

【留学について】

私は、高校生の時から海外留学に強い憧れを抱いており、大学在学中に必ず留学をしてから教員になるという1つの目標を掲げていました。専修大学の留学プログラムを考えていたため、1年次からTOEIC®やTOEFL®、英検を継続的に受験し、留学に向けての学力向上に努めていたのですが、残念なことに2年次にコロナ禍に突入し、しばらく留学という夢が閉ざされてしまっていました。その間にオンライン留学も経験したのですが、やはり、現地での留学という夢を諦めきれず、卒業を1年間遅らせて、大学4年次の前期に中期留学プログラムでカナダのカルガリーへ渡航することになりました。私がなぜここまで「留学」にこだわるのかというと、私の中学校の先生がしてくれたように、「英語を学ぶことの楽しさ」や「英語を学ぶことで自分の世界が広がる」ということを生徒に伝えたいと思ったからです。そして、それを実現するために私が辿り着いた答えが、留学を通して生きた英語や文化を肌で感じ、自分の視野を広げるということでした。この貴重な留学経験を通して、以前までは自信の欠片もなく悲観してばかりだった私が変わるきっかけとなり、教員採用試験対策において大きな糧となったと感じています。教職課程を取りながらの留学と教員採用試験との両立は大変ではありますが、自分のなりたい姿を想像し、そこから逆算して「今何をするべきか」を考えることで、着実に現実的になっていくと思います。留学をするならば、綿密な計画と準備、そし



二次試験対策ノート

て自分を奮い立たせる力が必要です。私のこの体験記が留学を考えている方の力になれば幸いです。応援しています！

【教員採用試験対策について】

前述したとおり、私は留学から帰ってきた次の年（大学5年次）に教員採用試験を受験しました。そのため、8月に留学から帰ってきたあとは、授業もほとんどなかったため、本格的に卒業論文が始まる4月までの半年は比較的時間の余裕がありました。この半年間は、一次試験の過去問を解いたり、アルバイトや学習支援ボランティアで子どもたちと関わったり、教育に関する知識や経験を増やしていきました。子どもたちとたくさん関わる経験をしたおかげで、その後の教育実習や教員採用試験に役立ったと感じているので、ボランティアなどに積極的に参加するのを強くお勧めします。一次試験の対策は、恐らく他の方が述べているように、過去問を2、3周解くと問題が頭に入るので良いと思います。

二次試験について、東京都は令和5年度から試験内容を変更し、集団討論など諸々が廃止され、1人40分間の個人面接と、実技（英語や体育など）のみになりました。初めてのことに戸惑いながらの対策でしたが、専修大学の2次試験対策に参加し、また同じく採用試験を受ける仲間と何度も練習を重ねて本番に挑みました。私は頭の中の考えを言語化し順序だてて話すことが苦手だったため、ノートに自分の考えをすべて書き出していました。さらに、想定質問に対して、自分の経験を踏まえながら答えるためにも、ボランティアやサークルなどを振り返って自己分析することがとても重要だと思います。私はこのノートのおかげで、自分自身を見つめなおし、教育に対する想いを再確認することができました。

【おわりに】

ここまで私の少し変わった大学生活と教員採用試験対策について書かせていただきましたが、皆さんの力に少しでもなっていたら幸いです。私は周りに同じ経験をしている人がいなかったため心細かったのですが、自分のやってきたことを信じて前に進み続けることが大切だと学びました。皆さんがそれぞれの夢や目標を達成できるよう、陰ながら応援しています！

【はじめに】

この度、令和5年度実施の千葉県・千葉市教員採用試験に合格し、令和6年4月より中高社会科の教員となります。私の教員採用試験の体験が、これから教員採用試験を受ける皆さんの一助になれば幸いです。

【1次試験】

まず、採用試験全体を通して痛感したことは事前準備の大切さです。私は1次試験の前日に受験票の受験区分が異なっていることに気が付き、2次試験では試験会場の最寄り駅の2駅手前で上履きを忘れていたことに気が付くという出来事がありました。いずれも事なきを得たのですが、万が一の場合は1年を棒に振ることになってしまうので、皆さんは試験勉強以外にも入念な準備を行うことを強く勧めます。試験勉強に関しても、私はTACの教員採用試験対策講座を受講していたものの、それに甘えてしまい試験勉強を行ったのは講座がある日の数時間のみでした。本格的な試験勉強を始めたのは受験年の2月と他の受験生に大きな遅れをとっていたため、とにかく効率良く勉強することが必要でした。そこで、まずは受験する千葉県の過去問集を購入し、出題傾向を把握しました。そのうえで、必ず出題される小中高特支の学習指導要領、千葉県・千葉市の教育施策、頻出の教育基本法や学校教育法などの教育法規、教育時事などについて自分で穴埋め問題を作成しひたすら音読していました。

専門教養に関しても同様で、まずは必ず出題される中高の学習指導要領（社会科）について問題を作成しました。千葉県では、社会科の5科目すべてが均等に出题されるうえ、世界史・日本史においては範囲が広いので、どの科目を勉強するのか優先順位を付けると良いと思います。

千葉県は1次試験から集団討論があることが特徴です。私はTACで5回、バンビの会で2回ほど練習しました。私もそうですが、最初から討論が得意な人はほとんどいません。2次試験の面接



自作した問題集

練習と同様にとにかく数をこなして慣れるしか方法はないので、教員採用試験を受ける仲間を探して共に練習すると良いでしょう。



過去問の参考書

【2次試験】

千葉県の2次試験は個人面接と模擬授業がありますが、私は個人面接に力を入れました。練習はTACで5回とバンビの会における先生・他受験生と月1回程度、大学主催の講座における2回を行いました。教職教養の勉強と並行しながらの対策が理想ですが、まずは1次試験の突破に全力を注ぎたかったので、私は1次試験が終了してから対策を始めました。そこでは、予想される質問への回答例をノートやWordにメモをしておくことで効率よく対策できると思います。ただ、本番では内容をしっかり話すというよりも質問に対して誠意をもって答えようとする態度の方が重視されるので、内容を思い出そうとして苦しくなるよりは、笑顔での対応を心がけると印象が良くなります。

千葉県の場合、模擬授業は6分と短く手法も他受験生と似てくるため、あまり差が出ない部分だと個人的に考え、他の項目ほど対策はしませんでした。本番の内容と同様のものは先生方に1回しか見ていただいていません。教育実習を経験すればおのずと最適解が見えてくるので、焦らずに準備しましょう。

【おわりに】

私は他自治体や私立学校、一般企業などは一切受験せず、完全に千葉県の教員採用試験に絞っていました。皆さんの中には一般企業も視野に入れている方もいらっしゃると思います。また、受験地域によっては卒業論文の準備と重なってくるでしょう。なので、余裕をもった事前準備を心がけることを強く勧めます。今回、私が作成した問題はエクステンションセンターに行けば閲覧・入手できると思いますので、ぜひお役立てください。最後になりますが、皆さんの合格を心より願っております。

1. はじめに

この度、茨城県公立学校教員（高等学校教諭）採用選考試験に合格し、来年度から商業科の教員として働かせていただくことになりました。これから教員を目指す方々に少しでもお役に立てればと思い、私の教員採用試験の体験を書かせていただきます。

2. 一次試験

一次試験は教職教養と専門教養が行われました。いずれもマーク式で、時間は教職教養が30分、専門教養は90分でした。

茨城県は商業の採用数が少ないため、一次試験は9割以上とることが必要とアドバイスを頂いていたので、2年生の冬ごろから対策をはじめました。教職教養に関しては、全国でも出題頻度が高い問題が出題されるため、そこまで難しくはありません。しかし、その分多くの受験者も難しいと感じていないため、高得点をとる必要があります。私は本屋で教職教養の本を買うとともに、専修大学で行われている「教員採用試験対策講座」で使用するTACのテキストや授業、自治体の過去問やバンビの会（教職の勉強会）で先生が作成してくださった問題を使い、ひたすら繰り返しを行いました。

専門教養に関しては、本屋で商業の問題は売っていないため、インターネットで問題集を購入したり、自分が受ける自治体や他の自治体の過去問を収集したり、母校の先生にお願いし余っている問題集を貰ったりしながら、学習を進めました。過去問はある程度力が付いたと感じた時に解くのが良いかと思います。また、私は出題傾向を分析し、自分が得意な科目や出題数が少ない問題は終盤に残し、まずは出題の多い科目（例えば簿記）を中心に学習を進め、点数をとれる所は確実にとることを意識し何度も繰り返しました。

3. 二次試験

二次試験は小論文、集団討論、個人面接（模擬授業）が行われました。小論文に関しては、茨城県は他の自治体とは異なり、文章を2つ読むことが課されます。それを踏まえたうえで800字以内（90分）で書いていきます。私は一次試験を終了した直後に大学や高校の先生に添削を依頼し、先生方が合格と認めるまで何度も繰り返し行いました。

集団討論に関しては10名程度で行いまし

た。集団討論は現場経験がある講師経験者が圧倒的に有利だと思います。ですが、それに臆することなく発言順を早くしたり、まとめ役を担ったりして積極性や協調性をアピールすると良いと思います。また、私はなかなか練習ができなかったため、実際の試験でも手ごたえを感じることができなかったため、教職課程を受講している友達と協力し何度も練習すると良いと思います。

個人面接に関しては、小論文同様に一次試験を終了した直後から始めました。TACの講師の方や大学の先生方、同期、実習校の先生方など多くの方々にお話し、アドバイスを頂きながら対策を重ねました。話し方や表情などは練習でしか克服できないので練習するのみです。また、面接ノートを作り、練習で聞かれたことや答えたこと、多くのアドバイスを聞いたうえでの模範解答などを記録して、見直しをしていました。もちろん暗記する必要はなく、答えの軸となる部分だけを頭に入れ話すようにしていました。茨城県は主に面接票から質問されるので、ある程度質問が予想できると思います。だからこそ、多くの方々に協力をしていただき、質問しなくなるポイントを見つけます。さらに、茨城県は個人面接の中で模擬授業（5分）を課されます。内容は当日に発表です。模擬授業も何度も練習をすることが大切です。上手に授業をするのではなく、教員としてのイメージが面接官に伝わればよいかと思います。

4. 終わりに

私が教員採用試験に合格することができたのは、多くの方々の支えがあったおかげです。深く感謝申し上げます。この感謝の気持ちを忘れずに、生徒たちから信頼される教員となれるよう、精進していきたいと思います。そして最後にこれから教員を目指す皆さん、誰かに頼るという選択肢を持っておくことに少しゆとりができ、自分のペースで勉強できると思えます。皆さんの目標が達成されることを陰ながら応援しております。



教員採用試験体験記

ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 瀬原 崇永

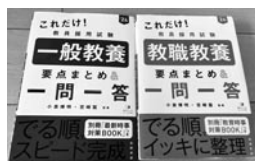
1. はじめに

この度、令和5年度に実施された埼玉県公立学校教員採用選考試験に合格し、4月から高等学校数学の教員をさせていただくこととなりました、瀬原崇永と申します。このような貴重な機会をいただきましたので、教員採用試験での私の体験を残させていただきます。少しでも、読んでくださる方々の参考になれば幸いです。

2. 一次試験対策について

埼玉県は、一般教養・教職教養と専門教養があります。私は、専門教養を1年次から、一般教養・教職教養を3年次から勉強し始めました。初めからガツガツと勉強してはならず、3年次前期までは空き時間に勉強し、3年次後期以降に本腰を入れて勉強していました。

一般教養・教職教養は、一問一答の参考書やTACの教員採用試験対策講座にて配布されたテキスト・資料、埼玉県の過去問などを活用しました。



← 一問一答の参考書

空き時間に一問一答にて勉強し、時間に余裕がある時にTACのテキスト・資料にて講座を復習し、教員採用試験の直前に過去問を解いて最終調整をしていました。

専門教養は、主に中学1年生から高校3年生までの教科書や数検準一級の参考書を活用しました。自分が忘れてしまった内容を復習するために教科書にて公式の証明や演習問題に取り組み、数検の参考書にてさらに演習を重ねていました。

筆記試験のためには、入念な学習が不可欠ですが、大学の課題や私生活等により、時間が取りづらいかもかもしれません。しかし、何もしないままでは、今も勉強しているライバルとの差が広がってしまいます。そのため、早い段階での対策と隙間時間の勉強による積み重ねが必要です。

3. 二次試験対策について

埼玉県は、論文試験、個人面接、集団討論、集団面接があります。私は、4年次前期から本腰を入れて準備しました。

論文試験は、TACのテキストを活用しました。論文を作成しては読み、添削するとい

うことを繰り返していました。論文を周りの先生や友人に見せる機会を設ければ更に良い結果が出せたように感じます。

その他の面接・討論では、面接メモを作成しました。面接メモとは、面接・討論での質問を想定し、自分の考えを整理しておくものです。この質問は、二次試験対策講座やTACのテキスト、自治体の教育政策、友人との面接練習などを参考にしました。



← 面接メモの一部

面接練習をする上で、回答を頭の中だけにとどめてしまうと、時間が経つにつれて忘れ、考えがブレてしまいます。そのため、質問を想定し、自分の考えをQ&Aとしてまとめておくことは非常にオススメです。

人物試験のためには、事前準備やコミュニケーション力、自己表現能力など、様々なものが必要となりますが、最重要なのは「軸を持つこと」だと考えます。面接・討論では、明確な答えのない質問が多く投げられます。もし、回答ごとに軸が違えば、面接中に話の一貫性や辻褄が合わなくなり、印象が悪化するかもしれません。だからこそ、理想の教師像や一つの信念を持ち、そこから面接メモの作成を行うことが大切です。また、先生方や友人の意見から改善を重ねると、さらに合格に近づくのではないかと思います。

4. おわりに

この度、教員採用試験に合格できましたが、私一人では確実に合格できなかったらと感じています。合格の背景には、望月先生や大塚先生をはじめ、大学の諸先生方やTACの先生方、友人・家族のサポートが強くあります。一人で黙々と対策をしていると、多様な視点から物事を見ることが難しく、盲目になってしまい、空回りしてしまうかもしれません。ぜひ、周りの先生方や友人、家族と連携し、一丸となって、無理せず前向きに試験対策に取り組んでください。皆様が、笑顔で教員採用試験の合格を勝ち取る様に応援しています。

はじめに

この度、令和5年度実施横浜市公立学校教員採用候補者選考試験に合格し、令和6年度より小学校の教員になります。微力ながら、この先教員採用試験の受験を検討している皆さんのお役に立てればと思い、体験記を執筆いたします。

一次試験

一次試験では、一般教養・教職専門、教科専門、小論文（採点は二次試験）が行われました。横浜市は二次試験を重視していることから、一般教養・教職専門と教科専門については過去問から出題傾向を調べ、最低限の勉強で挑みました。一方で小論文は二次試験で使用されることと過去に実施された事例がほとんどない（コロナ禍前に始まったため）ことから時間をかけて対策を行いました。まずは教育資料を読み、最新の情報を収集することから始めました。教育資料の収集の際にはX（旧 Twitter）を使用することをお勧めします。各自治体、教育委員会、TACの公式アカウントをフォローすると最新の情報を手に入れることができます。また、そうした資料に目を通した後には必ず自分の考えを整理するようにしていました。そうすることで小論文での自分の考えが書きやすくなりますし、面接の回答にも生かすことができました。実際の試験では、45分間の解答時間で字数は800字程度と時間的な余裕が少ない試験でしたが、対策の甲斐があって具体的な策まで述べることができました。

二次試験

二次試験では、模擬授業と面接試験が行われました。模擬授業は与えられた3つのテーマから1つを選択し、それについて模擬授業を行うというものでした。過去の出題傾向から、3つの内1つは道徳に関するキーワードであることが多かったので、道徳の内容項目については一通り授業を作っておきました。実際の試験では、5分間の構想時間の後、10分間の授業実施と模擬授業に関



教壇実習（高校）

する質疑応答がありました。当日は道徳に関するテーマを選択し、事前に用意していた授業内容に結びつけて行いました。模擬授業の際には面接官が児童役を行っていました。そこで児童（面接官）に発言を求めたり、そこから新たな疑問を見出したりして、児童と対話し共に学ぶ姿勢をアピールしました。模擬授業を行う際には授業内容も大切ですが、それよりも授業における教員としての姿勢を見せることが重要であると思います。私は4年間集団塾でアルバイトをしていたこともあり、黒板を使うことや教室で前に立って話すことに慣れていましたが、そうでない場合は自信が持てるように練習を多く積むといいと思います。

面接試験は模擬授業の後、30分間行われました。事前に項目を記入した面接カードを提出しており、それを中心に質問がされました。面接試験の対策はバンビの会（教員採用試験対策をさせていただけるところ）にて、先生方や先輩方と半年ほどかけてたくさん練習しました。面接練習をしていくうちに、深掘りされやすい箇所が見えてくるようになりました。Zoom等を用いた練習もいいですが、目線や姿勢のくせに気づくことができるので対面での練習もおすすめです。



教育実習（小学校）で児童からの贈り物

終わりに

最後にこれから対策を行う方に伝えたいことが2つあります。1つ目は教育に関わる経験の大切さです。私は児童相談所の指導員や小学校で授業補助のボランティアなどを行いました。このような活動を通して、児童の実態や教員のリアル、教育の魅力を知ることができ、最終的には教員になるという覚悟を持つことができました。2つ目は一緒に対策をする仲間の大切さです。教員採用試験は一般就職に比べて実施される時期がだいぶ遅く、精神的にくることが多々ありました。それでも折れることなく、こうして試験に合格することができたのは教採仲間のおかげです。皆さんも一緒に頑張れる仲間を見つけ、合格に向けて前向きに進んでいただければと思います。末筆ながら、皆様の目標が達成されることを陰ながら応援しております。

教育実習を終えて（国語）

私立横浜商科大学高等学校 文学部日本文学文化学科4年 土岐 春奈

1. はじめに

私は、2023年6月1日から21日までの3週間、母校である横浜商科大学高等学校で教育実習を行いました。母校には、普通科の他に商業科があります。商業科は国際観光コースと会計情報コースに、普通科は特進コースと進学コースに分かれており、そこからさらに文系と理系に分かれています。ホームルームは、普通科進学コースの3年生を担当し、授業は1年生の6クラスを担当しました。教育実習を通して学んだことや感じたことを皆さんにお伝えしたいと思います。

2. 授業見学について

実習の1週目は授業見学を行いました。私の担当科目は国語ですが、指導教諭に「スライドを使った授業を見学したほうが勉強になるよ」とアドバイスをいただき、国語科だけでなく、数学B、地理総合、生物基礎のスライドを用いた授業も見学させていただきました。国語の授業では、教員が教材に関する情報を検索している様子をスクリーンに映したり、本文をスクリーンに映し、重要な文やキーワードにしるしをつけたりしていました。本文の内容を板書しないことで、ノートをとることで分かった気になってしまう生徒が出ることを防止し、生徒自らがメモをとる習慣をつけるようにしていることが分かりました。他教科の授業では、その場で教員が図示することで経過が分かりやすくなる場合もあり、事前に図や画像を準備する目的や意図を常に考えることが重要だと学びました。

3. 教壇実習について

実習の2週目から教壇実習を行いました。1年生の現代の国語を担当し、「ことばがつくる女と男」（中村桃子）を扱いました。授業プリントを用い、必要に応じて教材に関連した小説や漫画を生徒に見せながら授業を行いました。

私が教壇実習で学んだことは、大きく2つあります。

1つ目は、目標を振り返る際に、生徒が何について考えればいいのか分かる問いかけを明確にすることです。毎時間、導入の後に目標を提示し、授業の終わりに振り返る時間を作っていたのですが、生徒は目標を読み、機械的に自己評価しているように見受けられま

した。そのため、振り返りの問いをこちらから3つ提示することで、生徒が今日学んだことを考えられるようにしました。

2つ目は、生徒が聞こうと思える授業をすることの大切さです。生徒に小説や漫画、ニュースを紹介することで、興味を持ってもらうだけでなく、今学んでいる教材の内容が学ぶ意味のあるものだと思えるようにするためにも重要なことだと思います。国語の授業は、本文の内容を理解することが主な作業で、授業が一定になりやすくなるため、眠くなる生徒が出やすい傾向があります。生徒が授業を聞いていて飽きる時間を少しでも減らせるよう、授業の真ん中以降に小説や漫画の話をしました。そうすることで、本文を読んで下を向いていた生徒は何だろうと顔を上げ、耳を傾けてくれました。また、これは朝のホームルームで本の一文を紹介する際にも感じたのですが、私が話していて、自分に関係ないと思っている生徒とはあまり目が合いません。授業中に話していて、生徒が私をよく見ていると感じたのは、私の高校時代や大学生活の話をしている時、教材や小説の内容を母校の生徒に置き換えて具体的に話した時です。生徒が自分のこととして考えられる問いかけや具体例をどれだけ話せるかが、生徒が話を聞こうとする姿勢に繋がると学びました。

4. おわりに

3週間という短い期間でも、先生方と生徒たち、教育実習生の仲間たちに助けられた場面が数えきれないほどありました。これから実習に行く皆さんは不安なこともあると思いますが、自分から沢山質問をし、話しかけることによって、不安が解消していき、自然と楽しめると思います。ぜひ自分も相手も楽しい教育実習にしてください。



教壇実習の様子

教育実習を終えて（英語）

敦賀市立栗野中学校 文学部英語英米文学科4年 杉本 千紘

1. はじめに

私は、令和5年度5月15日から6月2日までの3週間、母校である敦賀市立栗野中学校で教育実習を行いました。担当クラスは3年生で、HRや行事、掃除など学校生活を一緒に過ごさせてもらいました。授業では主に2年生のクラスで授業を担当しました。授業や学校生活で生徒と直接触れ合うことで、大学では学びきれないことをたくさん学ばせてもらいました。3週間の実習内容や体験を皆さんにお伝えしようと思います。

2. 教壇実習

実習の1週間は主に実習見学を行いました。私は英語科で、すべての英語教諭の授業を見させていただきました。授業の進め方も教え方も先生ごとで全然違ったので、毎日、大変勉強になりました。コミュニケーション活動が多めの授業展開のほうが生徒たちも楽しんで英語を学んでいる印象でした。担当した3年生のクラスでは道徳や担任の先生の教科である数学も見学しました。英語だけでなく、数学などでも生徒たちが多く発言している様子が見受けられました。

実習2週目に入ってから初めて教壇に立ち、英語の授業を2年2組で行いました。50分全部授業をするのではなく、最後の20分をもらい、生徒とコミュニケーション活動中心の授業を行いました。Small Talkからなるべく英語で授業を進めました。生徒が反応してくれないと日本語で説明しなおしたのですが、担当教諭から日本語はあまり使わないようにと注意を受けたので意識して生徒が分かる単語を使って英語を話さないといけないと思いました。これから実習に行く皆さんは教育実習に行くまでに生徒が習った英語で話す練習をすることをお勧めします。たくさんの先生方の授業を見てイメージトレーニングができていたため、特に緊張することなく、進めることができました。3週間目の初めて2年生の授業を担当しました。研究授業で行う単元を任



ました。2年のあるクラスはおとなしい子が多く、問いかけても答えてくれないことが多々ありました。クラスごとに生徒の雰囲気は全く違うのでクラスごとにうまく対処していかなければならないということ学びました。文法のことばかりだと生徒もつまらなそうにしていたので、私自身のことを少し話すと、少し関心をもってくれて嬉しかったです。



研究授業は2年2組で行い、指導案通りスムーズに進みました。中盤でゲームも交えながら行いました。コミュニケーション活動を多く取り入れ、楽しい授業を意識しました。生徒も楽しんで授業を受けてくれた様子だったので良かったです。しかし、盛り上がって生徒が静かにならない場面があったのでメリハリをつけて授業を進めることの重要性も学びました。

3. 教育実習を終えて

3週間の実習を終えて、挨拶運動、ホームルーム、授業、部活動、行事などたくさんのことを体験させていただきました。改めて教員という仕事の責任の重さや大変さを学びました。常に生徒に目を配りながら、授業の準備をしていたので、相当な体力と根性がないと継続できない仕事だと思いました。授業準備、部活動の指導、クラス活動などやることが多く、忙しさもありますが、生徒の笑顔や元気な姿を見ると頑張る原動力になりました。生徒たちのことを最優先にして行動することを意識することが大切だと思いました。

4. おわりに

教育実習は3週間ととても短いので、1日1日をどう過ごすかがとても重要です。分からないことがあったらすぐ聞き、行動してみてください。担当教諭の先生が的確に答えてくださるはずです。生徒に積極的に話しかけてみてください。勇気をもった行動は必ず自分の成長につながります。教育実習が充実したものになることを願っています。

教育実習を終えて（社会）

相模原市立新町中学校 経営学部経営学科4年 田辺 悠太

1. はじめに

私は令和5年5月8日から5月26日までの3週間、母校である相模原市立新町中学校で教育実習を行いました。教壇実習は社会を第3学年の2クラス分、道徳を第3学年の1クラス分担当し、その他担当クラスのHR進行や部活動、避難訓練のほかPTA総会やコンプライアンス研修といった生徒がいない場面での教師の動きをも経験させていただきました。以下では3週間の実習内容の一部を実習期間並びに実習期間前後で生じた感情の動きと合わせて皆さんにお伝えします。

2. 衝撃的な事前打ち合わせ

時は実習前の打ち合わせにさかのぼります。担当教科が同じ社会の他大学からの実習生と2人で説明を聞いていると、1人の指導教諭が私たち2人の実習生を見るということが告げられました。そのような体制がとられることは異例中の異例であり、私は驚きと不安を抱きつつ、実習初日を迎えることになりました。

3. 分析と挑戦の実習期間

実習が始まり2日間は授業見学を行い、3日目からは教壇実習がスタートしました。驚きと不安でいっぱいだった私ですが、日数を重ねるうちに上記で述べた異例の体制がもたらす2つの良い影響に気付きました。

まずは、実習生同士での意見交換及び一方の失敗を活かして他方の実習生はより良い授業の展開が可能となるということです。指導教諭が異なる場合、指導教諭の着眼点や指摘も異なることが考えられますが、指導教諭が同じことで目指すべき授業の形の共有や双方向でのアドバイス、さらには一方の実習生が得たフィードバックを他方も聞き、自身の授業に役立てる、すなわち自身が倍の場数を踏んだかのような感覚で授業を展開することができました。

また、一方がAという手段を授業に挑戦的に取り入れた際、他方はBという挑戦的手段を用いて授業を行うことで、どのような授業にどのような手段が適しているのかを検証することもできました。これもまた、指導教諭が同じであることで初めてなせる一種の技であると感じました。この経験もあり、私

は実習最終日にあった研究授業においてクラスと指導単元に適した挑戦的かつ発展的な手段及び構成をとることができました。

具体的には、戦後の文化に関する単元において、各教室の後方に掲示してあった自己紹介カードに記載されていた生徒の「趣味」、「好きなもの」から生徒たちにおけるトレンドを現代の文化とし、戦後の文化と現代の文化では、歴史的事象や情勢、世論との関係にどのような違いが存在するかを問うという非常に難易度が高く、挑戦的な授業を展開しました。そのような授業であったにもかかわらず、多くの生徒から「面白かった!」、「楽しかった!」という声を聞くことができ、これまでの授業経験と数多くの分析を通して得た知見と挑戦心の存在が“面白い授業”を生み出したことを強く実感しました。

4. 教員の面白さと奥深さを実感した実習後

授業準備や早起き等、大変なことも数多くあった実習期間を経て、私の何よりも印象に残ったことは何があっても、どんな時でも応えてくれる生徒の存在でした。私が投げかける質問に対して応答してくれる生徒はもちろんのこと、質問の難易度が高く回答できない生徒もわからないという旨を表情や態度で示してくれました。「対大人では得ることのできないこの応答があるからこの仕事はやめられない。」という校長先生や副校長先生、さらには指導教諭が何度か発したこの一言に教員の面白さ、そして奥深さが全て込められているように感じました。

5. おわりに

一般的に考えるとそれなりの時間である3週間ですが、教育実習が始まり、多くの気付きや学びを得る3週間は言葉にする余裕がないほど一瞬です。その3週間で何を得るか、皆さんの将来にどう生きるかは皆さんが先生や生徒をはじめ学校にいる方々とどれだけ関わることができるかにかかっています。驚きや不安をその要因による良い影響に気付くことで払拭し、分析を重ね、挑戦する心を絶やさなければ、皆さんも必ず教員の面白さや奥深さを感じることができるでしょう。皆さんの人生にとって有意義で素敵なひとときとなることを心から願っています。

教育実習を終えて（商業）

山形市立商業高等学校 商学部マーケティング学科4年 中野 智裕

はじめに

私は、母校である山形市立商業高等学校にて、5月29日から6月12日までの2週間、教育実習を行わせていただきました。ホームルームは1年2組を担当、教壇実習でも同クラスで「簿記」と「財務会計Ⅰ」を担当しました。実際に授業を行ったり指導教諭の先生からアドバイスをいただいたり、生徒とのコミュニケーションを通して、短い期間でしたが多くのことを学ばせていただきました。

教壇実習について

実際に授業を行ってみて感じたことは、「教員と生徒との知識量の差を適切に把握すること」の重要性でした。1回目の授業は予定どおりに進行することができ、自分でもうまくできたと思える授業ができましたが、2回目の授業では、帳簿作成を扱い、前回よりも内容が難しいものであるのに前回と同様のペースで予定通り進行しようとしたあまり、生徒の理解が追い付かないまま進めてしまい、失敗してしまいました。指導教諭と相談し3回目も同様の内容を扱い、ひとつひとつの項目ごとに発問を行い全体の進行具合を管理しながら一緒に帳簿を作成、机間巡視や生徒同士での教えあいを促しながら授業を展開したことで、授業後に生徒からわかりやすかったといってもらえるような授業を行うことができました。

こちらが十分に準備して、できる限り丁寧に教えたつもりでも、生徒の力量を測り間違えればそれが生徒にとってわかりやすい授業になるとは限らないということを痛感しました。また、授業の進行スケジュール管理に関して、生徒が授業内容についてこれているだけでなく、ノートを書く速さや問題集にかかる時間、生徒同士の話し合いにかかる時間など、教員と生徒との知識量の差を正しく把握していないと授業構想を考えるのに苦労することも感じました。そのためには普段の授業ではもちろん、日常のコミュニケーションを

通して生徒を観察、理解を深めることが重要であると身をもって理解することができました。

指導教諭からのアドバイスのひとつで、「授業内容に強弱をつける」ということが印象に残りました。「淡々と授業を進めていくと生徒はどこを覚えてほしいのかわからなくなる」とのことであり、今回の授業で絶対に覚えてほしいポイントをいくつか決めて、確実にそれを理解してもらうための授業展開を構築することが重要であると教えていただきました。実際にそのように授業を作り、覚えてほしいところは複数回伝える、「ここが大事だよ」と伝えてからその内容に入ることで、生徒の理解を促すことができました。

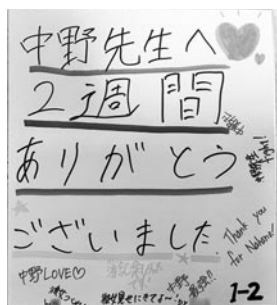


ICT 活用について

教員側、生徒側の両方に共通していえるメリットとしては、板書や意見共有などにかかる時間の短縮による効率化が挙げられると感じました。一方で効率化により授業スピードは速くなりますが、その分授業についてこれない生徒が増加するリスクが高まることからデメリットであると感じました。ICTを中心に授業を行う場合はこれまで以上に生徒理解を深める必要があると思います。

おわりに

2週間という短い期間でしたが、密度の高い時間を過ごすことができました。実習校の先生方はしっかりサポートして下さいますし、最初からうまくやろうとせず、自分で考えながらトライアンドエラーを繰り返し、能力の洗練・昇華を目指していただきます。また、生徒とのコミュニケーションは教員に対する自分自身の価値観を大きく変えてくれると感じました。みなさんも生徒や先生方と積極的に関わりながら過ごしていただき、楽しかったと思えるような教育実習が行えることを願っています。



教育実習を終えて（情報）

私立東京女子学園中・高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 山根 霧羽

1. はじめに

2023年5月29日から6月17日までの3週間、母校である東京女子学園高等学校にて教育実習を行った。HRクラスは高校2年2組14人を受け持ち、科目としては2年生の情報Iと情報演習を担当した。また、3年生の情報デザインの授業にも見学、参加した。教壇実習や授業見学、行事などさまざまな事柄があり、多くの学びがあった。ここでは、教育実習とはどういったものなのか、そして私の学びをまとめる。



教壇実習の様子

2. 学校生活

第1週目は試験期間であったため、併設している芝国際中学校・高等学校の授業の見学を行った。情報科目を中心に見学したが、他教科の見学にも積極的に行った。授業ではクラスによって発問を変えることで難易度を調整していたり、授業の時限によって生徒が辛くならないように体を動かせたりとさまざまな工夫があることを学んだ。

第2週目では、体育祭があり競技で使用する道具の運搬や保護者の誘導など、できる役割を見つけ主体的に働くことを心がけた。生徒とも先生がたとも小さな会話を積み重ねることで、信頼や学校をより学びやすくなったと感じる。

最後の3週目では、学校の生活にも慣れ生徒とより近い距離で関わる事ができた。というのも、短い期間でなにも残さず終わってしまうのは勿体無いと感じ、昼休みは生徒とドッチボールをしたり、お昼を一緒に食べたりする時間をつくり交流した。それにより、普段の生活でより生徒から話しかけてもらえることも増え、授業内のコミュニケーションも向上した。

3. 教壇実習

担当した学年は情報という科目に対して、苦手意識を持っている生徒が多い印象であった。そこで、指導教諭の先生と相談し楽しく日常の疑問を紐解くことができるような授業

を意識して教材研究を行った。初めの頃は、教科書に書いてあることだけしか伝えられていなかったり、授業の目的が多すぎたり、生徒主体の学びにはなっていなかった。何度も改善を重ねることで、生徒の興味や伝え方、情報教科の目的が身についてきた。

例えば、情報の信頼性に関する授業にてフェイクニュースを授業内で作り、フェイクニュースの特徴をクラス全体で考える活動をした。その際には、生徒から積極的に特徴や心理的印象をそれぞれが発言していた。他にも多くの生徒が苦手であった二進数の変換を生徒同士で学ばせる仕掛けをつくると、1授業でほとんどの生徒が仕組みを理解し、簡単な計算ができるようになった。そのことから、生徒ファーストな授業を設計することが大切であると実感した。

何度が教壇実習を行い、どうしたらもっと生徒が楽しく、情報科の目標を達成できるか考える習慣が身についたと感じる。短い期間であっても真剣に目の前のことに取り組むことで学校という職場、教員という職業を理解し体に取り込むことができたと思う。

4. おわりに

教育実習は想像をはるかに超える良い学びであった。座学では学ぶことができない授業づくりや教員としての態度、生徒を預かる責任についてなど考え、悩み、実行して、反省する一連を毎日繰り返すことになる。それを体で体験できるのは非常に貴重で恵まれていると強く感じた。

3週間受け入れてくださった学校とこれまで共に切磋琢磨して学んだ仲間、丁寧に真摯に指導してくださった先生がた、本当にありがとうございました。



最後の HR：生徒からの色紙を手

教育実習を終えて（数学）

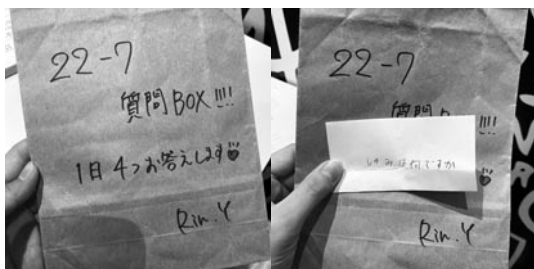
横浜市立戸塚高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 湯本 麟

1. はじめに

私は5月29日から6月19日までの3週間、母校である神奈川県横浜市立戸塚高等学校で教育実習をさせていただいた。HRでは2年7組を担当し、教壇実習では2年1組と2年5～8組の数学Ⅱβを担当させていただいた。HRや教壇実習、授業見学ではもちろん、それ以外のところでも教員の仕事内容や生徒との関わり方、教育実習生からもたくさん学びを得ることができた。本稿では私が教育実習で得たことや感じたこと、今後どのようにこの経験を活かしていくかをまとめる。

2. HR指導について

私は前述した通り、3週間の実習の中でHRの担当もさせていただいた。私の母校は単位制のためHRクラスと授業クラスが全く違うものになっている。そのため数学Ⅱβを取っていないHRクラスの生徒との関わりの時間は朝と帰りのHRの時間のみになる。2年7組は比較的に明るく、積極的にコミュニケーションを取ろうとしてくれるような生徒たちが多く、打ち解けるまでに時間はさほどかからなかった。私は3週間という短い期間で全員とコミュニケーションを取れるようにHRの時間に一問一答形式の質問BOXを作り3週間の間に39人からの質問に全て答え、生徒にも同じ質問に答えてもらうというものを行った。この企画はとても効果があり、最後にクラスからいただいた色紙にも「この企画のおかげで先生のことを知れて良かった」という声があり、やって良かったと感じた。



HRの一問一答で使った 質問ボックスの中身
質問ボックス

3. 教科指導について

私は教壇実習を4日目から行った。同じ高校の実習生の中には初日から3週間で36コマの授業を担当している人もいたが、私は計18コマの授業を行った。指導教諭によって考え方や持っている授業やその時数が違うため任される量が様々である。そのためどんな先生が担当でも対応できるようにより多くの授業作りに慣れておく必要があると感じた。ここで大切なのはただ授業を作ることに慣れ

ればいいのではなく「質の良い授業を限られた時間の中で作る」というところであると考え。私が実習中に何度も言われたことは「先生は何度もする授業かも知れないけど、生徒はたった一回しか受けられない」ということである。生徒の貴重な時間を使って授業をさせてもらっていること、生徒はその授業をたった一回受けて理解をしなければならないことを念頭に置いて教材研究をすることを心がけたいと感じた。たとえ実習中の教壇実習の数が多くからといって一つ一つの授業の質を落としていい理由にはならないし、実習に行ったら「実習生」ではなく「先生」として扱われることを忘れてはならない。

4. 教育実習を終えて

私はこの実習が人生の経験の中で人間としても社会人になる身としても一番成長した経験だと感じている。この実習では「教師」という職業を学ぶだけでなく、社会人としての様に職場で動いていくか、人と関わるという仕事がどれほど責任のあることで周りに影響を与える職業なのかを学ぶことができた。私がこの実習で一番印象に残っているのは、ある授業で受け持っていた生徒が元々看護師を目指していて、ある時放課後に「そろそろ進路希望を出す時期なんだけど数学の先生を目指そうか迷っている」と相談をしてきたときのことである。その生徒は私の指導教諭と私という数学の教員と関わってみて数学が好きになり先生になる道も考え始めたと言っていた。その言葉を聞いた時に、どの職業にも通ずることかもしれないが、特に将来に向かって生きる「生徒」と関わる「教師」という職業は多くの影響を与える存在なのだと感動を覚えた。そこから私はどんなに大変な職業でも生徒の将来の分岐点と一緒に立てたり影響を与えられる素晴らしい職業だとも感じた。

5. おわりに

私は卒業後すぐにはではないがゆくゆくは必ず教員になり、たくさんの生徒と関わり多くの夢と可能性を生徒たちに与えられるようになりたいと考えている。この実習では多くのことを学び、今後の自分の人生を考える上でもいい時間となった。免許取得後に教員にならないなどの事情を抱えていたとしても実習の間は教員になるという心意気で頑張るべきだし、3週間という短い時間でも人の人生に影響を与えるという意識で臨むべきだと思える。私はこの実習で学んだことをこれから教員を目指す上ではもちろん、一般企業で働くときも人との関わりの方などで活かしていきたいと思っている。

教育実習を終えて（小学校）

鷹南学園三鷹市立中原小学校 国際コミュニケーション学部日本語学科4年 宮内 亮太

1. はじめに

私は、令和5年9月19日から10月6日までの3週間弱、東京都にある鷹南学園三鷹市立中原小学校で教育実習を行わせていただきました。2年生のクラスを担当させていただき、授業では国語科・算数科・特別の教科道徳・音楽科の4教科を実施しました。教育実習の日程、及び教科指導や生活面での学びを概括して下に述べさせていただきます。

2. 教育実習の日程とその内容

まず教育実習の日程をお示しします。私の場合は、1週目は講話と授業見学、2週目は授業見学と教壇実習、3週目は教壇実習に加え研究授業とその協議会が主な内容でした。1週目の講話では、校長・副校長・体育主任・特別活動主任・研究主任の先生方にそれぞれ1対1でお話を伺いました。そして、2週目からは担当クラスで授業を行わせていただきました。低学年を担当させていただいたので、実習では上にお示した4科目を授業させていただきました。そして、3週目では実習の成果ともいえる研究授業に取り組み、その後の協議会で学びを深めました。このような流れで教育実習は進んでいきました。

3. 教科指導と児童との関わり

教科指導では、2つの大きな学びがありました。1つは、学級内の学習環境を整える重要性です。どのような内容を授業で扱うにしても指示が通らなければ伝えたいことも伝わりません。ですので、全体が静かになるまで待つことや気づいていない児童には周りの児童が声かけをして自分達で気づいて指摘し合う環境作りに指導教諭と共に注力しました。

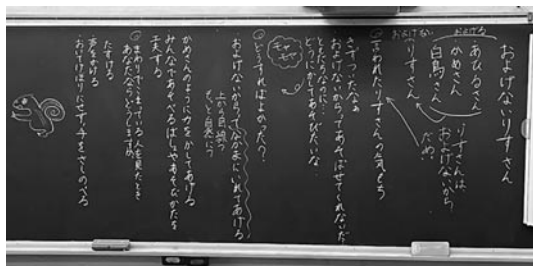
2つ目は、教材研究の質の重要性です。小学校教員は、多いときは5、6時間分の授業を展開しなければならないときもあります。そのため、放課後の限られた時間で教材研究を行わなければならないので、1時間の授業でこれだけは伝えたい、理解してほしい、ことを明確にしてそこを軸に授業を構成することを意識しました。そして、児童の活動を考えるとき、作業的な活動と考える活動のバランスも重要です。授業の軸を意識しながら児童が退屈せず、考える時間もしっかり確保する授業展開は至難の業ですが、自分なりに考えて実践してみることに価値があると思います。

続いて、生活面での学びを述べます。児童と関わる上で一番大切なことはコミュニケーションを何度も繰り返し取り、信頼関係を築いていくことにあると思います。3週間という短い期間だからこそ、日ごとに児童の成長や距離感が縮まっていく感覚を味わうことができます。児童から信頼され、児童のことをよく知るためにも休み時間に目一杯遊んだり、児童の話を熱心に聞いたりして心を通わせていくと信頼関係は確かなものになります。こちらが児童に向き合った分、児童が必ず応えてくれるのでまずは信頼関係を築くことを優先して、ぜひ素敵な関係を築きあげてください。

そして、もう一つ実習を通して重要だと思ったことは、児童の自己指導能力をどのように育むかということです。例えば、何か児童が困ったときやけんかをしてしまったとき、すぐに教員を頼ることがあります。そこですぐに大人が解決してしまうことは簡単ですが、その場合児童の自己指導能力は育めません。そのため、「今、どうすればよいと思う？」等の問いかけをして普段から児童自ら考えて行動することを促します。このように生活面では、児童と深く信頼関係を築くことと児童に考える癖を習慣化する重要性を学びました。

4. おわりに

まだ、教育実習に行っていない方や教員になるか悩んでいる方もいるかと思います。そのような方も、ぜひ全力で教育実習に取り組んでみてください。体当たりで目の前のことに挑戦していれば失敗も含め必ず何か得るものがあると思います。教職に就く就かない関係なく、教育実習で得たことはこの先のかけがえのない財産になるはずですので、ぜひ自分の色を出して面白がりながらたくさん学んでください。応援しています！！



特別の教科 道徳の板書

はじめに

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、現場での介護等の体験を行うことができなかった。そのため、代替措置として視覚障がい児、聴覚障がい児のいずれかを選択し、その教育課程、及び指導方法について印刷教材を用いて学習した。私は視覚障がい児を選択したため、本稿では視覚障がい児への教育について学んだことを記述していく。

視覚障がい児に対する教育課程・指導方法

印刷教材を通して学んだことを、ここでは3点取り上げたいと思う。

1点目は視覚障がい児への教育における情報機器がもつ可能性である。視覚障がい児にとって拡大教材や文字の読み上げ機能等の情報機器の活用は、学習環境や生活の質を向上させ、情報収集・発信、コミュニケーションの手段として欠かせないことがわかった。また、情報機器の効果的な活用は問題解決型の学習を可能にし、自ら情報収集し、積極的に情報を得ようとする態度を育てることにもつながると感じた。

2点目は「環境を通して行う教育」の「環境」には教師も含まれる、ということであり、このことは家庭や地域との連携が重要になってくる理由の一つでもあると考える。学校生活と家庭・地域社会との連続性を保った教育活動の展開が必要とされているように、保護者と教師がコミュニケーションをとり、情報共有しながら生徒の課題と向き合っていくべきであろう。

3点目は重複障がいについてである。視覚障がいを伴う重複障がいの子どもが持つ教育的ニーズは、各障がいに対する理解を合算して対応できるものではなく、コミュニケーション方法もサインや触覚を活用するなど様々なものがあり、学校内で共通理解を図ることが重要であること、また指導者の専門性はもちろんのこと、目の前の生徒一人ひとりに応じた対応が必要であることを学んだ。

教職に就いて生かせること

私は卒業後、特別支援学校（知的障がい）の教員として学校教育に従事したいと考えて

いる。今回学んだ視覚障がいのある子どもに対する教育的支援は生かせる点が多くあると思うが、ここでは3点取り上げる。

1点目は学校生活と家庭・地域社会との連携の重要性である。家庭での関わり方・介助の程度と学校での教育的支援は一貫性を持たせることが何より重要であると同時に、知的障がいのある生徒は地域のデイサービスに通っている場合も多いため、学校・家庭・地域との綿密な連携を図ることで、生徒の社会的自立に向けたよりよいサポートが実現できると考える。

2点目は情報機器の活用による教育の充実化についてであり、視覚障がいのある生徒が情報機器を活用することで問題解決型の学習が可能となるように、情報機器の活用は特別なニーズのある生徒にとって学習活動の幅を広げる役割があるだろう。情報機器を適切に活用することで、生徒一人ひとりの学びを伸ばしていきたい。

3点目は視覚障がいを伴う重複障がいのある生徒とのコミュニケーション方法である。コミュニケーション方法をその子どもに関わる全ての教職員間で共有・理解して接することが大切であるという点は、言葉でコミュニケーションをとることが難しい知的障がいのある生徒に対しても求められる関わり方だと考える。コミュニケーションがとれる方法を周りが見つけ、保護者や担任だけでなく全教職員間での共通理解をし、相手と意思疎通を図ることができたという成功体験を重ねていくことで、生徒の自信につながり、社会的自立に向けた大きな一歩になるのではないかと考える。

おわりに

今回学んだ視覚障がい児に対する指導方法をはじめ、特別支援教育はすべての子どもにとって生きやすい環境をつくるという点で、支援学校や支援学級のみならず、通常学級においても求められる支援だと考える。教職を目指す方にはぜひ、障がいや特別支援教育について、他人事としてではなく、積極的に学んでほしいと思う。

1. はじめに—

新型コロナウイルスの発生とともに始まった混沌たる大学生活が、その悪しきものの収束と並行するように終わりを告げようとしている。毎日自宅の机に一人で向き合い受講していた講義も今では学内の様々なところで開講され、時には学友と切磋琢磨しながら目の前の課題に向き合うように変化した。教職課程における一番の実践的課題とも呼べる教育実習もあつという間に終了し、とうとう四度目のオンラインでの教職公開講座を迎えることとなった。教員の誰もがチョーク&トークのスタイルからICTを活用した授業体系へと変貌を遂げている昨今の教育現場の実情を知ることは、デジタル世代に位置付けられる我々が今後発生するであろう課題に可及的速やかに対処し且つこれからの教職の中心となるために絶対不可欠な資質・要素を得ることに繋がると考えている。そうした確固たる意思を持ちながら、最後の教職公開講座に臨んだ。

2. 未来ある児童生徒たちの確かな可能性—

今回の国語科の講演の中でとりわけ興味関心を抱いたのが「マルチタイム」と呼称される授業内における一つの学習形態である。これは各教科それぞれ50分の授業時間の冒頭10分間に組み込まれているもので、国語科では漢字練習を行う時間として導入されているとのことであった。加えて、一時間目には同様に10分間の朝読書の時間も設けられており、総計して通常時40分、一時間目に至っては30分の学習時間となることを知った。教育現場のデジタル化に伴って今まで以上にやるが増え、ますます教員の多忙化が叫ばれる今日において、果たしてそれらは50分の有限な授業時間を削ってまで取り組まなければならないことなのかと疑問を呈す人ももちろんいることだろう。しかし、私はここに未来ある児童生徒たちの確かな可能性が秘められていると感じたのである。

私は教職課程に加えて司書教諭課程も履修をしているのだが、その課程の中でコロナ禍によって朝読書を断念したり蔓延防止の観点から図書の貸し出しが禁止されたりと読書規制せざるを得なかった学校がたくさん存在していることを学習した。また、学習指導要領の改訂によって各教科の実時数に変化が生じたことで年間指導計画の見直しを行う必要があり、それに伴ってそれまで可能となっていた授業内での特別活動などが実施できなくなる事例が多く発生していることを学習した。これらの観点から読書をしったり漢字の確認テ

ストを実施したりすることが難しくなっている実状を鑑みると、マルチタイムは非常に画期的な学習形態であり児童生徒たちの成長に必要な要素を余すところなくアプローチできるものであると考えられる。児童生徒一人一人と真剣に向き合い、日々精進する先輩のたいへん貴重な話を拝聴することができ、有益な時間を過ごせたと実感している。

3. 一生徒は教師の背中を見て育つ—

第二部では校長先生から、こちらもたいへん貴重な話を拝聴することができる。今回の講演では教師の仕事内容や教師の魅力、日本の教育問題、理想の教師像など「教職」をあらゆる角度から体系的に確認していった。とりわけ印象に残っているのは、これら一つ一つを我々自らが考えられるようにワークシートが作成されていたことである。校長先生側からの一方向型で講演が進むのではなく教員を目指す私たち一人一人が自身の教職の在り方について考えることで、これまで教職課程を通して思い、考え、感じたことの全てを再考することに向き合えたのではないかと感じている。

もう一つ、校長先生が仰っていた「生徒は教師の背中を見て育つ」ことにも注目したい。これまでの社会の中であたりまえのこととして扱われ、取り組まれてきたあらゆる良いことが現在では邪に歪められたり捻じ曲げられたりしている。それは教職においても同じだと考える。善悪の判断や思慮分別など教員として侵すことのできない絶対的信頼の崩落によって教育現場が問題視され、教職員の数も年々減少傾向にあることは周知の事実であるが、そんな時だからこそ私はこの言葉を大切に教職に就く自分自身と向き合っていきたいと考えた。最後の教職公開講座の掉尾を飾ると言っても過言ではないほど、本当に貴重な話を拝聴することができたと感じている。

4. さいごに

四回目となる教職公開講座もあつという間に時間が過ぎていった。これまでの講座も、そして今回の講座も、大学での講義や実際の教育現場の中で活用できるたくさんのことが得られる機会であったと感じている。四年間の大学生活の中で深められた全ての知見を使って、これからの教員人生を一步步自分の足でしっかりと歩んでいきたい。そして、現在、これから先教職を志す後輩たちの手本となれるよう、一つ一つのことを大事にして日々精進していきたい。

1. はじめに

近年、グローバル化や情報化が急速に進展し、社会構造の大きな変動期を迎え、予測困難な時代に突入している。さらに、少子高齢化、地球温暖化、貧困、人権やジェンダーの問題など数多くの社会課題への対応も不可欠となっている。そうした中、教育への期待は大きく、新時代を生きる子供たちの教育を担う教員には、大きな期待と責任が伴うようになってきた。今回の学会では、新時代の教育のあり方と、教員に必要な力を身に付けるための手がかりがあると思い、そうした視点を念頭に置きつつ参加した。



2. 誰ひとり取り残さない学級・学校経営に向けて

学会前半の講演では、日本 LGBT 協会代表理事の清水展人さんより「学校教職員がわかっておきたい LGBTQ+」についてのお話があった。

特に印象に残っているのが、「生きづらさ」を感じ、自殺念慮を抱えてしまう人の割合は半数以上であるということである。現代社会は、ジェンダーの問題にはまだまだ不寛容であると言わざるを得ず、学校教育も対応しきれていないというのが現状である。今後の学校は、教員に適切な研修を行い、児童生徒の相談の場を確保できるように、多様性を認め合う環境づくりをしていくことが大切であると感じた。

性的マイノリティに属する人は約8%だとされている。8%とは13人に1人ほどの割合である。つまり、学級内に2～3人ということになる。教員にとって大切なのは、そういった生徒が「いる」という感覚や意識を持つこと、そして生徒が安心して語れる学級・学校づくりをしていくことである。私も、生徒が安心して語れる・相談できるような信頼される教師になれるよう努めていきたい。

3. 現職の先生方の実践と研究

学会の後半では、現職の先生方より現場での実践や研究について発表があった。

今野先生からは、小学校算数での ICT の活用事例についての紹介があった。興味深かったのは、ICT の使用に対して児童が好意的な

反応を示し、ICT の活用によって児童の興味・関心を引き出していたことである。しかし、ICT を効果的に使用することが出来ない教員が多数いるという現状も聞き、まずは教員が ICT 機器を使いこなせるようになることが大切であることを、改めて確認することができた。

安岡先生からは、高校における「総合的な探究の時間」の実践例について紹介があった。「総合的な探究の時間」は、2022 年より新たに導入されたばかりであり、その学習内容・学習方法については教育現場もまだ模索している段階のようである。そのような現状がある中、安岡先生の実践では、3 年間の生徒と教員の活動をきめ細かく設定しており、大変勉強になった。生徒の興味関心を社会課題に繋げていけるよう、「調査分析」「体験実践」「記録発表」を3年間に渡って行い、さらに、校外コンテストに参加することで、学んだ知識を活かせるようにする。こうした活動によって、生徒に表現力や協調性を身に付けさせることができたという事で、1つの実践例として大変興味深いお話であった。

種藤先生からは、ベテランの立場から若手教員の現状と人材育成についてのお話があった。現状として退職する若手教員も多く、「若手教員は1人で抱え込まず、中堅以上の教員に頼ってほしい、とにかく1人にはならないでほしい」ということを種藤先生が仰っており、これから教員を目指す身として、先生のお言葉を自分の心に刻み、良き教員になれるよう努めていきたいと思った。

4. 終わりに

新学習指導要領の導入によって、各教科の内容は大きく変更され、新教科が導入された。また、一人一台タブレットが支給され、ICT 機器を使用した学習が不可欠となり、「学びの道具」が変化し、さらにアクティブラーニング・課題解決学習など、「学びのかたち」も変化してきており、学校教育は大変革の時代を迎えている。こうした中で、教員は柔軟に対応していく力が求められている。今回の学会は、そうした新時代の教育のあり方を考えさせるとともに、新時代の教育に求められる教員の力についても考えさせられ、私にとって非常に意義深いものとなった。

1. はじめに

「教職実践演習」は、専修大学における教職課程の総仕上げとして、4年生の後期に履修することになっている科目です。私は、森田司郎先生が担当されている講義を履修しました。この講義のねらいは、学校教育の課題に対し、反省的・協働的に向き合うことのできる実践的な力を身につけることとされています。

講義では、教育実習での体験を共有するなど、自身の課題を振り返ったり、他の受講者の教職経験を聞いたりすることでさまざまな事例を学び、それらを生かして模擬授業も行いました。ねらいにもある通り、それまでに履修した教職課程の科目の多くとは異なり、これまでに得た知識を活用し、実践を行うことに主眼が置かれていました。そのため、座学だけでは得られなかった、教職への深い理解が可能だったと感じています。そのうえ、自身の4年間と向き合うことのできる、有意義な時間でした。また、教職公開講座や教育学会へ参加することで、第一線で活躍する方々の話を聞き、現場の実践や学校教育の抱える問題についても知ることができました。

2. カリキュラム実践と授業成果

この講義では、これまでに学んできた教職課程の科目、及び教育実習等の集大成として、「学習内容が受講者の心に数年経っても残る」ことを条件にカリキュラムを構築し、一コマ（30分）の模擬授業を実践するというのがグループ課題として課されました。各グループによって扱われるテーマは、教育課題はもとより、運動やプレゼンテーションから自己紹介まで多岐にわたりました。必ずしも各人の専門分野に基づいた授業内容ではありませんでしたが、それは社会全体が授業の題材になりうることの裏返しだと感じています。

私のグループでは、お金をテーマに授業を展開しました。「若いうちは貯金か、経験か」という馴染みの質問を掘り下げ、新卒社会人の給与実態を知り、自分自身の支出状況や今後の展望を見通すことで、20代という時期をどのように生きていくか、考えることを目

指しました。授業の結論をどのようにするのか、それに向けてどのように一貫性を保持するのか、グループで何度も討議を重ねました。授業設計やさまざまな教育実践、学級経営の知識を総体的に運用し、総仕上げとしてふさわしい時間になったと思います。それぞれの授業後には、受講者による相互のフィードバックを行いました。グループに足りなかった点を相補的に議論することで、多くの刺激を受けました。授業展開や着眼点、社会が抱える課題との関連性など、多様な観点による指摘を受け、改めて協働的な営みの重要性を実感するとともに、4年間共に学んできた仲間がいることの心強さを感じました。

しかし、教員としての道程では、一人で知恵を絞り、想像力を働かせなければならない場面も多いでしょう。その点で、自分になり引き出しを多く得られたことは、この講義を通じての一番の成果だと感じています。この先、授業づくりや学級経営など、正解以上に最適解を探していかなければならない場面では、ここで意見を交わし合ったことを思い出し、生涯にわたって探究心を捨てずにいようと決意しました。

3. おわりに

教職実践演習の講義は、4年間の確かな教職課程の歩みを確認するものでした。同時に、教員という仕事の価値や面白さ、この先目指していきたい理想の教師像も明確することができました。それもひとえに、森田先生をはじめ、教職の礎を教授してくださった先生方、そして4年間を励まし合った教職課程の履修生のおかげです。関わってくださった皆様へ、この場をお借りして感謝申し上げます。専修大学での4年間の学びを忘れず、今後も精進していきます。



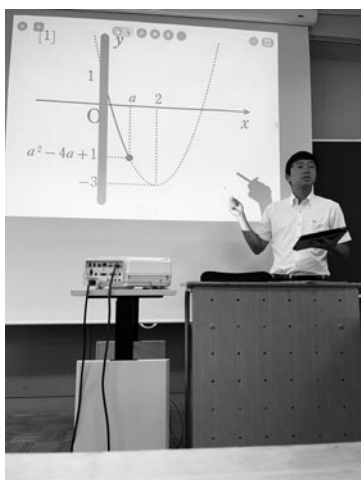
最後の教壇実習を終えて花束を手にする筆者（前列右から5番目）

1. はじめに

私は令和5年度から専修大学附属高等学校の数学科教諭として勤務しています。大学卒業後、拓殖大学第一高等学校、日本大学高等学校中学校、専修大学附属高等学校で講師として勤め、現在に至ります。今年度から教諭になり、私自身の体験を通じて感じたことについて触れていきたいと思います。

2. 日々の授業

授業方法については、教師として学校に勤め始めてから、いくつかの方法を試してきました。教壇に立ったばかりの頃は、まだICT教育が発展しておらず、教科書・ノート・黒板を用いたシンプルな授業、グループで課題に取り組むアクティブラーニング型の授業、勤務先が変わってからは、iPadとスクリーンを用いた授業など、いくつかの方法で授業をしてきました。個人的には、生徒の学びの方法としてはどれも一長一短かと思います。ノートに書いて学ぶ、互いに教えあいながら学ぶ、見て学ぶなど、授業の方法によって生徒の学び方が変わる中で、私は生徒同士が教えあうことを重視しています。もちろん新しい知識を教授するにあたり、課題解決の0から1の土台を作るのは教師としての役目かと思いますが、それでも理解度の異なる数十人の中では、互いに教えあうことの意味を強調して授業を行っています。私語にならないような注意は必要ですが、互いに教えあうことで、教える側にとってもより深い理解ができるなど、聞きやすい環境をつくりながら授業に臨ませることを重視しています。



3. 担任としての生徒との関わり方

担任を持つようになり、クラス行事に関わるようになりました。担任としてたくさん動

かなければと思っていましたが、各生徒に責任を持たせることの方が大事だとつくづく思います。担任のための行事ではなく、生徒のための行事であり、アドバイスをするのはあっても、学校のルールを守っているのであれば、生徒たちで決めたことにとにかく言うのは違うなと感じます。係の仕事や委員会の仕事でも、説明や決めごとの時間を作るのはもちろんですが、責任をもって行動してもらうため、すべて自分たちで動いてもらうようにしています。責任を押し付けているようにも見えますし、様々な決め事を生徒だけにやらせるのは不安なときもたくさんありますが、生徒の成長を思えば、必要な時間であると強く思います。

4. 部活動での生徒との関わり方

野球部という集団スポーツの中で監督をしています。クラスとは違い、自らが好きなスポーツで、同じ志を持った者たちの集まりということもありますが、だからこそ生まれる目的に対する気持ちの強弱の差には気を掛ける必要があります。自分たちで掲げた目標としても、どうしても目標意識の低い生徒もいます。そんな生徒に対して、強制的に気持ちを強くしろだなんて言っても、所詮はやらされているだけで、意味はありません。こんな簡単な言葉で済ましてよいかわかりませんが、楽しんでもらうことが一番です。楽しむこととふざけることの違いはハッキリさせないといけません、勝つための楽しみ、勝つことの楽しみを知ってもらうことが、一番ではないでしょうか。

5. おわりに

生徒のためにこれをやりたい、あれをやりたいと思うこともありますが、最後は生徒がどうしたいかです。授業、担任、部活動において、最初から最後まで手助けすることが正解ではなく、動くための土台を作り、その先は自身の力で動いてもらうこと。いわゆる主体性を育ませることが一番大事だと思います。そして、それを実現させるための最良の方法を見つけることが、この先の永遠の課題です。



Knowledge Base（神田キャンパス 10 号館）

司書・司書教諭・学校司書課程



図書館本館（生田キャンパス 9 号館）

「学校図書館メディアの構成」の授業を通して

経営学部 兼任講師 斎藤 純

1. はじめに

本稿ではガイダンスとして、司書教諭課程において実際に本年度行った「学校図書館メディアの構成」の授業の様子を紹介します。司書教諭課程受講の際の参考になれば幸いです。

2. 「学校図書館メディアの構成」について

本科目は、司書教諭課程の5科目うちの1つに該当する科目です。シラバスには講義内容として、「学校図書館メディアの構成に関する基礎的な知識やスキル等を学び、学校図書館メディアを扱う専門職としての資質・能力を獲得する」とありますが、具体的な内容はイメージしづらいかもしれません。簡単に言えば、現状の学校図書館に配架してある、さまざまなメディアに特化した内容を学んでいく講義です。

たとえば、皆さん自身のこれまでの学校生活（小・中・高校時代）を振り返ってみてください。学校図書館を活用したり、本を借りたりした思い出・経験が少なからずあるかと思います。その際に、図書館にある本や雑誌等の資料は実際にどのようなプロセスを経て選ばれているのでしょうか。また、リクエストはどのように扱われ、実際に入荷した本はどのような配架のされ方をしているのでしょうか。これらの業務が「メディアの構成」にあたります。図書館は、本や雑誌等の資料が存在しなければ、そもそも機能しません。そういう意味では図書館の根幹をなす生命の源ともいえるのが、各種メディア（資料群）で、それらを柔軟に構成していく業務が「学校図書館メディアの構成」と考えると、かなりイメージが付きやすいのではないのでしょうか。

3. 授業の概要と流れ

司書教諭課程の多くは、教科書として課程のテキストを用いその内容に基づいて講義を行っていく流れが一般的かと思います。本授業も、基本書としてテキストの使用を勧めています。いわゆる教科書的な知識に偏重する



ディスカッションの様子

ことは極力避け、せっかく得た知識ですから、なるべくそれを実践的に応用・活用し、楽しく定着できるような授業を心掛けていま

す。

そのため、授業の前半部分は主に理論や知識などの基礎的内容をしっかりと教授しつつ、それらの知識を活かすために、後半ではディスカッションやワーク的なアクティビティを随所に取り入れ、バランスの良い学びを行っています。

こうした授業づくりができたのは、受講者数がそれほど多くなかったことも大きかったかもしれません。ちなみに今年度は14人の受講生でしたが、結果的にはまるで少人数制のゼミのように一人一人にきめ細かい支援やフォローを行うことができました。

4. 「ふりかえり」も重視します

本授業では、毎時間の全ての活動が終わった最後に、5分程度のふりかえりの時間を設け、その内容を文書化し提出してもらっています。とはいってもその中身はレポート的な硬質なものではなく、各自が学んだ内容をあらためて整理し、授業を通して自分が新たに得られた発見や気づきなど、未来の皆さんに還元できる内容を目指し書いてもらっています。

受講生の皆さんは、毎時間大変熱心な様子で授業に取り組んでくれました。そのため、ふりかえりシートでは自己が啓発された内容だけでなく、授業に関するさまざまな疑問や質問なども多く書かれていました。こうした質問・疑問の中で、皆で共有すべき大きなテーマについては、翌週の授業の中でその質問に答えるコーナーを適宜設けました。これにより、講義内容の補足ができるとともに各自の習熟度がより高まる結果となりました。また、授業が終わったあとに直接私に質問に來たり、時には将来の進路選択の悩み相談などを寄せたりする場面も多々ありました。大学生という期間は、特に自身の今後のキャリア構築を考えていく上でも、悩みが尽きない時期だと思いますので、こうした質問も大歓迎していますよ。

5. 特に印象的な場面

最後に、今年度授業を行っていた中で、特に受講生から人気が高かった（好評だった？）いくつかの場面を紹介します。スケジュール的には全講義の中で特に後半部分に設定された、次のような活動です。

(1) ビブリオバトル大会

1つめは、シミュレーション的活動として、授業の中でビブリオバトル大会を行った

ことです。前半部分で学校図書館の選書に関する基礎的知識等をしっかり理解した上で、学校図書館メディアに関連した活動として、（仮想）図書委員会生徒のプロデュース企画をするという設定で、ビブリオバトル大会を行いました。ここでは受講生の皆さん一人一人が図書委員会の生徒になりきって、図書館で行うイベントとして各自がおすすめの本を紹介するアクティビティーを行いました。

中学校や高校等で行った経験がある人もいるかもしれませんが、いわゆる国語科等の授業の一環で行う通常のビブリオバトルだと、どうしても発表者の話術やパフォーマンスに目が行きがちで勝負的要素が強くなりますが、そうした点に特化するのではなく、自由な雰囲気の中で一人一人が和気藹々と本について語り合うことを重視した、楽しむためのイベント企画です。紹介された本に関する質問や座談会的な交流も多々あり、何よりも全員が新しい本の魅力と出会えるこの共有空間を、心より楽しんでいました。また、投票の結果上位作品に選ばれた作品については、実際に「今後、学校図書館に入荷します」という設定で行ったため、各自がインセンティブを高めつつ、楽しみながら図書館運営に共同参画するあり方を、身をもって体感することができました。受講生からの代表的な感想に「ぜんぜん硬い雰囲気がなくて、各自が自分のペースで好きな本を熱く語る様子が何よりも良かったです!」、「実際に中学生の子どもになったつもりでこの活動を行っていたら、なんだか自然とすごく楽しくなってきた、こういう授業は大いにありだな」と思いました。

1回で終わりののは少なすぎます。また是非やってみいたい」などのコメントがあり、こちらの予想以上に好評な活動となりました。



ビブリオバトル大会の様子

(2) 模擬選書会議

また、最終試験の一つの前の授業では、実習形式の活動として「模擬選書会議」を行いました。「選書会議」とは、図書館に入れる資料

の可否等を組織的に審議・検討するための会議です。授業では3～4人の小グループに分かれ、①司書教諭、②学校司書、③生徒指導の先生、④図書委員の代表生徒、の4つの役割を決め、ロールプレイ形式で選書会議を行い、問題となりそうないくつかの本についての選定の可否を議論しました。「選書会議」は教科書等でその重要性が明記されるものの、実際にどのように行うかといった点はイメージしづらいものです。だからこそ、百聞は一見にしかず、実際に会議を開催し割り当てられた役割を演じながら体感することで、はじめてその意義や新たな発見等が得られるものです。

実際に多様な主張が混在する議論となりましたが、最終的な結論に向けて活発な意見が交わされ、受講生の皆さんは非常に楽しんで取り組んでいました。

ふりかえりでは「私は厳格な生徒指導の先生役を演じました。普段の自分のキャラとは180度違う人物を演じたため、逆に新鮮で楽しく、先生方が普段どのような思いで生徒を見ているのかが実感でき、議論によって合意形成していく大切



さが自然と学べました」というコメントが見られ、印象深い活動となったようです。



模擬選書会議の様子

6. さいごに

以上、ここでは司書教諭課程授業の一場面を焦点化して紹介しましたが、大学で行われるすべての授業/講義にはそれぞれ大きな意味があり、学びの取り組みは有意義なものです。自身の興味のレーダーが少しでも動きそうなものがあれば、ぜひ積極的に受講し自分の裾野を広げていきましょう。「思い切ってやってみることに、プラスしかありません!」今後の皆さんの積極的な姿を目にするのを楽しみにしています。

図書館実習を終えて

川越市立図書館 文学部ジャーナリズム学科3年 宇津 海翔

私は11月14日から17日の4日間、川越市立図書館で実習させていただきました。川越市立図書館は中央館と分館3館、そして中央館の分室1室が連携してサービスを展開しています。実習は初日と最終日は中央館で、二日目と三日目は各日異なる分館で図書館業務を体験したり、研修を受けたりしました。

初日は中央図書館で実習しました。中央図書館は市内最大規模の図書館であり、川越市の知の根幹を支え、中央館として全体の管理・運営を行っています。実習内容は、まずは施設案内を受け書架整理をした後、資料の予約申請や雑誌の受け入れの処理などをしました。初日の実習で特に印象に残ったことは、職員が利用者最優先で職務を行っていたことです。例えばカウンターの付近で予約申請の処理を指導くださった際も、職員は常にカウンターに気を配り、利用者を待たせることがないようにされていました。

二日目は西図書館で実習しました。西図書館は小学校と公民館が併設された複合施設内にあり、小学校の施設を市民が利用することもできます。また、川越市立図書館の障害者サービスの中心館となっており、録音図書や布絵本の作成がボランティアによって行われています。実習内容は新刊検収や相互貸借資料の処理などに加え、布絵本の作成を見学したほか、乳幼児向けのおはなし会で絵本を読み聞かせました。読み聞かせは、練習時間は短かったのですが授業で学んだ知識も活用し、緊張しつつもしっかりできました。そして、おはなし会に関して印象に残る話をお聞きしました。乳幼児向けのおはなし会は平日に開催されますが、近年は専業主婦の減少などの理由で休日に開催するニーズが高まっているそうです。しかし、複数館ある図書館のうちの一館が日程を変更すると、他の館に同様の日程変更を求める苦情が寄せられることが予想されるため、他館と話し合う必要が



相互貸借資料の処理の様子

あるそうです。各館で判断すべきことのように見えても複数館での話し合いが必要な場合があると学びました。

三日目は高階図書館で実習しました。高階図書館は市民センターの中にあり、公民館や市役所の出張所が併設されています。特徴として、視聴覚資料が充実していたり、早期から布絵本や点字図書、そして読書を支援するツールなどをまとめた本棚である「りんごの棚」を設置していたりします。実習内容は、基礎業務の後に記述式の課題に取り組み、その課題を元に館長と議論を行う研修を受けました。課題は川越市立図書館の特徴や理想の図書館について考えた後、「高階図書館に座席が多いのはなぜか」という問いに答えるものでした。私の答えは「図書館にいるためのスペースを確保するため」でしたが、館長が用意した答えは「高階図書館が滞在型図書館をコンセプトにしているため」でした。

最終日は再び中央図書館で実習しました。午前中は基礎業務を行い、午後はレファレンス研修を受けました。索引のない郷土資料からキーワードを見つけ、必要な情報を探し出すことは大変でしたが、職員のアドバイスも受けてレファレンス回答の作成ができました。



レファレンス研修の様子

今回の実習を通して、授業だけでは学べない現場の苦労ややりがいを感じることができました。基礎業務で用いたシステムは授業で習うのと実際に使用するのとは感触が異なり、また図書館が直面している予算の問題についても苦労していることを実感しました。複数館で実習したことで、複数のシステムや様々な職場の雰囲気を感じることができ、また司書を始めとする公務員への就職についてアドバイスをいただくことができて大変勉強になりました。

最後に、お忙しいなかで実習を受け入れて指導くださった職員の皆様方、大変ありがとうございました。

卒業生から

埼玉県立大宮光陵高等学校 司書 青木 涼（平成24年度文学部人文学科環境地理学専攻卒業、令和4年度科目等履修生学校司書課程修了）

はじめに

私は図書館の仕事に興味を持ち、大学時代に司書課程を受講しました。ただ、当時は司書の採用はほとんど無く、司書になろうとは考えていませんでした。しかし、4年生のときに埼玉県で司書の採用が再開され、司書になれるかもしれないと思い採用試験を受験しました。このときは合格には至らず別の仕事に就職しましたが、3年後に再度受験し合格をいただくことができました。採用後は県立高校に配属され、現在は2校目の大宮光陵高校に勤務しています。



七夕の頃の館内装飾の様子

埼玉県の司書職について

埼玉県職員には、行政職として「司書」の採用区分があり、県立図書館と県立学校で共通の採用となっています。令和3年度からは就職氷河期世代選考も行われています。県立学校のうち、高校は全校に司書が配属されていますが、特別支援学校は埼玉保己一学園（盲学校）のみの配属になっています。

高校の図書館での仕事

県立学校に配属される司書は1校に1人です（大規模校の伊奈学園総合高校・中学校を除く）。このため1人で図書館業務全般を進めていく必要があります。授業利用への対応や図書委員会の指導、掃除当番の監督なども行います。

ただし、1人で自由に仕事を進めていいわけでもありません。上司に相談するのはもちろんのこと、「図書館部」などの図書館が所属する校務分掌の教員や司書教諭とも協力して仕事を進めていく必要があります。新しい取り組みを行う場合には職員会議で提案するなど、教職員全体の理解を得る必要がある場合もあります。学校内の組織は企業などの組織とは異なり、教科・学年・校務分掌・部活動顧問など複数の組織が組み合わさっていて、慣れるまでは理解しにくいです。しかし、教職員から図書館の活動への理解が深まると、授業での活用など教職員の利用も活発

になるように感じています。

また、学校図書館は生徒のニーズに応えることも大切ですが、授業での利用など学校の教育活動に寄与していくことも必要です。特に高校の場合は学校によって様々な特色があり、それに対応した選書や図書館づくりをしていく必要があります。現在勤務する大宮光陵高校は、普通科に加えて普通科外国語コース・書道科・美術科・音楽科が設置されていることから、芸術関係の資料の利用が多くみられます。

学校司書課程の受講

司書は図書委員会や掃除の指導などもすることから、生徒に関わる機会も多く、生徒からは先生的一种として見られます。しかし、教員免許を持たない私には、学校教育についての知識がありませんでした。行政職であるため、それに関する研修もありません。このようなことから、専修大学の学校司書課程を、科目等履修生として勤務後の時間で受講することにしました。

私は司書課程を旧カリキュラムで修得したため、現在の司書課程と重複している科目についても受講する必要がありました。修了まで4年もかかってしまい、正直なところ大変でした。学校司書に少しでも興味がある方は、大学在学中に司書課程と並行して受講するのがおすすめです。

しかし、ここで得られた知識は、授業利用への対応や教員と仕事を進める際に役立っていると感じています。



図書館全景

おわりに

司書は学校のなかでは1人職種のため、1人でさまざまな仕事をしなければなりません。慣れるまではかなり大変かと思いますが、独り善がりな仕事になっていないか気を付ける必要もあります。一方で、校内で1人の図書館専門職として図書館業務の中核を担うことができ、自身の力量で図書館をより良くしていくことができます。そこがこの仕事の醍醐味であるように思います。



Knowledge Base（神田キャンパス 10 号館）

学芸員課程



展示実習室（生田キャンパス 2 号館）

学芸業務と博物館の機能 —地域博物館と大学博物館—

くにたち郷土文化館 学芸員（嘱託）・昭和大学上條記念ミュージアム 学芸員 中根 聖可（平成25年度文学部哲学科卒業）

1 はじめに

私は大学を卒業後、事務職を経て、学芸員の職に就きました。2019年から東京都国立市にあるくにたち郷土文化館に、2022年からは東京都品川区にある昭和大学上條記念ミュージアムに、いずれも非常勤という形で入職し、現在は2つの職場に勤務しています。どちらの博物館も、資料を収集、保管して、展示等で活用するという点は同じですが、館の目的や機能は異なり、業務をする上で求められる視点も変わってきます。ここでは、それぞれの館が担う特徴的な機能に触れながら、普段の業務内容を紹介したいと思います。

2 くにたち郷土文化館

(1) 概要

くにたち郷土文化館は、東京都国立市が設置し、公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団が運営を担う地域博物館です。国立市は東京都の中央部に位置し、ハケと呼ばれる段丘崖が東西に走り、ハケの下からは、年間を通して安定した湧水が得られ、旧石器時代から人々が生活を営んできました。館の常設展示室は、「過去・現在・未来を結ぶ一多摩川が育んだ段丘（ハケ）とともに生きる私たち」というテーマの下、国立市域の歴史を概観する構成となっており、市内の遺跡から出土した縄文土器や、重要文化財に指定されている大形石棒、大正時代以降の国立大学町開発に関わる資料等を展示しています。



展示解説の様子（くにたち郷土文化館）

企画展を年に3～4回開催する他、講演会や自然観察会、年中行事の体験イベントや、市内の小学3年生を対象とした民具の体験授業等を開催しています。

(2) 主な業務内容

私が行っている日常的な業務には、収蔵資料のデジタル化や、写真資料の貸出手続き、収蔵庫の温湿度管理等があります。資料の劣化を抑えるために欠かせない温湿度の管理には、10分毎に測定値を記録するデータロガーを用いています。測定値が適正な範囲内に収まっているかを確認し、館の職員で情報

を共有します。当館には保存科学専門の職員がいないため、外部の研修会で学んだ知識を実践に取り入れています。

講演会や体験イベントでは、他の学芸員のサポートに回ることが多いです。申込の受付や、広報物の発送作業などの事務的な作業を受け持って、市内各所に設置された掲示板に告知用のポスターを貼るため、自転車で市内を走りまわったりもします。

次に博物館のメイン業務とも言える企画展について紹介します。当館では、外部業者は入れずに、館の職員だけで準備を行います。重量のある資料の運搬や、演示具の作成、大きな脚立に登ってのライティング作業等、展示作業は体力勝負の仕事でもあります。チラシやポスターは、デザインソフトであるIllustratorやPhotoshopを使って作成します。映像資料を上映する際には、映像の尺を調整し、字幕を付けるなど、来館者が視聴しやすいように編集作業を行うこともあります。

新型コロナウイルスの流行によって、博物館の活動自粛が要請された際には、デジタルコンテンツを提供する施設が増えました。当館も外部への情報発信のために、YouTubeで動画を公開したり、私の担当した企画展では、開催にあわせて、関連資料を閲覧できるデジタルアーカイブを作成しました。



デジタルアーカイブサイトトップ画面（くにたち郷土文化館）

(3) 館の機能

当館に収蔵されている資料は、国立市民の財産であり、市民の利用に供するために、収集、保管、展示を行います。子どもからお年寄りまで、多くの方が利用しやすいよう、資料や情報への一定のアクセシビリティを確保することが求められます。

当館では、講堂や研修室の貸出も行っており、俳句や陶芸、楽器演奏等の文化的活動を通じて市民が集う場でもあります。当館で活動しているサークルや、国立の歴史や自然を守り伝える市民団体の方々と協力して、展示やイベントを行う等、社会教育施設として国立市の生涯学習の一翼を担っています。

3 昭和大学上條記念ミュージアム

(1) 概要

昭和大学上條記念ミュージアムは、大学の創立 90 周年事業の一環として、2019 年に開館しました。常設展示室では、1928 年に「真の臨床医家」の養成を目的として開校し、現在では医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部が揃う医系総合大学として知られる昭和大学の歴史と、創立者である上條秀介氏に関する資料を中心に展示公開しています。また、上條氏の掲げた建学の精神「至誠一貫」（常に相手の立場に立ち、まごころを尽くすという意）を再認識し、歴史資料とともに次の世代へと伝えることを目指しています。開館当初は、学内の職員がミュージアムの業務を兼務する形で運営されていましたが、2022 年より私を含め 2 名の学芸員が勤務しています。

(2) 主な業務内容

日常の業務には、収蔵資料の整理、受け入れ資料の登録、収蔵環境の整備、来館者対応等があります。収蔵資料は、「I.B.MUSEUM SaaS」という専用データベースで管理しており、新規の受け入れがあった際や、調査で判明したことがあれば、ここに資料に関する情報を登録します。資料は、それがどんなものであるのかが分からないと充分な活用ができません。必要な情報を記録して、いつでも適切な活用ができる状態を目指しています。

ミュージアムが収蔵するのは、大学組織内で作成された文書や写真、臨床や実習に使用された医療機器、周年記念の際に寄贈された美術品など様々です。昭和大学は、大学や大学院の他に 8 つの附属病院を持つ組織であり、どの部署で使用されていた資料であるのかという情報が重要であるため、大学の組織図に基づいた分類が採用されています。

学内行事にあわせて団体見学が入ると、ミュージアムの職員総出で、展示解説と会場



常設展示室（上條記念ミュージアム）

の案内を行います。企画展は年に 1 度の開催ですが、学芸員は勿論、事務職員、学生アルバイトが協力して展示設営を行っています。

(3) 館の機能

ミュージアムは一般の方も見学することができますが、開館日が平日の週 2 日であることから、利用者の多くは、学生や大学職員です。毎年開催される新入生や新入職員のためのミュージアム見学会は、大学の伝統や特色を認識し、在学生あるいは在職者としての誇りを身に着けるための「アイデンティティ教育」の場となります。

またオープンキャンパスに訪れる高校生や、留学生、研修生に対しては、本学の教育理念や尽力する産学連携を周知する広報の役割も果たしています。

4 おわりに

博物館が行う事業の幅は広く、学芸員の業務も多岐にわたります。また、博物館の目的や機能によって、資料の保存や活用の方法、運営方針も変化します。現在は動画配信等を通じて活動状況を発信する博物館や、オンラインで開催される学会も増え、各施設の特色のある実践や、博物館業界における問題意識に触れることができます。実際に展示を観たり、講演会やイベントに参加してみることもお勧めします。

専門外の資料や情報を取り扱うことも少なくないため、あらゆる分野に関心を持つよう心掛けておくといいです。最新の動向を把握して、様々な分野に精通する必要はありません。業務を行う上で生じた疑問や問題を解消できそうな分野へアクセスする手段や、相談できる窓口を知っているというだけでも大きな強みになります。

博物館に収蔵されている資料は、それまで人々が守り伝えてきた文化財です。学芸員資格課程を履修している方や、履修を検討している方は、必ずしも学芸員を目指している方だけではないと思いますが、人々が大切に継承してきたものに対する関わり方や接し方を学ぶことは、どんな仕事をする際にも役立つものと思います。

学芸員の業務や博物館の在り方について、現場の雰囲気を感じていただき、皆さんの進路選択の一助となれば幸いです。

博物館実習を終えて

行田市郷土博物館 法学部法律学科3年 只野 美由香

私は、7月25日から8月5日の期間に、埼玉県行田市にある行田市郷土博物館で実習を行いました。郷土博物館は、市の歴史や民俗に関する資料を収集、保存し、市民の教育等に寄与する目的で忍城本丸跡地に開設された博物館です。行田市に関する資料が古代から近代まで幅広く展示されており、また、行田市は明治以降「足袋の行田か、行田の足袋か」といわれており、足袋の生産で栄えた町として、ひとつのフロアを使って、一足の足袋ができる行程を展示しています。

私は、法学部に所属しており、実習先を選ぶ過程で、考古学や史学専攻を優先する館が多く、法学部は選択できる場所が少ないのが現状でした。また博物館や学芸員にまつわる分野の学習は、大学での学芸員課程のみであり、十分な知識があるとは言えない状態で博物館実習に参加することになりましたが、郷土博物館では考古学や史学を専攻している実習生はおらず、様々な分野の学生が集まり10日間協力しながら実習を行いました。

実習では午前中は講義形式で様々な資料について学び、講義が終わり次第、実際に資料に触れ、観察や整理などを行いました。その他にも、小学生を対象とした体験学習の準備と開催や、講演会の準備に資料の写真撮影など、多岐にわたる業務を体験することができました。

講義は主に、文書、美術、考古、民俗の4つの分野の資料の取り扱い方を学びます。文書資料では、未整理の文書を整理した後も元に戻すことができるように現状記録を取り、題や宛先などを読み取り整理する作業を行いました。ここでは「平等取扱いの原則」といって、すべての資料を平等に扱うということが当たり前です、地方の文書と、織田信長に関連する文書、どちらも平等な価値なのか、その価値を決めるのは現在の私ではな



文書整理の様子



資料撮影の様子

く、後世の人々であるため、平等に資料を扱う必要があると、学芸員の先生から学び、博物館の意義を改めて認識する機会となりました。美術資料では、掛軸と巻子の扱い方を学び、これにおいても、自分の行為が将来どのように資料に影響するか考え扱うことが重要であると学びました。考古では、発掘資料の水洗い、民俗では寄贈されたコレクションを分類し、資料調査カードを記入、またテグスを使った固定など展示作業の一端に触れることができました。

実物の資料に触れる前に、講義にて取扱い方を学び、また、資料に触れている際も、些細な質問に学芸員の先生が答えてくれるため、緊張せずにリラックスした状態で実習に取り組み、大学講義で行った資料撮影や展示実習なども生かすことができました。不安視していた自分の学部も関係なく充実した10日間となり、自分の将来を考える貴重な経験となりました。

博物館において、資料を保存し、後世に伝えることは重要です。そのために資料は急がず焦らず丁寧に迅速に扱うことが求められますが、保存だけでなく来館した人たちに新たな発見を与えることも博物館の役割だと、実習を通して感じました。実際に城絵図を用いた体験学習の際に、忍城の本丸に城主は住んでいなかった、など様々な説明をしながら体験をしてもらおうと、付き添いの保護者の方が驚いた顔で楽しそうに解説を聞いてくださり、とてもやりがいを感じたためです。

学芸員課程を履修し、資格を取ったとしても学芸員に実際になれるのは、ほんの一握りであるのが現実です。しかし、実習最後に鈴木館長から「学芸員になれなくとも良き利用者になってください」と言葉をいただき、学芸員課程を履修したことの意味は必ずあると思いました。これから、資格課程を履修する人、悩んでいる人、実習に不安を感じている人たちに、少しでも参考になればと思います。

私は8月15日から20日にかけての6日間、福島県南相馬市の南相馬市博物館にて実習を行いました。南相馬市博物館は、国指定の重要無形民俗文化財である“相馬野馬追”に関連する資料を中心に、市内および周辺地域の歴史、自然、民俗資料を収集し、調査と研究を行ったうえで展示している総合博物館です。

実習期間中は、資料の収集や保存管理、展示公開等の資料の活用に関連する具体的な調査や方法について、自然、考古、歴史、民俗、野馬追の各分野にて実務実習を行いました。その中には私が経験したことのないことも数多くあり、普段学べない知識を得られる貴重な期間となりました。中でも、特に印象に残っていることが3つあります。

1つ目が、刀剣や甲冑の扱い方についてです。南相馬市博物館では、野馬追という伝統的取り組みを継承していくために、積極的に関連資料の収集を行っています。その一部が実際に野馬追で用いられる甲冑や刀剣であり、今回の実習にてその扱い方を学びました。私は今まで実物の甲冑や刀剣に触れたことがなく、博物館で鑑賞する形でしか接する機会がありませんでした。そのため、初めて実際に扱ってみたことで、今まで見ることしかできなかった資料を実際に手にとっている、ということに高揚感を抱くことができました。それと同時に、社会の状況によって変質しうる野馬追の伝統を末永く継承していくうえで、関連資料を正しく扱えることが伝統の継承に繋がっていくのだと、実感することができました。

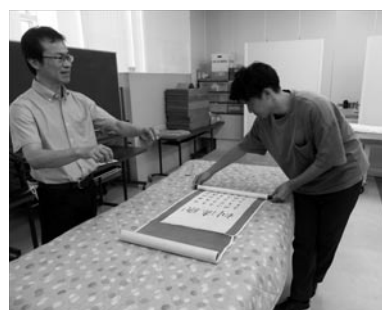


南相馬市博物館外観

2つ目が、遺跡を見学して保存活動の現状を学んだことです。私は考古学ゼミに所属しており、その中でも装飾古墳という分野を中心に研究をしているのですが、それと関連する羽山横穴という遺跡が市内に存在し、今回

特別に見学させていただきました。遺跡の内部は、描かれた壁画が空気に触れて劣化しないようにガラスで厳重に保護されており、遺跡を保存するための設備を学ぶことができました。また、この遺跡は私の研究に密接に関係する内容で、現段階での遺跡に対する考察を伺うこともできました。そして、研究を行っていく上では問題意識を持つことが肝要であり、それがあることによって、保存や調査に意義を持たせることができると、改めて実感することができました。

3つ目が、震災に関連した館の取り組みについて解説をいただいたことです。南相馬市は、東日本大震災で



掛軸の扱い方を学ぶ(右が筆者)

地震による建物の被害だけでなく、原子力発電所事故の影響も受けていました。南相馬市博物館も緊急時避難準備区域に設定されており、運営ができない状態がしばらく続きました。また、当時は県全体が風評被害を被っていた深刻な状態でした。そこで、南相馬市博物館では地域に関連した収蔵資料を展示することで、ふるさとの良さを見直してもらう取り組みが行われました。また、震災後のある特別展では地域に向けてメッセージを書くことができるボードを設置し、資料を“創り上げる”活動が行われました。そして、震災から10年が経過した際に行われた特別展では、当時の人々の思いをよりストレートに伝えるために、その時の“ことば”を文字に起こして併設する手法が採られました。これらのことから、資料とは有形無形に限らず、過去と現在、そして未来をつなぐものであり、それらを遺すことが、知恵や思いの継承につながるのだと学ぶことができました。

今回の博物館実習で、今まで学んできた資料の扱いや知識を実際に経験し、身近で観察することができました。そして、資料を後世へと継承していく責務を全うする学芸員という職業が、改めて魅力的だと感じることができました。まだまだ学ぶべきことが数多くありますが、今回の経験を胸に留め、今後の授業に励んでいきたいと思います。



「私立専修大学」と改称した頃

データ編



2号館・3号館（奥）（生田キャンパス）

令和5年度 教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修者数

教職課程

令和5年5月1日 現在

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	—	—	1	1
		現 代 経 済	5	7	6	10	28
		生 活 環 境 経 済	11	12	7	4	34
		国 際 経 済	12	7	6	8	33
	法	法 律	16	31	11	15	73
		政 治	10	15	6	8	39
	経 営	経 営	13	16	4	6	39
		マ ー ケ テ ィ ン グ	15	11	13	4	43
	商	会 計	1	4	2	3	10
		日 本 語	—	—	—	2	2
	文	日 本 文 学 文 化	17	17	18	20	72
		英 語 英 米 文	25	42	14	12	93
		哲 学	9	9	6	9	33
		歴 史	50	42	30	22	144
		環 境 地 理	16	5	6	5	32
	ネットワーク情報	人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	—	0	0
		ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	21	21	18	12	72
	人 間 科	心 理	3	2	3	2	10
		社 会	15	14	12	5	46
	国際コミュニケーション	日 本 語	3	22	15	16	56
	小 計		242	277	177	164	860
二 部	経 済	経 済	—	—	—	0	0
	法	法 律	—	—	—	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	0	0
	小 計		—	—	—	0	0
合 計			242	277	177	164	860
科 目 等 履 修 生			—	—	—	—	7
大 学 院 生			—	—	—	—	2
総 計			242	277	177	164	869

1 4年次には、5年次以上も含む。

2 経営学部ビジネスデザイン学科、文学部ジャーナリズム学科及び国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科は、履修できない。

司書課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	—	—	0	0
		現 代 経 済	0	2	0	2	4
		生 活 環 境 経 済	1	0	1	1	3
		国 際 経 済	0	1	1	0	2
	法	法 律	2	2	3	0	7
		政 治	4	1	0	2	7
	経 営	経 営	1	0	2	1	4
		ビ ジ ネ ス デ ザ イ ン	0	0	1	0	1
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	1	2	4	1	8
		会 計	1	0	0	0	1
	文	日 本 語	—	—	—	0	0
		日 本 文 学 文 化	23	25	17	9	74
		英 語 英 米 文	3	3	3	0	9
		哲 学	0	3	6	5	14
		歴 史	0	6	5	11	22
	環境地理	環 境 地 理	0	1	2	0	3
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	—	0	0
	ネットワーク情報	ジ ャ ー ナ リ ズ ム	2	10	8	4	24
		ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	0	4	4	4	12
	人 間 科	心 理	0	3	6	0	9
		社 会	5	6	7	0	18
	国際コミュニケーション	日 本 語	0	6	6	3	15
		異文化コミュニケーション	1	0	0	1	2
	小 計		44	75	76	44	239
二 部	経 済	経 済	—	—	—	0	0
	法	法 律	—	—	—	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	0	0
	小 計		—	—	—	0	0
合 計			44	75	76	44	239
科 目 等 履 修 生			—	—	—	—	4
大 学 院 生			—	—	—	—	0
総 計			44	75	76	44	243

1 4年次には、5年次以上も含む。

司書教諭課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	—	—	0	0
		現 代 経 済	0	0	0	0	0
		生 活 環 境 経 済	0	1	0	0	1
		国 際 経 済	0	0	1	0	1
	法	法 律	1	2	1	1	5
		政 治	1	0	0	2	3
	経 営	経 営	0	1	0	0	1
		マ ー ケ テ ィ ン グ	3	1	1	0	5
	商	会 計	1	0	0	0	1
		日 本 語	—	—	—	0	0
	文	日 本 文 学 文 化	3	9	9	6	27
		英 語 英 米 文	1	1	1	0	3
		哲 学	1	3	0	0	4
		歴 史	0	1	2	4	7
		環 境 地 理	1	0	0	0	1
	環境地理	人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	—	0	0
		ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	0	2	2	1	5
	人 間 科	心 理	0	0	2	0	2
		社 会	1	3	1	0	5
	国際コミュニケーション	日 本 語	2	5	4	2	13
	小 計		15	29	24	16	84
二 部	経 済	経 済	—	—	—	0	0
	法	法 律	—	—	—	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	0	0
	小 計		—	—	—	0	0
合 計			15	29	24	16	84
科 目 等 履 修 生			—	—	—	—	0
大 学 院 生			—	—	—	—	0
総 計			15	29	24	16	84

1 4年次には、5年次以上も含む。

2 経営学部ビジネスデザイン学科、文学部ジャーナリズム学科及び国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科は、履修できない。

学校司書課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	—	—	0	0
		現 代 経 済	0	1	0	1	2
		生 活 環 境 経 済	0	0	0	0	0
		国 際 経 済	0	0	1	0	1
	法	法 律	0	1	2	0	3
		政 治	0	1	0	1	2
	経 営	経 営	0	0	0	0	0
		ビ ジ ネ ス デ ザ イ ン	0	0	0	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	1	1	0	0	2
		会 計	0	0	0	0	0
	文	日 本 語	—	—	—	0	0
		日 本 文 学 文 化	1	12	6	7	26
		英 語 英 米 文	0	0	1	0	1
		哲 学	0	1	1	2	4
		歴 史	0	2	1	1	4
		環 境 地 理	0	0	1	0	1
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	—	0	0
		ジャ ー ナ リ ズ ム	0	7	4	1	12
	ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	0	3	1	2	6
		心 理	0	1	1	0	2
	人 間 科	社 会	0	2	5	0	7
		日 本 語	1	1	3	2	7
	国際コミュニケーション	異文化コミュニケーション	0	0	0	0	0
		計	3	33	27	17	80
二 部	小 計	経 済	—	—	—	0	0
	法	法 律	—	—	—	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	0	0
	小 計	計	—	—	—	0	0
合 計			3	33	27	17	80
科 目 等 履 修 生			—	—	—	—	3
大 学 院 生			—	—	—	—	0
総 計			3	33	27	17	83

1 4 年次には、5 年次以上も含む。

学芸員課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	—	—	0	0
		現 代 経 済	0	0	0	0	0
		生 活 環 境 経 済	1	0	3	0	4
		国 際 経 済	0	0	1	1	2
	法	法 律	1	0	3	1	5
		政 治	1	0	1	0	2
	経 営	経 営	0	0	0	0	0
		ビ ジ ネ ス デ ザ イ ン	1	0	0	0	1
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	1	1	0	0	2
		会 計	0	0	0	1	1
	文	日 本 語	—	—	—	0	0
		日 本 文 学 文 化	9	12	3	1	25
		英 語 英 米 文	0	3	0	0	3
		哲 学	7	4	3	0	14
		歴 史	28	30	20	3	81
		環 境 地 理	3	2	0	0	5
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	—	0	0
		ジャ ー ナ リ ズ ム	2	7	1	0	10
	ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	1	0	0	0	1
		心 理	2	0	0	0	2
	人 間 科	社 会	3	3	2	0	8
		日 本 語	0	1	1	0	2
	国際コミュニケーション	異文化コミュニケーション	2	0	0	0	2
		計	62	63	38	7	170
二 部	小 計	経 済	—	—	—	0	0
	法	法 律	—	—	—	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	0	0
	小 計	計	—	—	—	0	0
合 計			62	63	38	7	170
科 目 等 履 修 生			—	—	—	—	0
大 学 院 生			—	—	—	—	3
総 計			62	63	38	7	173

1 4 年次には、5 年次以上も含む。

令和 5 年度 教育職員免許状取得件数

区分	学 部	学 科	取得人数	中 学 1 種		高 校 1 種		中 学 専 修		高 校 専 修		合 計						
				教 科	件 数	教 科	件 数	教 科	件 数	教 科	件 数							
一 部	経 済	経 済	1	社 会	1	地 理 歴 史	1	—	—	—	—	3						
		現 代 経 済	10	社 会	5	公 民 業	10					—	—	—	—	15		
		生 活 環 境 経 済	4	社 会	3	公 民 業	4					—	—	—	—	7		
		国 際 経 済	6	社 会	5	地 理 歴 史	5	—	—	—	—	16						
	法	法 律	13	社 会	10	公 民 業	6					—	—	—	—	30		
		政 治	8	社 会	4	地 理 歴 史	8					—	—	—	—	17		
	経 営	経 営	5	社 会	3	地 理 歴 史	6	公 民 業	7	—	—					—	—	8
		商	マ ー ケ テ ィ ン グ	3	社 会	0	公 民 業	3	情 報 学			1	—	—	—			—
	会 計		3	—	—	地 理 歴 史	0	公 民 業	0	—	—	—				—	3	
	日 本 語		0	国 語	0	国 語	0	—	—								—	
	文	日 本 文 学 文 化	18	国 語	14	国 語	18	—	—				—	—	—		36	
		英 語 英 米 文	12	外国語(英語)	12	書 道	4	—	—	—	—	—	24					
		哲 学	5	社 会	4	地 理 歴 史	12	—	—	—	—	—	10					
		歴 史	17	社 会	14	公 民 業	1	—	—	—	—	—	44					
			環 境 地 理	5	社 会	4	地 理 歴 史	16	—	—	—	—	—	14				
	人 間 科	人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	0	社 会	0	公 民 業	5	—	—	—	—	—	0					
		ネットワ－ク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	12	数 学	8	公 民 業	0	—	—	—	—	—	23				
			心 理	2	社 会	1	数 学 情 報	7	—	—	—	—	—	3				
		人 間 科	社 会	4	社 会	4	地 理 歴 史	2	—	—	—	—	—	11				
			国 際 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	日 本 語	15	国 語	13	公 民 業	3	—	—	—	—	—	28			
	小 計			143	—	105	—	190	—	—	—	—	295					
二 部	経 済	経 済	0	社 会	0	地 理 歴 史	0	—	—	—	—	0						
		法 律	0	社 会	0	公 民 業	0					—	—	—	—	0		
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	社 会	0	地 理 歴 史	0	—	—	—	—	0						
		小 計	0	—	0	公 民 業	0					—	—	—	—	0		
科 目 等 履 修 生				5	国 語	0	書 道	0	—	—	—	—	11					
				外国語(英語)	2	外国語(英語)	2											
				社 会	2	地 理 歴 史	2											
				公 民 業	2													
小 計				5	—	4	—	7	—	—	—	—	11					
大 学 院 生				6	—	—	—	—	国 語	1	外国語(英語)	1	11					
					—	—	—	—										
					—	—	—	—										
					—	—	—	—										
小 計				6	—	—	—	—	—	5	—	6	11					
合 計				154	—	109	—	197	—	5	—	6	317					

- この表は、教員免許一括申請をした数である。
- 経済学部経済学科の2019年度以降入学者は高等学校商業の免許状を取得できない。
- 経済学部国際経済学科の2019年度以降入学者は高等学校商業の免許状を取得できない。
- 商学部マーケティング学科の2019年度以降入学者は高等学校地理歴史の免許状を取得できない。

令和 5 年度 司書・司書教諭・学校司書・学芸員資格単位取得者数

区分	学 部	学 科	司 書	司 書 教 諭	学 校 司 書	学 芸 員
一 部	経 済	経 済	0	0	0	0
		現 代 経 済	1	0	1	0
		生 活 環 境 経 済	0	0	0	0
		国 際 経 済	0	0	0	1
	法	法 律	0	1	0	1
		政 治	1	0	1	0
	経 営	経 営	1	0	1	0
		ビ ジ ネ ス デ ザ イ ン	0	—	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	0	0
		会 計	0	1	0	1
		日 本 語	0	0	0	0
		日 本 文 学 文 化	18	7	9	6
	文	英 語 英 米 文	2	1	0	0
		哲 学	3	1	0	0
		歴 史	8	3	3	23
		環 境 地 理	0	0	0	3
	人 間 科	人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	0	0	0	0
		ジャ ー ナ リ ズ ム	4	—	1	1
		ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	3	0	0	0
		心 理	0	0	0	0
	国 際 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	社 会	2	0	1	2
		日 本 語	4	1	2	0
	小 計		47	15	19	38
二 部	経 済	経 済	0	0	0	0
		法 律	0	0	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	0	0
		小 計	0	0	0	0
	科 目 等 履 修 生		2	0	2	0
	大 学 院 生		0	0	0	1
	合 計		49	15	21	39

令和5年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
北海道・東北	青森県	八戸工業大学第二高等学校	公民	経済	現代経済	
	岩手県	専修大学北上高等学校	国語	文	日本文学文化	
	宮城県	聖和学園高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	宮城県	聖ウルスラ学院英智中学校	社会	人間科	心理	
	福島県	郡山市立郡山第五中学校	社会	文	環境地理	
関東	茨城県	日立市立河原子中学校	社会	文	哲	
	茨城県	茨城県立下妻第一高等学校	地理歴史	文	歴史	
	茨城県	茨城高等学校	地理歴史	文	歴史	
	茨城県	明秀学園日立高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	栃木県	芳賀町立芳賀中学校	社会	人間科	社会	
	栃木県	芳賀町立芳賀東小学校	全科	人間科	社会	
	群馬県	高崎商科大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	群馬県	群馬県立前橋東高等学校	国語	文	日本文学文化	
	群馬県	群馬県立中央中等教育学校	公民	文	哲	
	群馬県	群馬県立富岡高等学校	地理歴史	文	歴史	
	群馬県	伊勢崎市立第一中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	埼玉県	春日部市立大沼中学校	社会	経済	生活環境経済	
	埼玉県	埼玉県立越谷西高等学校	国語	文	日本文学文化	
	埼玉県	埼玉栄高等学校	国語	文	日本文学文化	
	埼玉県	東京成徳大学深谷高等学校	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	東京農業大学第三高等学校	地理歴史	文	歴史	
	埼玉県	さいたま市立内谷中学校	社会	文	環境地理	
	埼玉県	栄東高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	千葉県	我孫子市立白山中学校	社会	経済	現代経済	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	千葉県	千葉市立山王中学校	社会	経済	国際経済	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	経営	経営	
	千葉県	敬愛学園高等学校	地理歴史	文	歴史	
	千葉県	昭和学院高等学校	地理歴史	文	歴史	
	千葉県	柏市立柏第四中学校	社会	文	歴史	
	千葉県	千葉市立千葉高等学校	地理歴史	文	歴史	
	千葉県	市川市立第三中学校	社会	文	歴史	
	千葉県	千葉経済大学附属高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	人間科	心理	
	千葉県	千葉県立白井高等学校	地理歴史	人間科	社会	
	千葉県	鴨川市立鴨川中学校	社会	人間科	社会	
	千葉県	市原市立辰巳台中学校	社会	人間科	社会	
	東京都	暁星高等学校	公民	経済	現代経済	
	東京都	東京都立豊多摩高等学校	公民	経済	現代経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経済	現代経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経済	現代経済	
	東京都	大田区立六郷中学校	社会	経済	国際経済	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経営	経営	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	板橋区立高島第三中学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	東京都立小平南高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	葛飾区立新小岩中学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	足立区立第五中学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立城東高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立小平南高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	明優学院高等学校	地理歴史	文	哲	
	東京都	千代田区立九段中等教育学校	社会	文	哲	
	東京都	桜美林中学校・高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	八王子実践高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
	東京都	東海大学菅生高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東京都立神代高等学校	地理歴史（歴史研究）	文	歴史	
	東京都	府中市立浅間中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	東京女子学園中・高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	東京都市大学等々力中学校・高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	専修大学附属高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	東京都立小平南高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	明優学院高等学校	国語	文学研究科		日本語日本文学
関東	神奈川県	横浜市立東高等学校	公民	経済	現代経済	
	神奈川県	神奈川県立市ヶ尾高等学校	公民	経済	現代経済	
	神奈川県	横浜市立東本郷小学校	全科	経済	現代経済	
	神奈川県	座間市立南中学校	社会	経済	生活環境経済	
	神奈川県	川崎市立柿生中学校	社会	経済	生活環境経済	
	神奈川県	神奈川県立城郷高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	神奈川県	神奈川県立市ヶ尾高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	神奈川県	洗足学園中学高等学校	社会	経済	国際経済	
	神奈川県	相模原市立新町中学校	社会	経営	経営	
	神奈川県	横浜商科大学高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	立花学園高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立百合丘高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	藤沢翔陵高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	川崎市立樹形中学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	川崎市立御幸中学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	横浜市立原中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	向上高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立七里力浜高等学校	英語	文	英語英米文	

令和5年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	神奈川県	横浜市立あざみ野中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立生田高等学校	公民	文	哲	
	神奈川県	麻布大学附属高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	鶴沼高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	茅ヶ崎市立西浜中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	川崎市立西高津中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	地理歴史	文	環境地理	
	神奈川県	横浜市立戸塚高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
甲信越	新潟県	津南町立津南中学校	社会	経済	現代経済	
	新潟県	新潟市立五十嵐中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	山梨県	山梨県立巨摩高等学校	公民	経済	現代経済	
	長野県	佐久市立野沢中学校	社会	経営	経営	
	長野県	長野県松本深志高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
北陸	石川県	金沢市立泉中学校	国語	文	日本文学文化	
	福井県	福井県立武生商工高等学校	商業	経営	経営	
	福井県	敦賀市立栗野中学校	英語	文	英語英米文	
東海	静岡県	桐陽高等学校	地理歴史	文	歴史	
	静岡県	焼津市立豊田中学校	社会	人間科	社会	
近畿	大阪府	大阪府立寝屋川高等学校	地理歴史	文	環境地理	
中国	広島県	崇徳高等学校	公民	経済	生活環境経済	
	広島県	尾道市立因島南中学校	社会	文	環境地理	
	山口県	柳井学園高等学校	地理歴史・公民	経済	国際経済	
九州・沖縄	大分県	昭和学園高等学校	国語	文	日本文学文化	
	大分県	稲葉学園高等学校	国語	文	日本文学文化	
	鹿児島県	鹿児島県立大島高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	

令和5年度 教育実習先一覧（神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道	山形県	山形市立商業高等学校	商業	商	マーケティング
	福島県	福島県立福島南高等学校	商業	商	会計
関東	茨城県	茨城県立古河第一高等学校	商業	商	マーケティング
	栃木県	宇都宮市立田原中学校	社会	法	法律
	栃木県	栃木県立宇都宮商業高等学校	商業	商	マーケティング
	群馬県	群馬県立館林商工高等学校	商業	商	会計
	埼玉県	さいたま市立土合中学校	社会	法	法律
	埼玉県	和光市立第二中学校	国語	コミュニケーション	日本語
	埼玉県	埼玉県立蕨高等学校	国語	コミュニケーション	日本語
	埼玉県	埼玉県立熊谷高等学校	英語	科目等履修生	
	千葉県	専修大学松戸中学校	社会	法	法律
	千葉県	市川市立第六中学校	国語	コミュニケーション	日本語
	千葉県	習志野市立第二中学校	国語	コミュニケーション	日本語
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	科目等履修生	
	東京都	西東京市立田無第二中学校	社会	法	法律
	東京都	成城中学・高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	京華中学・高等学校	公民	法	法律
	東京都	小平市立小平第一中学校	社会	法	法律
	東京都	東京都立日野高等学校	公民	法	政治
	東京都	自由学園高等科	地理歴史	法	政治
東	東京都	練馬区立開進第一中学校	国語	コミュニケーション	日本語
	東京都	三鷹市立第一中学校	国語	コミュニケーション	日本語
	東京都	三鷹市立中原小学校	全科	コミュニケーション	日本語
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	コミュニケーション	日本語

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	専修大学附属高等学校	国語	コミュニケーション	日本語
	神奈川県	立花学園高等学校	地理歴史	法	法律
	神奈川県	横浜市立もえぎ野中学校	社会	法	法律
	神奈川県	川崎市立住吉中学校	社会	法	政治
	神奈川県	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	地理歴史	法	政治
	神奈川県	神奈川県立横浜立野高等学校	地理歴史	法	政治
	神奈川県	藤沢市立鶴沼中学校	社会	法	政治
	神奈川県	神奈川県立座間総合高等学校	公民	法	政治
	神奈川県	横浜市立早渕中学校	国語	コミュニケーション	日本語
	神奈川県	向上高等学校	国語	コミュニケーション	日本語
	神奈川県	湘南工科大学附属高等学校	国語	コミュニケーション	日本語
	神奈川県	向上高等学校	国語	コミュニケーション	日本語
	神奈川県	神奈川県立麻生高等学校	国語	コミュニケーション	日本語
	神奈川県	海老名市立大谷中学校	国語	コミュニケーション	日本語
甲信越	新潟県	新潟県立新発田南高等学校	公民	科目等履修生	
	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	商業	商	会計
	山梨県	山梨県立吉田高等学校	国語	コミュニケーション	日本語
東海	静岡県	沼津市立愛鷹中学校	社会	法	法律
中国	広島県	広島市立広島中等教育学校	地理歴史	法	法律
	山口県	山口市立鴻南中学校	社会	法	法律
	山口県	山口県立西京高等学校	地理歴史	法	政治
九州・沖縄	宮崎県	宮崎県立都城西高等学校	地理歴史	法	法律
	鹿児島県	鹿児島高等学校	英語	科目等履修生	

令和 5 年度 図書館実習先一覧

	所在地	実 習 館 名	実 習 学 生		
			学 部	学 科	専 攻
関 東	茨城県	茨城県立図書館	文	歴史	
	茨城県	取手市立取手図書館	コミュニケーション	日本語	
	埼玉県	川越市立図書館	文	ジャーナリズム	
	千葉県	市川市中央図書館	文	日本文学文化	

	所在地	実 習 館 名	実 習 学 生		
			学 部	学 科	専 攻
関 東	東京都	町田市立図書館	文	歴史	
	東京都	筑波大学附属小学校	コミュニケーション	日本語	
	神奈川県	専修大学図書館	文	日本文学文化	

令和 5 年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実 習 館 名	実 習 学 生		
			学 部	学 科	専 攻
北 海 道 ・ 東 北	岩手県	岩手県立美術館	文	日本文学文化	
	宮城県	東北歴史博物館	文	歴史	
	福島県	南相馬市博物館	文	歴史	
関 東	茨城県	古河歴史博物館	商	会計	
	茨城県	茨城県立歴史館	文	歴史	
	茨城県	予科練平和記念館	文	歴史	
	栃木県	栃木県立博物館	文	歴史	
	栃木県	小山市立博物館	文	歴史	
	群馬県	群馬県立館林美術館	文	哲	
	群馬県	岩宿博物館	文	哲	
	埼玉県	行田市郷土博物館	法	法律	
	埼玉県	さいたま市青少年宇宙科学館	文	哲	
	埼玉県	朝霞市博物館	文	歴史	
	埼玉県	久喜市立郷土資料館	文	歴史	
	千葉県	袖ヶ浦市郷土博物館	コミュニケーション	日本語	
	東京都	進化生物学研究所	経済	生活環境経済	
	東京都	古代オリエント博物館	法	法律	
	東京都	郵政博物館	法	法律	
	東京都	進化生物学研究所	法	政治	

	所在地	実 習 館 名	実 習 学 生		
			学部	学科	専攻
関 東	東京都	日本民藝館	文	歴史	
	東京都	世田谷区立郷土資料館	文	歴史	
	東京都	家具の博物館	文	歴史	
	東京都	NHK 放送博物館	文	ジャーナリズム	
	東京都	昭和のくらし博物館	人間科	社会	
	神奈川県	理科ハウス	文	歴史	
	神奈川県	相模原市立博物館	文	歴史	
	神奈川県	横須賀市自然・人文博物館	文	歴史	
	神奈川県	観音ミュージアム	文	歴史	
甲 信 越	新潟県	新潟市美術館	文	歴史	
	長野県	辰野美術館	法	法律	
	長野県	松本市立博物館	文	日本文学文化	
北 陸	石川県	能美ふるさとミュージアム	文学研究科		歴史学
東 海	静岡県	静岡市立登呂博物館	経済	生活環境経済	
	静岡県	佐野美術館	文	歴史	
	静岡県	富士山かぐや姫ミュージアム	文	歴史	
近 畿 ・ 中 国	鹿児島県	田中一村記念美術館	文	日本文学文化	

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
令和元年度	平28 経済・経済	神奈川県立生田高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平30 経済・経済	学校法人緑丘学園（水戸英宏小学校）	常 勤	全 科
	平30 経済・経済	逗子市立沼間中学校	専 任	社 会
	平31 経済・経済	神奈川県立釜利谷高等学校	非 常 勤	公 民
	平31 経済・経済	藤沢市立白浜養護学校	常 勤	特 別 支 援
	平31 経済・経済	江東区立元加賀小学校	臨時的任用	全 科
	平28 経済・国際経済	学校法人小野学園（小野学園小学校）	専 任	全 科
	平31 経済・国際経済	学校法人武蔵野学院（武蔵野中学高等学校）	専 任	社会・地理歴史・公民
	平31 経済・国際経済	学校法人いわき秀英学園（いわき秀英中学校・高等学校）	常 勤	社会・地理歴史・公民
	平17 法・法律	豊島区立南池袋小学校	専 任	全 科
	平27 法・法律	埼玉県立秩父高等学校	専 任	公 民
	平28 法・法律	船橋市立丸山小学校	専 任	全 科
	平29 法・法律	江戸川区立小岩第五中学校	専 任	英 語
	平31 法・法律	学校法人横浜商科大学高等学校（横浜商科大学高等学校）	非 常 勤	地理歴史・公民
	平31 法・法律	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
	平31 法・法律	神奈川県立大船高等学校	期 限 付	地 理 歴 史
	平31 法・法律	中野区立江原小学校	専 任	全 科
	平31 経営・経営	学校法人大分高等学校（大分高等学校）	非 常 勤	商 業
	平31 経営・経営	中津川市立神坂中学校	専 任	社 会
	平22 商・マーケティング	山口県立宇都商業高等学校	専 任	商 業
	平27 商・マーケティング	市原市立若葉中学校	専 任	社 会
	平27 商・マーケティング	西東京市立向台小学校	専 任	全 科
	平29 商・マーケティング	大田区立志茂田中学校	非 常 勤	社 会
	平30 商・マーケティング	大島町立第二中学校	専 任	体 育
	平31 商・マーケティング	茨城県立石岡商業高等学校	非 常 勤	商 業
	平31 商・マーケティング	川崎市立白鳥中学校	非 常 勤	社 会
	平31 商・マーケティング	岐阜県立土岐商業高等学校	非 常 勤	商 業
	平31 商・マーケティング	学校法人玉名学園（専修大学玉名高等学校）	常 勤	地理歴史・公民
	平31 商・マーケティング	学校法人安部学院（安部学院高等学校）	専 任	商 業
	平24 商・会計	東京都立五日市高等学校	専 任	商 業
	平31 商・会計	高知県立清水高等学校	常 勤	商 業
	平28 文・日本語	大和市立引地台中学校	専 任	国 語
	平29 文・日本語	神奈川県立横浜明朋高等学校	専 任	国 語
	平29 文・日本語	南アルプス市立白根御勅使中学校	専 任	国 語
	平30 文・日本語	町田市立小山中学校	専 任	国 語
	平31 文・日本語	学校法人長野家政学園（長野女子高等学校）	常 勤	国 語
	平31 文・日本語	学校法人武蔵野学院（武蔵野中学高等学校）	専 任	国 語
	平31 文・日本語	学校法人白鷗女子学院（白鷗女子高等学校）	常 勤	国 語
	平31 文・日本語	神奈川県立横浜桜陽高等学校	専 任	国 語
	平31 文・日本語	埼玉県立朝霞高等学校（定時制）	専 任	国 語
	平28 文・日本文学文化	川崎市立白鳥中学校	専 任	国 語
	平31 文・日本文学文化	学校法人瀧野川女子学園（瀧野川女子学園中学高等学校）	専 任	国 語
	平31 文・日本文学文化	学校法人明德学園（相洋高等学校）	非 常 勤	国 語
	平31 文・日本文学文化	葉山町立葉山中学校	専 任	国 語
	平31 文・日本文学文化	常総市立水海道西中学校	常 勤	国 語
	平27 文・英語英米文	学校法人立花学園（立花学園高等学校）	専 任	英 語
	平29 文・英語英米文	大田区立清水窪小学校	専 任	全 科
	平30 文・英語英米文	東京都教育委員会	専 任	英 語
	平30 文・英語英米文	神奈川県立大井高等学校	専 任	英 語
	平31 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	英 語
	平31 文・英語英米文	神奈川県立弥栄高等学校	臨時的任用	英 語
	平31 文・英語英米文	学校法人関東国際学園（関東国際高等学校）	常勤（期限付）	英 語
	平31 文・英語英米文	学校法人東駿学園（御殿場西高等学校）	常 勤	英 語
	平31 文・英語英米文	神奈川県立城山高等学校	専 任	英 語
	平30 文・哲	板橋区立富士見台小学校	専 任	全 科
	平30 文・哲	坂東市立岩井第二小学校	専 任	全 科
	平31 文・哲	渋谷区立千駄谷小学校	専 任	全 科
	平31 文・哲	学校法人常磐大学（智学館中等教育学校）	常 勤	社会・地理歴史・公民
	平31 文・哲	横浜市立浦島丘中学校	専 任	社 会
	平29 文・歴史	千葉県立都賀中学校	専 任	社 会
	平30 文・歴史	学校法人日本体育大学（日本体育大学荏原高等学校） 学校法人戸坂学園（三田国際学園中学校）	非 常 勤	社会・地理歴史・公民
	平30 文・歴史	千葉県立市川高等学校	非 常 勤	公 民
	平31 文・歴史	東京都立足立特別支援学校	期 限 付	特 別 支 援
	平31 文・歴史	横浜市立釜利谷中学校	専 任	社 会
	平31 文・歴史	千葉県立津田沼高等学校	非 常 勤	地理歴史・公民
	平31 文・歴史	射水市立新湊中学校	専 任	社 会
	平31 文・歴史	豊橋市立高豊中学校	非 常 勤	社 会
	平26 ネットワーク情報・ネットワーク情報	島田市立金谷中学校	専 任	数 学
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	厚木市立清水小学校	臨時的任用	全 科
	平31 院文・修士	学校法人芝浦工業大学（芝浦工業大学柏中学校・高等学校）	常 勤	国 語
	平31 院文・修士	学校法人光明学園（相模原高等学校）	専 任	英 語
令和2年度	令2 経済・経済	長崎県立島原特別支援学校	非 常 勤	特 別 支 援
	令2 経済・経済	川崎市立生田中学校	常 勤	特 別 支 援
	令2 経済・国際経済	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平27 法・法律	山梨県立わかば支援学校	専 任	特 別 支 援
	平30 法・法律	牛久市立ひたち野うしく中学校	専 任	社 会
	平30 法・法律	あきる野市立増戸小学校	専 任	全 科
	令2 法・法律	熊谷市立三尻中学校	臨時的任用	社 会
	令2 法・法律	焼津市立小川中学校	非 常 勤	社 会
	平29 法・政治	東京都立紅葉川高等学校	専 任	地 理 歴 史

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
令和2年度	令2 経営・経営	学校法人佼成学園（佼成学園女子中学高等学校）	専 任	情 報
	平29 商・マーケティング	宮城県松島高等学校	専 任	商 業
	平30 商・マーケティング	学校法人長野家政学園（長野女子高等学校）	常 勤	地理歴史・公民
	平31 商・マーケティング	川崎市立菅中学校	専 任	社 会
	令2 商・マーケティング	学校法人荒井学園（新川高等学校）	常 勤	公 民
	令2 商・マーケティング	山梨県立富士北稜高等学校	常 勤	商 業
	令2 商・マーケティング	学校法人九里学園（浦和実業学園高等学校）	非 常 勤	商 業
	令2 商・マーケティング	横浜市立いずみ野中学校	臨時的任用	特 別 支 援
	平31 商・会計	高知県立大方高等学校	専 任	商 業
	令2 商・会計	千葉県立千葉商業高等学校	専 任	商 業
	令2 商・会計	埼玉県立幸手桜高等学校	専 任	商 業
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立秦野総合高等学校	専 任	保 健 体 育
	令2 文・日本語	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非 常 勤	国 語
	令2 文・日本語	学校法人横浜商科大学高等学校（横浜商科大学高等学校）	非 常 勤	国 語
	令2 文・日本語	川崎市立川崎高等学校	臨時的任用	国 語
	令2 文・日本語	学校法人東京女子学園（東京女子学園中学校・高等学校）	常 勤	国 語
	令2 文・日本語	四街道市立四街道中学校	専 任	国 語
	令2 文・日本文学文化	学校法人柏木学園（柏木学園高等学校）	常 勤	国 語
	令2 文・日本文学文化	横浜市立東山田中学校	専 任	国 語
	令2 文・日本文学文化	牧之原市立榛原中学校	専 任	国 語
	令2 文・日本文学文化	神奈川県立秦野曽屋高等学校	専 任	国 語
	平31 文・英語英米文	神奈川県立橋本高等学校	専 任	英 語
	令2 文・英語英米文	八王子市立川口中学校	臨時的任用	英 語
	令2 文・英語英米文	学校法人愛国学園（愛国高等学校）	専 任	英 語
	令2 文・英語英米文	八王子市立宮上中学校	専 任	英 語
	令2 文・英語英米文	静岡県立御殿場高等学校	常 勤	英 語
	令2 文・英語英米文	学校法人武陽学園（西武台新座中学校・西武台高等学校）	常 勤	英 語
	平30 文・歴史	習志野市立第二中学校	専 任	社 会
	平30 文・歴史	神奈川県立厚木商業高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平31 文・歴史	東京都立足立特別支援学校	専 任	特 別 支 援
	令2 文・歴史	学校法人沖永学園（帝京八王子中学校・高等学校）	専 任	社会・地理歴史・公民
	令2 文・歴史	学校法人國學院大學（國學院大學久我山中学高等学校）	非 常 勤	社会・地理歴史
	令2 文・歴史	富岡市立吉田小学校	常 勤	全 科
	令2 文・歴史	学校法人東海大学（東海大学付属静岡翔洋高等学校）	非 常 勤	地理歴史・公民
	令2 文・歴史	学校法人角川ドワンゴ学園（N高等学校）	専 任	地理歴史・公民
	令2 文・歴史	川島町立川島中学校	臨時的任用	社 会
	令2 文・歴史	裾野市立西中学校	常 勤	社 会
	令2 文・歴史	千葉市立小中台中学校	非 常 勤	特 別 支 援
	令2 文・歴史	千葉県立若松高等学校	常 勤	地 理 歴 史
	平28 文・環境地理	伊勢崎市立赤堀中学校	専 任	社 会
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	厚木市立清水小学校	専 任	全 科
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	株式会社ウィザース（第一学院高等学校）	常 勤	情 報
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	座間市立相模中学校	臨時的任用	数 学
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立生田東高等学校	非 常 勤	情 報
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	川崎市立総合科学高等学校（定時制）	臨時的任用	数 学
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	魚沼市立魚沼北中学校	常 勤	数 学
令和3年度	平30 院文・修士	会津若松市立第五中学校	専 任	英 語
	令2 院文・修士	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非 常 勤	国 語
	令2 院文・修士	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非 常 勤	国 語
	平29 経済・経済	神奈川県立白山高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平31 経済・経済	横須賀市立栗田小学校	専 任	全 科
	平31 経済・経済	目黒区立油面小学校	専 任	全 科
	令2 経済・経済	鹿嶋市立大野中学校	専 任	社 会
	令3 経済・経済	学校法人上田学園（上田西高等学校）	常 勤	地理歴史・公民
	令3 経済・経済	川崎市立枳形中学校	専 任	社 会
	令3 経済・経済	川崎市立はるひ野小学校	専 任	全 科
	令3 経済・経済	盛岡市立仙北中学校	専 任	社 会
	令3 経済・経済	山梨県立上野原高等学校	非 常 勤 (実習助手)	地理歴史・公民
	令3 経済・国際経済	学校法人三幸学園（飛鳥未来きずな高等学校 神戸キャンパス）	常 勤	地理歴史・公民
	令3 経済・国際経済	学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	常 勤	地理歴史・公民
	令3 経済・国際経済	学校法人常総学院（常総学院高等学校）	非 常 勤	地理歴史・公民
	平17 法・法律	神奈川県立津久井養護学校	専 任	特 別 支 援
	平31 法・法律	神奈川県立永谷高等学校	専 任	地 理 歴 史
	令3 法・法律	千葉県立京葉工業高等学校	専 任	地理歴史・公民
	令3 経営・経営	学校法人足利大学（足利大学附属高等学校）	非 常 勤	地理歴史・公民
	平27 商・マーケティング	岐阜県立郡上北高等学校	専 任	商 業
	令3 商・マーケティング	静岡県立未広中学校	常 勤	社 会
	令3 商・マーケティング	学校法人時任学園（樟南第二高等学校）	常 勤	商 業
	令2 文・日本語	学校法人九里学園（浦和実業学園中学校・高等学校）	常 勤	国 語
	令3 文・日本語	藤沢市立御所見中学校	臨時的任用	国 語
	令3 文・日本語	学校法人九里学園（浦和実業学園高等学校）	常 勤	国 語
	令3 文・日本語	秩父市立高篠中学校	専 任	国 語
	令3 文・日本語	学校法人明德学園（相洋高等学校）	非 常 勤	国 語
	令3 文・日本語	岡谷市立岡谷西部中学校	常 勤	国 語
	令3 文・日本語	長野県茅野高等学校	専 任	国 語
	令3 文・日本語	鴨川市立安房東中学校	専 任	国 語
	平31 文・日本文学文化	筑西市立下館南中学校	専 任	国 語
	令2 文・日本文学文化	大阪市立加美中学校	専 任	国 語
	令3 文・日本文学文化	横浜市立橘中学校	専 任	国 語

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
令和3年度	令3 文・日本文学文化	東京都教育委員会	専 任	国 語
	令3 文・日本文学文化	横浜市立東高等学校	専 任	国 語
	令3 文・日本文学文化	町田市立南中学校	産 休 代 替	国 語
	平30 文・英語英米文	学校法人山形電波学園（創学館高等学校）	常 勤	英 語
	令2 文・英語英米文	目黒区立第七中学校	専 任	英 語
	令3 文・英語英米文	神奈川県立橋本高等学校	専 任	英 語
	令3 文・英語英米文	小金井市立南中学校	専 任	英 語
	令3 文・英語英米文	学校法人向上学園（向上高等学校）	常 勤	英 語
	令3 文・英語英米文	埼玉県立上尾橋高等学校	非 常 勤	英 語
	平30 文・哲	相模原市立田名小学校	専 任	全 科
	平31 文・哲	神奈川県立大和西高等学校	専 任	地理歴史・公民
	平28 文・歴史	東京都立井草高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平31 文・歴史	佐倉市立西志津中学校	専 任	社 会
	令3 文・歴史	学校法人土佐女子高等学校（土佐女子中学高等学校）	常 勤	社会・地理歴史
	令3 文・歴史	網走市立第一中学校	専 任	社 会
	令3 文・歴史	山形県立遊佐高等学校	常 勤	地理歴史・公民
	令3 文・歴史	学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	常 勤	地理歴史・公民
	令3 文・歴史	板橋区立西台中学校	専 任	社 会
	令3 文・歴史	上越市立八千浦中学校	専 任	社 会
	令3 文・歴史	学校法人早稲田学園（わせがく高等学校 勝田台キャンパス）	常 勤	地 理 歴 史
	令3 文・歴史	大田区立赤松小学校	そ の 他 （教員支援員）	
	令3 文・歴史	八王子市立鍾水中学校	産 休 代 替	社 会
	令3 文・歴史	学校法人矢野学園（八王子実践高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
	令3 文・環境地理	青森県立北斗高等学校	非 常 勤	地理歴史・公民
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	富士吉田市立富士見台中学校	専 任	数 学
	令3 ネットワーク情報・ネットワーク情報	横須賀市立若戸中学校	非 常 勤	特 別 支 援
	令3 ネットワーク情報・ネットワーク情報	平塚市立大住中学校	臨時的任用	数学・特別支援
	令3 人間科・社会	大田区立田園調布小学校	そ の 他 （学校特別支援員）	
	令3 人間科・社会	相模原市立旭中学校	常 勤	社 会
	令3 人間科・社会	学校法人総持学園（鶴見大学附属中学校・高等学校）	非 常 勤	社会・地理歴史・公民
	令3 人間科・社会	島田市立六合中学校	常 勤	社 会
	平27 院文・修士	学校法人NHK 学園（NHK 学園高等学校）	非 常 勤	公 民
	平29 院文・修士	学校法人堀井学園（横浜翠陵中学・高等学校）	常 勤	英 語
	平31 院文・修士	小金井市立緑中学校	専 任	英 語
	平29 院文・博士	学校法人昭和学院（昭和学院秀英高等学校）	専 任	地 理 歴 史
令和4年度	令4 経済・経済	品川区立日野学園	専 任	社 会
	令4 経済・経済	相模原市立くぬぎ台小学校	常 勤	全 科
	平28 経済・国際経済	江戸川区立南篠崎小学校	専 任	全 科
	令2 経済・国際経済	神奈川県立住吉高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平28 法・法律	茨城県立多賀高等学校	専 任	地理歴史・公民
	令4 法・法律	綾瀬市立綾瀬中学校	臨時的任用	社 会
	令4 法・法律	あきる野市立五日市中学校	専 任	社 会
	令4 法・政治	七ヶ浜町立向洋中学校	常 勤	社 会
	令4 経営・経営	山形県立天童高等学校	専 任	商 業
	令2 商・マーケティング	横須賀市立鴨居中学校	常 勤	国 語
	令3 商・マーケティング	静岡市立清水第七中学校	専 任	社 会
	令4 商・マーケティング	浦添市立浦添中学校	非 常 勤	社 会
	令4 商・マーケティング	学校法人三幸学園（飛鳥未来高等学校 札幌キャンパス）	常 勤	公 民
	令4 商・会計	静岡県立浜松東高等学校	常 勤	商 業
	令4 商・会計	神奈川県立厚木商業高等学校	期 限 付	商 業
	令2 文・日本語	神奈川県立岸根高等学校	専 任	国 語
	令4 文・日本語	鎌倉市立御成中学校	常 勤	国 語
	令4 文・日本語	学校法人上野塾（東京高等学校）	非 常 勤	国 語
	令4 文・日本語	神奈川県立鶴見高等学校	専 任	国 語
	令4 文・日本語	学校法人関東国際学園（関東国際高等学校）	専 任	国 語
	令4 文・日本語	学校法人有明学園（有明高等学校）	常 勤	国 語
	令4 文・日本語	習志野市立第四中学校	臨時的任用	国 語
	令3 文・日本文学文化	八王子市立中山中学校	専 任	国 語
	令4 文・日本文学文化	富岡市立西中学校	期 限 付	国 語
	令4 文・日本文学文化	平塚市立神田中学校	常 勤	国 語
	令4 文・日本文学文化	神奈川県立藤沢清流高等学校	非 常 勤	国 語
	令4 文・日本文学文化	山形県立新庄北高等学校	常 勤	国 語
	令4 文・日本文学文化	埼玉県立草加かがやき特別支援学校中学部	臨時的任用	国語(全科)
	令4 文・日本文学文化	横浜市立日吉台中学校	専 任	国 語
	令2 文・英語英米文	学校法人翔光学園（横浜創学館高等学校）	常 勤	英 語
	令3 文・英語英米文	埼玉県立鳩ヶ谷高等学校	専 任	英 語
	令4 文・英語英米文	前橋市立城東小学校	専 任	英 語
	令4 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	英 語
	令4 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	英 語
	令4 文・英語英米文	高崎市立箕輪小学校	専 任	全 科
	令4 文・英語英米文	神奈川県立鶴見総合高等学校	専 任	英 語
	令4 文・英語英米文	鎌ヶ谷市立第三中学校	専 任	英 語
	令2 文・哲	柏崎市立田尻小学校	臨時的任用	音楽・書写
	令4 文・哲	海老名市立柏ヶ谷中学校	臨時的任用	特別支援(社会)
	令2 文・歴史	神奈川県立西湘高等学校	専 任	地 理 歴 史
	令4 文・歴史	神奈川県立新羽高等学校	常 勤	地理歴史・公民
	令4 文・歴史	東京都立蒲田高等学校	専 任	地 理 歴 史
	令4 文・歴史	諏訪市立上諏訪中学校	常 勤	社 会

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
令和4年度	令4 文・歴史	学校法人湘南学院（湘南学院高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	令4 文・歴史	埼玉県立羽生高等学校	常勤	地理歴史
	令4 文・歴史	千葉県立市川昂高等学校	専任	地理歴史・公民
	令4 文・歴史	御殿場市立御殿場中学校	常勤	社会
	令4 文・歴史	学校法人関東学園（関東学園大学附属高等学校）	専任	地理歴史
	令4 文・歴史	神奈川県立田奈高等学校	専任	地理歴史・公民
	令2 文・環境地理	柏崎市立第一中学校	専任	社会
	令4 文・環境地理	学校法人堀井学園（横浜創英中学・高等学校）	非常勤	社会・地理歴史
	令4 文・人文・ジャーナリズム	学校法人西海学園（西海学園高等学校）	期限付	地理歴史・公民
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	川崎市立高津高等学校	専任	数 学
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立愛川高等学校	専任	情報 学
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立生田高等学校	専任	数 学
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立舞岡高等学校	専任	情報 学
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	横浜市立南瀬谷中学校	期限付	数 学
	令3 人間科・社会	相模原市立旭中学校	専任	社会 会
	令4 人間科・社会	横浜市立神奈川中学校	臨時的任用	社会 会
	令4 人間科・社会	土浦市立都和中学校	専任	社会 会
	平24 院文・修士	学校法人駒澤大学（駒澤大学高等学校）	専任	地理歴史
	令2 院文・修士	千葉県立我孫子東高等学校	専任	英 語
	令4 院文・修士	学校法人鳥取学園（鳥取城北高等学校）	常勤	国 語
令和5年度	平31 経済・経済	神奈川県立保土ヶ谷支援学校	専任	特別支援
	令3 経済・経済	東京都立山崎高等学校	専任	公 民
	令4 経済・経済	学校法人宇都宮海星学園（星の杜中学校高等学校）	常勤	保健体育
	令5 経済・経済	福島県立喜多方桐桜高等学校	常勤	公 民
	令5 経済・経済	学校法人三幸学園（飛鳥未来高等学校 池袋キャンパス）	常勤	地理歴史・公民
	令5 経済・経済	学校法人君津学園（市原中央高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	令5 経済・経済	静岡県立西奈小学校	専任	全 科
	令5 経済・経済	学校法人金剛学園（桜林高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	令5 経済・経済	学校法人静岡理工科大学（星陵高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	平31 経済・国際経済	石川県立明和特別支援学校	専任	特別支援
	平25 法・法律	日野市立三沢中学校	専任	社 会
	平27 法・法律	札幌市立西岡小学校	専任	特別支援・全科
	令5 法・法律	神奈川県立上矢部高等学校	期限付	地理歴史・公民
	令5 法・法律	松阪市立西中学校	専任	社 会
	令5 法・法律	学校法人八洲学園（八洲学園高等学校 池袋キャンパス）	常勤	地理歴史
	令5 法・法律	神奈川県立伊勢原高等学校	専任	地理歴史
	令5 経営・経営	高知市立一宮中学校	臨時的任用	社会・特別支援
	令5 経営・経営	群馬県立二葉高等特別支援学校	専任	特別支援
	令5 商・マーケティング	山形県立米沢商業高等学校	専任	商 業
	令5 商・マーケティング	千葉県立君津商業高等学校	専任	商 業
	令5 商・マーケティング	静岡県立伊豆伊東高等学校	専任	商 業
	令5 文・日本語	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	専任	国 語
	令5 文・日本語	座間市立栗原中学校	専任	国 語
	令5 文・日本語	世田谷区立駒留中学校	産休代替	国 語
	令5 文・日本語	秦野市立南中学校	専任	国 語
	令5 文・日本語	大分市立滝尾中学校	専任	国 語
	令5 文・日本語	東京都立五日市高等学校	専任	国 語
	令5 文・日本語	神奈川県立大和東高等学校	専任	国 語
	令5 文・日本文学文化	川崎市立菅生中学校	期限付	国 語
	令5 文・英語英米文	神奈川県立上溝南高等学校	専任	英 語
	令5 文・英語英米文	大和市立上和田中学校	期限付	英 語
	令5 文・英語英米文	練馬区立光が丘第三中学校	専任	英 語
	令5 文・英語英米文	狛江市立狛江第三中学校	専任	英語・特別支援
	令5 文・哲	埼玉県立豊岡高等学校	常勤	地理歴史
令和6年度	令2 文・歴史	前橋市立桃瀬小学校	専任	社 会
	令3 文・歴史	下野市立国分寺中学校	専任	社 会
	令4 文・歴史	神奈川県立上鶴間高等学校	専任	地理歴史
	令4 文・歴史	埼玉県立久喜高等学校	専任	地理歴史
	令5 文・歴史	春日部市立緑中学校	期限付	社 会
	令5 文・歴史	横浜市立浜中学校	非常勤	社 会
	令5 文・歴史	学校法人長戸路学園（敬愛大学八日市場高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	令5 文・歴史	埼玉県立川越西高等学校	専任	地理歴史
	令5 文・歴史	大田区立蓮沼中学校	専任	社会・特別支援
	令5 文・歴史	ひたちなか市立田彦中学校	専任	社 会
	令5 文・歴史	川崎市立東橋中学校	非常勤	社 会
	令5 文・歴史	横須賀市立鴨居中学校	専任	社 会
	令5 文・歴史	横浜市立仲尾台中学校	常勤	社 会
	令5 文・環境地理	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	専任	地理歴史
	令5 文・環境地理	長野県中野西高等学校	常勤	地理歴史
	令5 文・環境地理	鎌倉市立大船中学校	非常勤	社 会
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	専任	数 学
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	座間市立相模中学校	専任	数 学
	令3 ネットワーク情報・ネットワーク情報	寒川町立旭が丘中学校	専任	数 学
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	横浜市立万騎が原中学校	専任	数 学
	令5 ネットワーク情報・ネットワーク情報	町田市立町田第二中学校	専任	数 学
	平29 人間科・社会	多摩市立落合中学校	専任	社 会
	令3 人間科・社会	東京都立矢口特別支援学校	専任	特別支援・社会
	令3 人間科・社会	柏崎市立北条小学校	専任	全 科
	令5 人間科・社会	厚木市立南毛利中学校	常勤	社 会
	令5 院文・修士	学校法人日本大学（日本大学櫻丘高等学校）	非常勤	地理歴史

1 就職先・職名・教科は、ご本人からの申し出により記載しています。

司書課程・司書教諭課程・学校司書課程主な就職先一覧

勤 務	先
川口市立中央図書館	八街市立図書館（千葉県）
（株）図書館流通センター	藤沢市総合市民図書館（神奈川県）
日本獣医生命科学大学附属図書館	東京都立図書館
信州大学附属図書館	長岡市立中央図書館（新潟県）
大和市立図書館	埼玉県立高等学校図書館
武蔵大学図書館	国士舘大学鶴川図書館
東京大学法学部図書館	追手門学院大学附属図書館
日外アソシエーツ（株）	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
見附市立図書館（新潟県）	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
ドルトン東京学園中等部・高等部ラーニングcommons	神奈川県立高等学校図書館
女子栄養大学図書館	横須賀市立中央図書館
公立はこだて未来大学情報ライブラリー	（株）三省堂書店
東京医科大学図書館	神奈川県立図書館
杉並区中央図書館（東京都）	江東区立亀戸図書館
横浜市立図書館	横浜総合リハビリテーションセンター図書室
キハラ（株）	法政大学多摩図書館
専修大学図書館	西東京市立図書館

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務	先
宮城県栗原市役所	逓信総合博物館
行田市郷土博物館	（財）山武都市文化財センター
下妻市ふるさと博物館	（株）乃村工藝社
さいたま市浦和くらしの博物館民家園	調布市郷土博物館
行方市玉造公民館（資料館）	日本民藝館
野田市郷土博物館	東京国際美術館
東京都埋蔵文化財センター	町田市フォトサロン
すみだ郷土文化資料館	栃木県立博物館
群馬県埋蔵文化財調査センター	山梨県立考古博物館
町立湯河原美術館	福井県立歴史博物館
高山市立郷土館	新発田市教育委員会
国際航業株式会社	入間市郷土博物館
鳥羽水族館	静岡県立登呂博物館
秋田県埋蔵文化財センター	松戸市立博物館
埼玉県埋蔵文化財センター	箱根美術館
栃木県埋蔵文化財センター	大牟田市三池カルタ・歴史資料館
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	東京都教育委員会
富岡市立美術博物館 福沢一郎記念美術館	青森県教育委員会
（東京）電力館	高知県教育委員会
MOA美術館	愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
九州国立博物館	八街市郷土資料館
高松市創造都市推進局文化財課	鳥取県教育委員会
臼杵市教育委員会	愛知県大口町歴史民俗資料館
飯田市教育委員会	新潟県教育委員会
佐渡市教育委員会	紅ミュージアム
（公財）メトロ文化財団	埼玉県立さきたま史跡の博物館
米沢市教育委員会	三重県教育委員会
宇都宮市教育委員会	鶴ヶ島市教育委員会
松本市教育委員会	ふじみ野市教育委員会
岡崎市教育委員会	太田市教育委員会
坂戸市立歴史民俗資料館	斎宮歴史博物館
石岡市教育委員会	石川県立美術館
狭山市教育委員会	日野市教育委員会
藤沢市生涯学習部郷土歴史課	国士舘大学国士舘史資料室
島根県教育委員会文化財課	横須賀市自然・人文博物館
深谷市教育委員会	千葉県教育庁教育振興部文化財課
（公財）横浜市ふるさと歴史財団	たましん歴史・美術館 歴史資料室

令和5年度 資格課程年間行事表

課 程		教 職 課 程		司 書 課 程 学校司書課程		司書教諭課程		学 芸 員 課 程	
月		行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次
4月	上 旬	教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）※一部3月 前 期 ・ 通 年 科 目 履 修 登 録 お よ び 履 修 修 正（全学年）							
		介護等の体験事前オリエンテーション	3・4						
	中 旬	実習希望校との内諾交渉	3						
	下 旬	介護等の体験事前講習会 教育実習事前ガイダンス	3・4 4						
5月	上 旬	教育実習 （5月～12月）	4						
	中 旬	介護等の体験代替措置 （5月中旬～9月中旬）	3・4					博物館実習事前ガイダンス	3・4
6月	上 旬	教育実習登録ガイダンス	3					博物館見学実習	3・4
		教育実習内諾書の提出	3						
	中 旬							博物館実習（館務実習）	3・4
	下 旬	教員免許状一括申請 ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （3年次までに司 書教諭の単位をす べて修得した者）	4	（6月～12月）	
7月	上 旬			図書館実習事前 ガイダンス	3・4				
	下 旬			前 期 試 験（全 学 年）					
8月	上 旬			夏期休暇（8月上旬～9月中旬）					
	下 旬			前 期 追 試 験（全 学 年）					
9月	中 旬			図書館実習 （8月～11月）	3・4				
	下 旬	後期科目履修登録および履修修正（全学年）							
9月		教員免許状授与申請書 確認ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （4年次で司書教 諭の科目を履修し た者）	4	館務実習登録ガイダンス （第1回）	2・3
10月	上 旬	教職公開講座（オンライン）	1～4						
11月	中 旬							館務実習登録ガイダンス （第2回）	2・3
	下 旬	教育学会	1～4					実習希望博物館との内諾交渉	2・3
12月	上 旬			図書館実習報告会 （オンライン）	1～4				
				司書課程就職（進 路）懇談会（オンラ イン）	1～4				
1月	下 旬	後 期 試 験（全 学 年）							
2月	中 旬			後 期 追 試 験（全 学 年）					
				学校司書課程講演 会・受講説明会 （オンライン）	1～4			館務実習承諾書の提出	2・3
3月	22日	教員免許状の交付	4						

令和5年度 教職相談実施結果

1. 実施期間

令和5年4月～令和6年1月

2. 実施日・担当者

場 所	担 当 者	相 談 日 (4月～8月)	相 談 日 (9月～1月)
生 田	肝付 俊朗	月曜日 12:30～14:30	—
		火曜日 10:45～12:00	火曜日 10:45～12:00
		金曜日 12:00～14:00	金曜日 12:00～14:00
	齋藤 博志	月曜日 11:30～13:00	月曜日 11:00～13:00
神 田	—	水曜日 12:00～14:00	—
オ ン ラ イ ン	肝付 俊朗	—	月曜日 12:00～14:00
		—	水曜日 12:00～14:00
	嶺井 正也	希望者と相談の上決定	希望者と相談の上決定

3. 実施結果

(1) 肝付 俊朗 文学部特任教授、齋藤 博志 商学部客員教授

①月別曜日別相談者数

場 所	曜 日 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合 計
生 田	月曜日	11	12	9	9	—	1	4	4	4	2	56
	火曜日	5	1	4	4	—	1	4	0	0	1	20
	金曜日	13	4	9	2	—	3	6	2	4	1	44
神 田	水曜日	2	1	2	5	—	0	4	1	1	1	17
合 計		31	18	24	20	—	5	18	7	9	5	137

②学部学科別相談者数

学部	経済				法		経営	商		文						ネットワ-ク	人間科		国際 コミュニケーション	科目等 履修生	合 計
学科	経済	現代 経済	生活環 境経済	国際 経済	法律	政治	経営	マーケティング	会計	日本語	日本文 学文化	英語 英米文	哲	歴史	環境 地理	ネットワ-ク	心理	社会	日本語		
人数	0	2 (2)	0	32 (7)	7 (1)	0	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0	35 (10)	0	3 (3)	36 (22)	1 (1)	3 (3)	0	4 (3)	1 (1)	10 (2)	137 (58)

※ () 内の人数は実数

③相談者学年

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	科目等履修生	合 計
人 数	6	36	32	53	10	137

④相談内容

内 容	一次試験対策	論文文対策	二次試験対策	志願書の書き方	教職への心構え	教育実習	大学院進学	面接練習	その他	合 計
人 数	8	63	16	12	17	7	2	13	31	169

※相談者数と相談内容数は一致せず。1回で複数の相談内容有。

⑤その他の内容

- ・免許取得教科について自信がないという理由での転科について
- ・教員採用試験と公務員試験や就職活動との両立について
- ・大学推薦や教職大学院への進学について
- ・よこはま教育実践ボランティアの課題への対応について
- ・県職（一般行政）採用試験にかかわる提出書類の書き方について（自己PRなど）
- ・本年度での卒業が難しい（未卒予定の4年次生で免許状取得見込みが令和6年度になる学生）から、教員採用試験に向けての取り組み方について→計画表を作成するよう指導
- ・学校ボランティア活動に参加したいがどのようにすれば参加できるか
- ・教育実習に向けての指導案作成について
- ・公立学校と私立学校の両方合格、勤務先選択の考え方について
- ・採用試験合格後の登録票作成や今後の対応等について
- ・私立学校採用選考に向けた模擬授業

⑥相談日数

場 所	曜 日 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合 計
生 田	月曜日	2	5	4	4	—	1	4	4	4	2	30
	火曜日	3	4	4	4	—	1	5	4	3	2	30
	金曜日	3	3	3	4	—	2	2	3	4	2	26
神 田	水曜日	3	4	4	4	—	1	4	5	3	2	30
合 計		11	16	15	16	—	5	15	16	14	8	116

(2) 嶺井 正也 専修大学名誉教授 ※福山文子経営学部准教授、真壁直人先生（前仙台市立中学校長）、宮坂恵美子先生と協働

①相談者数

4月～8月 相談者数（延べ） 約200名

在学生：4年生17名（経済学部現代経済学科、商学部マーケティング学科、文学部日本文学文化学科、英語英米文学科、歴史学科、人間科学部社会学科、国際コミュニケーション学部日本語学科）

卒業生：4名

9月～1月 相談者数（延べ） 約460名

在学生：3年生22名（経済学部生活環境経済学科、国際経済学科、商学部マーケティング学科、文学部日本文学文化学科、英語英米文学科、歴史学科、哲学科、ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科、人間科学部社会学科、国際コミュニケーション学部日本語学科）

2年生2名（経済学部生活環境経済学科、国際コミュニケーション学部日本語学科）

大学院生：1名

卒業生：1名

②内容

一次・二次試験対策 Zoom 学習会（面接・小論文・模擬授業を基本）

③実施回数

4月～8月 ・一次試験対策用問題送付 10回
・小論文指導・面接シート等点検 5回
・面接練習（Zoom）・模擬授業 18回
・教育時事関係学習会（Zoom）4回

9月～1月 ・個人面接練習（Zoom）2回
・教育時事関係学習会（Zoom）4回
・一次試験対策用問題送付 25回

④その他

今年度もバンビの会メンバー同士で自主的に面接練習を行っており、そこに卒業生がアドバイス役で参加していることを特筆しておきたい。

令和5年度 教員採用試験対策特別講義実施結果

・出願書類作成指導および個人面接指導（令和4年度より実施時期を4月・7月から2～3月に変更し、個人面接指導も行っている）

種 別	出 願 書 類 作 成		個 人 面 接			
実 施 日	第 1 回 令和 5 年 2 月 28 日(火) 10：00～11：00	第 2 回 令和 5 年 3 月 6 日(月) 14：00～15：00	第 1 回 令和 5 年 3 月 13 日(月) 10：00～16：00	第 2 回 令和 5 年 3 月 14 日(火) 10：00～16：00	第 3 回 令和 5 年 3 月 16 日(木) 10：00～16：00	第 4 回 令和 5 年 3 月 20 日(月) 10：00～15：30
実施場所	専修大学生田校舎 4号館2階 429 教室		専修大学生田校舎 4号館2階 423 教室・424 教室			専修大学生田校舎 4号館2階 423 教室
対 象 者	令和 5 (2023)年度実施 教員採用試験受験予定者					
担当講師	肝付 俊朗 文学部特任教授		肝付 俊朗 文学部特任教授 ・ 齋藤 博志 商学部客員教授			肝付 俊朗 文学部特任教授
内 容	(1) 出願書類の作成について (2) 教員採用試験に臨む心構え		30 分程度の個人面接指導			
持 ち 物	教育委員会等に提出する願書、面接票等					
参 加 者	46 名（第 1 回または第 2 回のいずれか）		41 名（全 4 回のうちいずれか）			
主 催	エクステンションセンター・教職課程協議会					

・教員採用試験二次試験対策特別講義

実 施 日	第1回 令和5年8月1日(火) 10:00～15:30	第2回 令和5年8月2日(水) 10:00～15:30	第3回 令和5年8月4日(金) 10:00～15:30	第4回 令和5年8月18日(金) 11:00～17:00
実施場所	専修大学生田校舎 4号館2階 420教室・426教室・427教室・ 428教室・429教室	専修大学生田校舎 4号館2階 420教室・426教室・427教室・ 428教室・429教室	専修大学生田校舎 4号館2階 420教室・426教室・428教室	専修大学神田校舎 1号館1階 103教室・104教室・105教室・ 106教室・107教室
対 象 者	今年度（令和5(2023)年度）教員採用 試験受験者 (私学受験者、卒業生も受講可)	今年度（令和5(2023)年度）教員採用 試験受験者 (私学受験者、卒業生も受講可)	今年度（令和5(2023)年度）教員採用 試験受験者 (教員採用試験対策講座受講生以外およ び卒業生も受講可)	今年度（令和5(2023)年度）教員採用 試験受験者 (私学受験者、卒業生も受講可)
担当講師	①肝付 俊朗 文学部特任教授 ②齋藤 博志 商学部客員教授 ③角田真紀子 経済学部准教授 ④片桐 一彦 文学部教授	①肝付 俊朗 文学部特任教授 ②齋藤 博志 商学部客員教授 ③砂原 由和 ネットワーク情報学部 教授 ④小峰 直史 人間科学部教授	①長船 孝明 経済学部兼任講師 (昭和53年 商学会会計学科卒) (元東京都立荒川商業高等学校長) ②矢吹 芳洋 経済学部教授 ③福山 文子 経営学部准教授	①肝付 俊朗 文学部特任教授 ②齋藤 博志 商学部客員教授 ③佐藤 由美 商学部教授 ④池田 宏史 商学部講師
内 容	(1) 面接票、指導案等の作成指導 (2) 個人面接、集団面接、集団討論、 集団協議、場面指導、模擬授業	(1) 面接票、指導案等の作成指導 (2) 個人面接、集団面接、集団討論、 集団協議、場面指導、模擬授業	(1) 主に東京都の教育に求められる教 師像など簡単な講義（東京、千葉、 神奈川、埼玉の二次試験のポイント、 評価方法等） (2) 個別指導（主に個人面談）	(1) 個人面接 (2) 集団面接、集団討論、場面指導、 模擬授業
提 出 物	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する 面接票、指導案等	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する 面接票、指導案等	特になし	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する 面接票、指導案等
参 加 者	14名（内卒業生1名）	10名（内卒業生1名）	15名（内卒業生0名）	16名（内卒業生0名）
主 催	教職課程協議会・ エクステンションセンター	教職課程協議会・ エクステンションセンター	エクステンションセンター・ 教職課程協議会	教職課程協議会・ エクステンションセンター

・教員採用試験対策特別講義

実 施 日	第1回 令和5年7月8日(土) 10:00～12:30	第2回 令和5年11月25日(土) 13:30～16:00
実施場所	専修大学生田校舎 1号館2階 122教室	専修大学生田校舎 1号館2階 122教室
対 象 者	教員採用試験受験予定者 1年次～3年次 (教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可)	教員採用試験受験予定者 1年次～3年次 (教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可)
担当講師	伊藤 雅夫 先生(昭和54年 経済学部経済学科卒) 江東区教育委員会教育支援センター主任相談員 (元江東区立第二砂町中学校長)	TAC 講師 樋口 良太 氏(TAC 教員講座 講師) 令和5(2023)年度教員採用試験最終試験合格者 ①土井 彩加 (東京都教育委員会 中学・高等学校国語 文学部日本文学文化学科4年) ②中村 駿介 (千葉県・千葉市教育委員会 中学・高等学校地理歴史 文学部歴史学科4年) ③瀬原 崇永 (埼玉県教育委員会 高等学校数学 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年)
内 容	(1) 自己紹介および現在の学校現場について (2) 求められる教師像(役職の立場から思うこと) (3) 人物試験(二次試験)の学習の仕方とその実際	(1) TAC 講師から各教育委員会の教員採用試験の概要説明 (2) 令和5(2023)年度教員採用試験最終試験合格者の体験談および質疑応答 (司会:森田 司郎 法学部教授)
参 加 者	21名（内卒業生0名）	16名（内卒業生0名）
主 催	エクステンションセンター・教職課程協議会	エクステンションセンター・教職課程協議会

令和5年度 教員採用候補者選考試験（教員採用試験）説明会開催結果

実 施 日	事 項	開催形態	参加者数 (事後視聴者数)
令和5年4月13日(木) 16:40~18:00	神奈川県公立学校 教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	9名
令和5年11月22日(水) 18:15~19:30		オンライン	12名
令和5年4月20日(木) 16:40~18:00	千葉県公立学校 教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	4名
令和5年11月27日(月) 16:40~18:00		オンライン	7名 (1名)
令和5年11月17日(金) 16:40~17:40	東京都公立学校 教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	9名
令和5年4月14日(金) 16:40~18:00	相模原市立学校 教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	3名
令和5年11月20日(月) 16:40~18:00		オンライン	4名 (1名)
令和5年4月28日(金) 16:40~18:00	川崎市立学校 教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	1名
令和5年11月24日(金) 16:40~18:00		オンライン	7名 (4名)
令和5年4月25日(火) 16:40~18:00	横浜市立学校 教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	3名
令和5年12月1日(金) 16:40~18:00		オンライン	10名 (4名)
令和5年4月27日(木) 17:00~18:00	埼玉県公立学校 教員採用候補者選考試験説明会	対 面	7名
令和5年11月29日(水) 16:40~18:00		オンライン	4名
令和5年5月19日(金) 16:40~17:40	新潟県公立学校 教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	3名
令和5年12月7日(木) 16:40~18:00	私立学校 教員採用試験説明会	オンライン	21名 (8名)

1 ()内の事後視聴者は、内数。

2 後期に開催した千葉県、相模原市、川崎市、横浜市、私立学校の教員採用説明会は、動画(Zoom録画)にて事後視聴を実施した。

令和5年度 教職公開講座開催結果

- 開催日 令和5年10月7日(土)
- 時間 14時00分～17時10分
- 開催形態 Google Classroom「2023 教職公開講座」および Google Meet によるオンライン開催
- 参加人数 第1部：251名 第2部：240名
- 内容

(1) 今の教育現場について、現職教員とのディスカッション(専修大学OB・OG)

講 師 (卒業年・学部・学科)	勤 務 先	科 目
勝 野 未 彩 先生 (令和3年3月 文学部 日本語学科 卒業)	長野県茅野高等学校	国 語
大 友 剛 先生 (平成27年3月 文学部 英語英米文学科 卒業)	神奈川県立上鶴間高等学校	英 語
森 野 愛 水 先生 (令和4年3月 法学部 法律学科 卒業)	あきる野市立五日市中学校	社 会
後 藤 優 弥 先生 (令和5年3月 法学部 法律学科 卒業)	神奈川県立伊勢原高等学校	地歴・公民
浅 岡 里 穂 先生 (令和2年3月 商学部 会計学科 卒業)	千葉県立千葉商業高等学校	商 業
片 倉 菜 那 先生 (平成29年3月 ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科 卒業)	横浜市立上白根北中学校	情報・数学
小 倉 啓 人 先生 (令和5年3月 経済学部 経済学科 卒業)	静岡市立西奈小学校	小学校

(2) 求められる教師像

講 師	川崎市立川中島中学校長 松 崎 宏 行 先生(昭和59年3月 経済学部 経済学科 卒業)
-----	--

(3) タイムテーブル

	時 間	内 容	形 態
第1部 14:00 ～ 16:00	14:00～14:05	全体のスケジュール確認および講師紹介	Google Meet
	14:05～14:50 (45分)	ー今の教育現場についてー	
		国 語 勝 野 未 彩 先生	Google Meet
		英 語 大 友 剛 先生	Google Meet
		社 会 森 野 愛 水 先生 地歴・公民 後 藤 優 弥 先生	Google Meet
		商 業 浅 岡 里 穂 先生	Google Meet
		情報・数学 片 倉 菜 那 先生	Google Meet
		小 学 校 小 倉 啓 人 先生	Google Meet
	14:50～15:15	休憩	
	15:15～16:00 (45分)	ー現職教員とのディスカッションー	
		国 語 勝 野 未 彩 先生	Google Meet
		英 語 大 友 剛 先生	Google Meet
		社 会 森 野 愛 水 先生 地歴・公民 後 藤 優 弥 先生	Google Meet
		商 業 浅 岡 里 穂 先生	Google Meet
		情報・数学 片 倉 菜 那 先生	Google Meet
		小 学 校 小 倉 啓 人 先生	Google Meet
第2部 16:00 ～ 17:10	16:00～16:10	休憩	
	16:10～17:10 (60分)	ー求められる教師像ー 川崎市立川中島中学校 校 長 松 崎 宏 行 先生	Google Meet

令和 5 年度 司書課程図書館実習報告会開催結果

開催日 令和 5 年 12 月 2 日 (土)
時間 15:00 ~ 16:20
開催形態 Google Meet によるオンライン開催
参加人数 17 名
内容: 今年度、図書館実習を行った 7 名の学生が、実習期間中に経験した業務の概要や全体を通しての感想を報告した。報告者はそれぞれ、選書業務やレファレンスサービスをはじめ、授業で学んだ様々な図書館業務や、利用者と接した際の印象的な出来事などの経験を振り返り、参加者と共有した。

令和 5 年度 司書課程就職（進路）懇談会開催結果

開催日 令和 5 年 12 月 2 日 (土)
時間 16:30 ~ 17:30
開催形態 Google Meet によるオンライン開催
参加人数 17 名
内容: 神奈川県立図書館に勤務されている河村知佳氏に、「司書の仕事と採用試験」というテーマで話していただいた。はじめに、採用後に配属された県立高校の図書館（学校図書館）で行った様々な業務について、数多くの写真とともに説明していただき、生徒や先生たちとの関わりを楽しむ・やりがいを感じつつ、学校司書の存在意義について考えながら業務に取り組んでいた経験を伺った。次に、異動後の県立図書館（公共図書館）における、レファレンスカウンターでの業務、講座の企画運営、デジタルアーカイブ等の業務について説明していただいた。利用者や他の職員の方々とのコミュニケーション等を通じて、日々学び続けている状況であるとのことであった。最後に、ご自身の採用試験の経験について、情報収集とともに、様々なことに興味をもつこと、諦めないことが大事であるなど、率直に語っていただいた。参加者から出された質問に対しても、丁寧に回答していただいた。

令和 5 年度 学校司書課程講演会・受講説明会開催結果

開催日 令和 6 年 2 月 16 日 (金)
時間 18:00 ~ 19:30
開催形態 Zoom によるオンライン開催
講師 勝亦あき子 氏（東京大学教育学部附属中等教育学校 前司書教諭）
情報提供 野口 武悟（専修大学文学部教授）
受講説明 荻原 幸子（専修大学経営学部教授）
参加人数 35 名
内容: 講師の勝亦氏から「学校図書館の「共創」～図書館の真の居心地のよさをチームでつくる」というテーマで、東京大学教育学部附属中等教育学校図書館の、館内の状況と学校司書・司書教諭の役割について、講演をしていただいた。

- ・学校司書により、きめ細やかな創意工夫による展示や、リサイクル品を活用した家具などを配置したレイアウトによって居心地の良い雰囲気が創り出されている一方で、図書館の基本に沿った資料の組織化・配架も行われており、その両方が必要であること
- ・司書教諭は学校司書を応援する立場にあり、図書館の「外」の状況を、学校司書が担う図書館「内」に持ち込む役割があること
- ・司書教諭の経験を通して「サーバント・リーダーシップ」が培われたと考えていること

などの、様々な示唆に富む内容が数々の写真とともに説明され、そして最後に、学校図書館が進化し続けることの重要性を指摘された。講演内容に関する参加者との質疑応答の後は、野口武悟教授が「学校図書館をめぐる近年の動向」というテーマで、「第五次子どもの読書活動推進基本計画」における「多様な子どもたちの読書機会の確保」「デジタル社会に対応した読書環境の整備」について、現在の課題を踏まえて解説した。続いて、荻原幸子教授が専修大学における科目等履修生制度を紹介した。全国各地からの参加者（本学の学生を含む）を得て滞りなく終了した。開催後には、参加者に対する簡単なアンケートを実施した。

令和5年度 学芸員課程 「博物館実習（学内）」の展示実習報告

生田校舎2号館の博物館実習室・展示実習室を活用し、学内実習授業の一環として、実習生による展示実習および展示の一般公開を行なっている。令和5年度は下記のとおり、授業の復習も含めた実践的な展示実習を行ない、一般公開した。また「博物館展示論」の授業の中で、公開展示見学の機会を設けた。

前期公開日 令和5年7月24～27日 11:30～13:30

・テーマ：「江戸時代の柄鏡」

・見学者：36名

後期公開日 令和6年1月9～12日 11:30～13:30

・テーマ：「学芸員課程を紹介します」

・見学者：74名（「博物館展示論」履修者を含む。）

「博物館実習」履修者：38名



展示の準備（博物館実習室）



公開展示の様子（展示実習室）

令和5年度 資格課程活動報告

日 付	事 項	開催形態・場所	参加者
令和5年 5月13日	令和5年度 全国大学博物館学講座協議会 全国委員会	オンライン	職員1名
5月14日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2023年度定期総会、東京地区教職課程研究連絡協議会との合同研究大会及び 2023年度研究部会総会、第1回研究部会	オンライン	教員1名 職員1名
5月20日	一般社団法人全国私立大学教職課程協会 第42回研究大会・令和5年度定時社員総会	オンライン	教員1名 職員1名
5月27日	教員免許事務担当者講習会（大学教務実践研究会）	オンライン	職員1名
6月15日	中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会教科に関する専門的事項に関するワーキンググループ（技術・情報）（傍聴）	オンライン	職員1名
6月16日	令和5年度 スクールライフサポーター派遣事業連絡会議（神奈川県教育委員会）	対面・神奈川県立総合教育センター	教員1名 職員1名
6月17日	2023年度第1回 京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会教員免許事務勉強会	オンライン	職員1名
6月23日	令和5年度 第1回横浜市 大学連携・協働協議会（横浜市教育委員会）	オンライン	教員1名 職員3名
6月24日	令和5年度 全国大学博物館学講座協議会全国大会	対面・東京女子大学	職員1名
6月24日	令和5年度 都内私立大学教職課程事務担当者懇談会研究会	オンライン	職員5名
7月1日	令和5年度 資格課程懇談会	対面・専修大学	教員26名 (内兼任14名) 職員6名
7月8日	教務系職員初任者向け講習会（大学教務実践研究会セミナー）	オンライン	職員1名
7月21日	中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会教科に関する専門的事項に関する検討委員会（第2回）（傍聴）	オンライン	職員1名
9月2日	2023年度第2回 京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会教員免許事務勉強会	オンライン	職員1名
9月23日	教員免許事務担当者講習会（大学教務実践研究会）	オンライン	職員1名
9月28日	中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会（第137回）（傍聴）	オンライン	職員1名
10月3日	令和5年度 教職課程認定基準等の改正に関する事務担当者説明会（文部科学省）	オンライン	職員6名
10月21日	教務系事務部門中堅者向け講習会（大学教務実践研究会）	オンライン	職員2名
10月28日	第59回（令和5年度） 都内私立大学教職課程事務担当者懇談会総会	対面・大正大学	職員5名
11月6日	令和6年度「ちば！教職たまごプロジェクト」大学担当者説明会	対面・千葉県総合教育センター	教員1名 職員1名
11月18日	全国私立大学教職課程協会 2023年度研究交流集会	アーカイブ 事後視聴	教員1名 職員1名
11月18日	東京地区教職課程研究連絡協議会情報交換会	オンライン	教員1名 職員1名
11月25日	令和5年度 全国大学博物館学講座協議会東日本部会総会	対面・成城大学	教員1名 職員1名
12月2日	2023年度第3回 京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会教員免許事務勉強会	オンライン	職員1名
12月10日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2023年度第1回研究懇話会	オンライン	教員1名
12月16日	教務課題検討フォーラム（大学教務実践研究会）	オンライン	職員1名
12月20日	令和5年度 教職課程認定等に関する事務担当者説明会（文部科学省）	オンライン	職員6名
令和6年 2月10日	教員免許事務担当者講習会（大学教務実践研究会）	オンライン	職員1名
2月24日	令和5年度 神奈川・山梨地区私立大学教職課程研究連絡協議会	対面・鶴見大学	教員1名 職員4名

令和 5 年度 資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経済学部	教授	矢吹 芳洋	社会科・公民科教育法 1・2
経済学部	准教授	角田真紀子	教育相談の理論と方法
法 学 部	教授	坂詰 智美	法律学 a・b
法 学 部	教授	森田 司郎	教育課程論
法 学 部	准教授	小場瀬琢磨	法律学 a・b
経営学部	准教授	福山 文子	公教育制度論
商 学 部	教授	佐藤 由美	社会科・地歴科教育法 1・2
商 学 部	講師	池田 宏史	商業科教育法 1・2
文 学 部	教授	赤坂 郁美	自然地理学概論 b
文 学 部	教授	今井 上	日本文学通史 a
文 学 部	教授	江崎 雄治	人文地理学概論 b
文 学 部	教授	片桐 一彦	英語科教育法 1・2
文 学 部	教授	上村 妙子	英語科教育法 3・4
文 学 部	教授	苅谷 愛彦	自然地理学概論 a
文 学 部	教授	鬼嶋 淳	日本史 a・b
文 学 部	教授	佐藤 岳詩	倫理学 a・b
文 学 部	教授	薦尾 和宏	国語科教育法 2
文 学 部	教授	貫 成人	哲学 a・b
文 学 部	教授	廣瀬 玲子	中国文学講義 a・b
文 学 部	教授	松尾 容孝	人文地理学概論 a
文 学 部	教授	山口 政幸	日本文学通史 b
文 学 部	教授	米村みゆき	日本文学概論 b
文 学 部	准教授	松尾 治	書道科教育法 1・2
文 学 部	准教授	三河 雅弘	地誌学 a・b
文 学 部	特任教授	肝付 俊朗	教職入門
ネットワーク情報学部	教授	砂原 由和	教育方法論(情報通信技術の活用を含む)
ネットワーク情報学部	准教授	望月 俊男	情報科教育法 1・2
人間科学部	教授	小峰 直史	生徒・進路指導論
人間科学部	教授	鶴 理恵子	社会学原論 b
人間科学部	准教授	駒崎 道	社会学原論 a
国際コミュニケーション学部	教授	山下 直	国語科教育法 1・2
経済学部	兼任講師	長船 孝明	商業科教育法 1・2
経済学部	兼任講師	小島 道生	特別支援教育論
経済学部	兼任講師	崔 玉芬	心身の発達と学習の過程
経済学部	兼任講師	杉山比呂之	社会科・地歴科教育法 1・2
経済学部	兼任講師	宮崎三喜男	社会科・公民科教育法 1・2
法 学 部	兼任講師	金ヒョン淑	教育課程論
法 学 部	兼任講師	松村 芳明	法律学 a・b
法 学 部	兼任講師	山口 晶子	教育原論
経営学部	兼任講師	青柳 翔也	教育原論
経営学部	兼任講師	黒木 弘司	情報と職業
商 学 部	客員教授	齋藤 博志	教職実践演習(中・高)
商 学 部	兼任講師	五十嵐卓司	社会科・公民科教育法 1・2
商 学 部	兼任講師	生田 清人	地理学 a・b
商 学 部	兼任講師	泉 貴久	地理学 a・b
商 学 部	兼任講師	小川 晴久	職業指導 a・b
商 学 部	兼任講師	加瀬きよ子	商業科教育法 1・2
商 学 部	兼任講師	進士 勇介	職業指導 a・b

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
商 学 部	兼任講師	前川 明彦	人文地理学概論 a・b
商 学 部	兼任講師	松岡 路秀	教職入門
商 学 部	兼任講師	皆川 雅樹	日本史 a・b
文 学 部	兼任講師	新井 智一	地誌学 a・b
文 学 部	兼任講師	内門 亮子	書道 a
文 学 部	兼任講師	太田 弘	自然地理学概論 a・b
文 学 部	兼任講師	小笠原 強	外国史 a・b
文 学 部	兼任講師	後藤 康行	日本史 a・b
文 学 部	兼任講師	佐藤 雅男	倫理学 a・b
文 学 部	兼任講師	寺戸 淳子	宗教学 a・b
文 学 部	兼任講師	富永 裕子	英語科教育法 1・2
文 学 部	兼任講師	根本 欣哉	国語科教育法 3・4
文 学 部	兼任講師	長谷川 徹	倫理学 a・b
文 学 部	兼任講師	福島 大我	外国史 a
文 学 部	兼任講師	三橋 浩志	地誌学 a・b
文 学 部	兼任講師	山田 朋子	外国史 a・b
文 学 部	兼任講師	山本 幸博	書道 a・b
ネットワーク情報学部	兼任講師	大塚慎太郎	数学科教育法 1・2
人間科学部	兼任講師	渡辺 彰規	社会学原論 a・b
国際コミュニケーション学部	兼任講師	初谷 和行	国語科教育法 3・4
国際コミュニケーション学部	兼任講師	劉 志偉	日本語学入門 a・b

《司書・司書教諭・学校司書》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教授	大曾根 匡	図書館情報技術論
経営学部	教授	荻原 幸子	図書館概論
文 学 部	教授	野口 武悟	図書館情報資源概論
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法 学 部	兼任講師	蟹瀬 智弘	情報サービス演習 2
経営学部	兼任講師	青山比呂乃	学習指導と学校図書館
経営学部	兼任講師	斎藤 純	学校図書館メディアの構成
経営学部	兼任講師	下山佳那子	情報資源組織演習 2
経営学部	兼任講師	鍋田 拓哉	情報資源組織論
経営学部	兼任講師	渡辺 暢恵	学習指導と学校図書館
文 学 部	兼任講師	勝亦あき子	読書と豊かな人間性
文 学 部	兼任講師	畔田 暁子	児童サービス論
文 学 部	兼任講師	中川 恭一	図書館制度・経営論
文 学 部	兼任講師	中島 玲子	情報サービス演習 2
文 学 部	兼任講師	中和 正彦	図書館情報資源特論
文 学 部	兼任講師	成松 一郎	図書館基礎特論
ネットワーク情報学部	兼任講師	榎本裕希子	情報資源組織演習 1・2
ネットワーク情報学部	兼任講師	竹村 和子	学校図書館メディアの構成
ネットワーク情報学部	兼任講師	日向 良和	情報サービス演習 1

《学芸員》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教授	内田 欽三	博物館概論
文 学 部	教授	高島 裕之	博物館実習
経営学部	兼任講師	水本 和美	博物館資料保存論



アトリウム（生田キャンパス 9 号館）

編集後記 ～資格課程年報編集委員より～

新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し漸く以前のキャンパス風景が戻ってきました。資格課程に関する各種実習や学内の年間活動もコロナ禍前にほぼ戻りました。介護等の体験だけが教材学修となりました。次年度以降の再開が待たれます。

学生のみなさんには、この『パッソ ア パッソ』を手に執り多くの経験談に目を通してほしいと思います。なぜなら、そこには二～四週間の実習体験談や年次を超えての採用試験対策、また長年教育の現場に携わってこられた方々の生の声など、皆さんが参考・模範にしてほしい言葉がこの一冊に凝縮しているからです。資格取得にむけて、心の準備・覚悟や共に努力する仲間の大切さ、先輩方の存在の有難さを感じることでしょう。『パッソ ア パッソ』26号は30名もの方にご執筆いただきました。厚くお礼申し上げます。

また後半のデータ編には本年度の実績やこれまでの活動履歴も掲載されています。皆さんの足跡ものちのち『パッソ ア パッソ』に刻まれることでしょう。また教務課・資格課程係には四半世紀にわたる様々な情報が蓄積されています。大いに利用して下さい。

教職課程協議会委員長・森田司郎先生が巻頭言でご紹介くださった、学習指導要領前文「(前略)一人一人の児童(生徒)が、(中略)多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする」、この教育方法は教職に限らず今日的な課題とも言えます。自身の生活習慣・生き方にも目を向けなければならないことだと思います。学生の皆さん、一日一日を大切に夢実現のため一步一步(イタリア語: Passo a Passo)進んでいってください。

編集委員長

松尾 治

編集委員

佐藤 由美

小峰 直史

野口 武悟

高島 裕之

令和5年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 令和6年3月31日

編集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-7163

神田校舎 教務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

TEL 03-3265-5843 FAX 03-3265-7084

URL <https://www.senshu-u.ac.jp/education/shikaku/>

印刷 有限会社米田印刷

〒140-0002 東京都品川区東品川1-21-4

TEL 03-3474-9791

パンパツ

専修大学